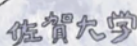


## 佐賀大学キャンパスマスタープラン 2022



**SAGA UNIV.**





## はじめに

佐賀大学は、6学部6研究科を備えた総合大学であり、海洋エネルギー研究センターをはじめとする研究施設のほか、キャンパス内に美術館を有する特色ある国立大学です。

本学では、これまで平成28年に策定したキャンパスの現状や整備計画等を取りまとめた「佐賀大学キャンパスマスタープラン2016」に基づき、大学の基本方針や中期目標・中期計画、国の施設整備における方針等を踏まえて施設整備を進めてまいりました。

今回策定する「佐賀大学キャンパスマスタープラン2022」では、本学が高等教育機関として進むべき「これから」を示す羅針盤として令和2年4月に策定した「佐賀大学のこれからービジョン2030ー」や第4次中期目標等に重点を置きながら、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指していくべく、所要の改訂を行っております。

また、令和3年3月に文部科学省で策定された「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度）」では、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」へ転換することが今後の国立大学が目指す施設整備の方向性として位置づけられており、本学においても、地域・産業界との共創が可能なキャンパスを目指すべく、未来社会（Society5.0）の実現やキャンパスのカーボンニュートラル化に必要な要素も計画に取り入れながら、持続可能なキャンパスづくりを行いたいと考えています。

本資料は、本学が有する施設等の概要のほか、本庄キャンパス及び鍋島キャンパスの施設整備状況、またゾーニング等の将来計画等を網羅した内容となっています。本計画策定以降も、大学の構成員の知恵とアイデアを結集し、大学の機能強化や個性・特色の伸長につながるよう、キャンパスマスタープランやその実行計画を充実させながら、キャンパスを創造的に再生していきたいと考えています。併せて、地域の皆様からの要望や率直なご意見をお待ちしています。

「佐賀大学キャンパスマスタープラン2022」に基づいたキャンパスの創造的再生により、キャンパスの価値を最大限に引き出し、社会に開かれることで、「地域・社会とともに発展し続ける大学」を目指します。関係のみなさまのご支援・ご協力のほどよろしくお願いします。



佐賀大学学長 児玉 浩明

# CONTENTS

|      |      |
|------|------|
| はじめに | ・・・1 |
|------|------|

## 第1章 基本的事項

|       |                         |       |
|-------|-------------------------|-------|
| ■ 1-1 | キャンパス概要                 | ・・・6  |
| ■ 1-2 | 佐賀県中心部とキャンパスとの関係        | ・・・8  |
| ■ 1-3 | キャンパスマスタープランについて        |       |
|       | (1) 目的                  | ・・・10 |
|       | (2) キャンパスマスタープランの位置づけ   | ・・・10 |
|       | (3) 対象範囲                | ・・・12 |
|       | (4) 目標年次と更新周期           | ・・・12 |
| ■ 1-4 | 佐賀大学のアカデミックプラン          |       |
|       | (1) 佐賀大学憲章              | ・・・13 |
|       | (2) 佐賀大学のこれから-ビジョン2030- | ・・・14 |
|       | (3) 第4期中期目標             | ・・・15 |
| ■ 1-5 | 国立大学法人等施設整備5か年計画        | ・・・16 |
| ■ 1-6 | 基本方針                    | ・・・17 |
| ■ 1-7 | 整備方針・活用方針               | ・・・18 |
| ■ 1-8 | イノベーション・コモンズ（共創拠点）      | ・・・21 |
| ■ 1-9 | カーボンニュートラル・キャンパス        | ・・・24 |

## 第2章 本庄キャンパス

|       |                 |     |                      |
|-------|-----------------|-----|----------------------|
| ■ 2-1 | 概要              |     |                      |
|       | (1) 概要          | …26 |                      |
|       | (2) 変遷          | …32 |                      |
| ■ 2-2 | 現状              |     |                      |
|       | (1) ゾーニング       | …34 | (6) ユニバーサルデザイン …39   |
|       | (2) 動線          | …35 | (7) サイン …40          |
|       | (3) パブリックスペース   | …36 | (8) アート …41          |
|       | (4) 駐車場（駐輪場）    | …37 | (9) 基幹設備 …42         |
|       | (5) 緑地          | …38 |                      |
| ■ 2-3 | 計画              |     |                      |
|       | (1) ゾーニング計画     | …46 | (6) ユニバーサルデザイン計画 …54 |
|       | (2) 動線計画        | …47 | (7) サイン計画 …55        |
|       | (3) パブリックスペース計画 | …51 | (8) アート計画 …56        |
|       | (4) 駐車場（駐輪場）計画  | …52 | (9) 基幹設備計画 …57       |
|       | (5) 緑地計画        | …53 | (10) 施設整備計画 …58      |

### 第3章 鍋島キャンパス

|                 |     |                      |
|-----------------|-----|----------------------|
| ■ 3-1 概要        |     |                      |
| (1) 概要          | …60 |                      |
| (2) 変遷          | …66 |                      |
| ■ 3-2 現状        |     |                      |
| (1) ゾーニング       | …68 | (6) ユニバーサルデザイン …73   |
| (2) 動線          | …69 | (7) サイン …74          |
| (3) パブリックスペース   | …70 | (8) アート …75          |
| (4) 駐車場（駐輪場）    | …71 | (9) 基幹設備 …76         |
| (5) 緑地          | …72 |                      |
| ■ 3-3 計画        |     |                      |
| (1) ゾーニング計画     | …80 | (6) ユニバーサルデザイン計画 …88 |
| (2) 動線計画        | …81 | (7) サイン計画 …89        |
| (3) パブリックスペース計画 | …84 | (8) アート計画 …90        |
| (4) 駐車場（駐輪場）計画  | …86 | (9) 基幹設備計画 …91       |
| (5) 緑地計画        | …87 | (10) 施設整備計画 …92      |

### 付属資料

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| ■ 付-1 キャンパス整備・運用の取組み体制         | …94  |
| ■ 付-2 第3期中期目標期間の施設整備           | …95  |
| ■ 付-3 第4期中期目標期間の整備計画           |      |
| (1) 実施方針                       | …102 |
| (2) 実施計画                       | …103 |
| ■ 付-4 維持管理計画                   |      |
| (1) インフラ長寿命化行動計画（CMP2016）      | …105 |
| (2) 施設の集約化（CMP2016）            | …109 |
| (3) インフラ長寿命化計画（個別施設計画2020）（概要） | …110 |
| ■ 付-5 部門別計画の改定に向けた課題           | …113 |
| ■ 付-6 部門別計画の対策時期               | …129 |
| ■ 付-7 建物の建て替え計画の検討             | …131 |
| ■ 付-8 市道貝田線の計画                 | …137 |
| ■ 付-9 SDGsを踏まえたキャンパス計画         | …139 |
| ■ 付-10 その他                     |      |
| (1) 佐賀大学カラーコード                 | …142 |
| (2) ユニバーサルマップ                  | …143 |
| (3) 部門別計画一覧（現状・課題・対策）          | …145 |





佐賀県中心部と周辺地域 [出典：国土地理院 GSI Maps (<https://maps.gsi.go.jp/>) (一部加工)]



# 第1章



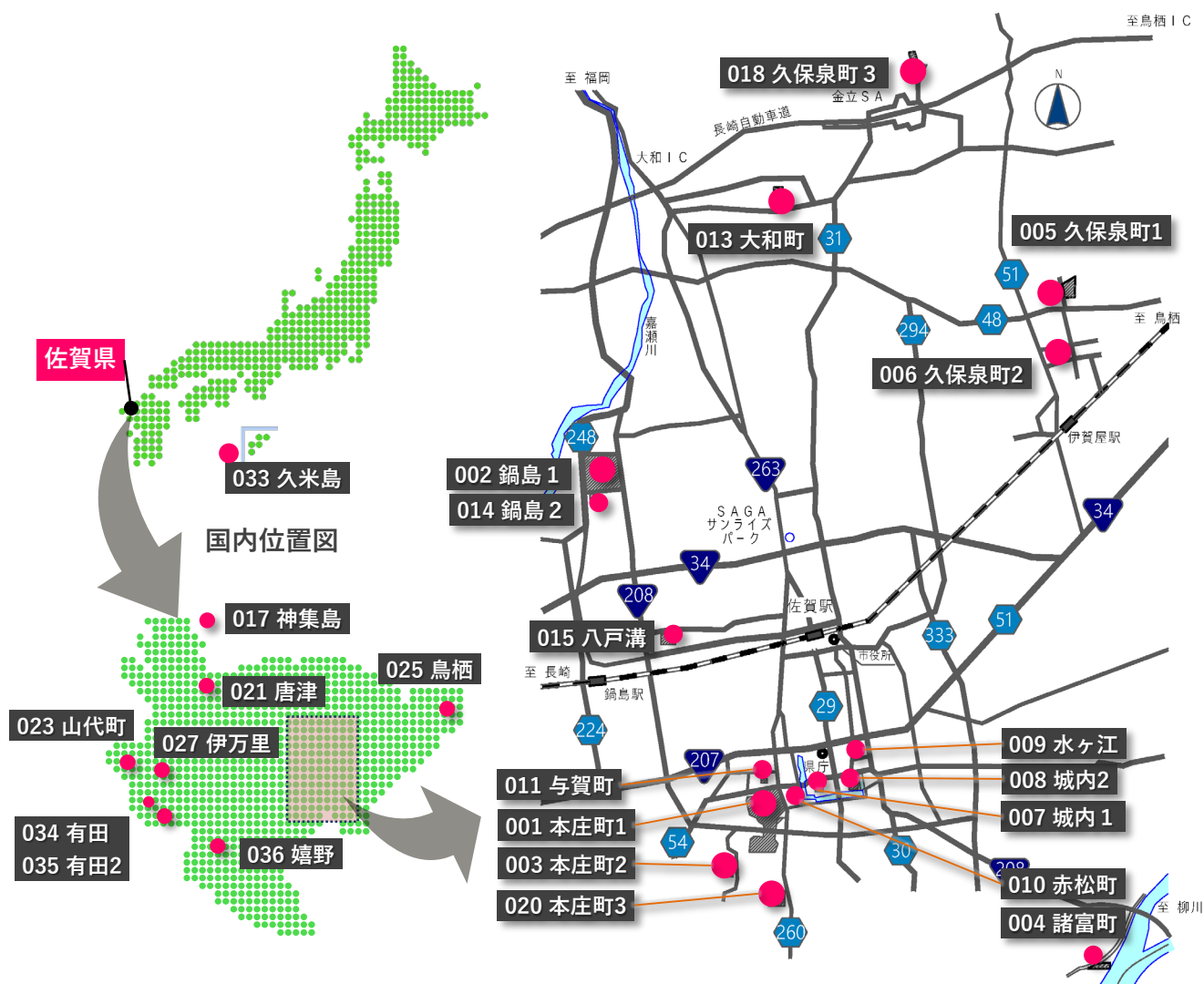
## 基本的事項

## 第1章 基本的事項

## 1-1. キャンパス概要

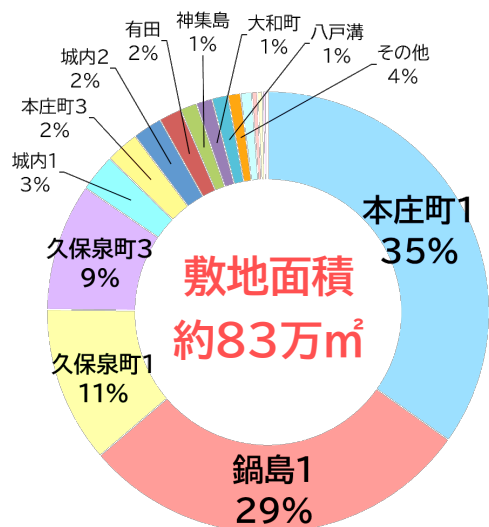
佐賀大学のキャンパスは佐賀県全域に設置されており、その中でも主要なキャンパスである本庄キャンパス（本庄町1）、鍋島キャンパス（鍋島1）および教育学部附属学校（城内1、城内2、本庄町3）・附属学校園（水ヶ江）は佐賀市内に設置されています。

| 団地番号 | 団地名   | 所在地                              | 学部等名                                                                                                                                                                   |
|------|-------|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 001  | 本庄町1  | 佐賀市本庄町1<br>(本庄キャンパス)             | 法人本部、教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部、全学教育機構、附属図書館、美術館、総合情報基盤センター、国際交流推進センター、リージョナルイノベーションセンター、総合分析実験センター、保健管理センター、地域学歴史文化研究センター、海洋エネルギー研究所、附属教育実践総合センター、シンクロトロン光応用研究センター |
| 002  | 鍋島1   | 佐賀市鍋島5丁目1番1号<br>(鍋島キャンパス)        | 医学部（医学科）、医学部（看護学科）、医学部附属病院（本院）、総合分析実験センター、附属図書館（医学分館）、課外活動施設、附属地域医療科学教育研究センター                                                                                          |
| 003  | 本庄町2  | 佐賀市本庄町字一本杉1034番4                 | 職員宿舎                                                                                                                                                                   |
| 004  | 諸富町   | 佐賀市諸富町為重字石塚分                     | 課外活動施設                                                                                                                                                                 |
| 005  | 久保泉町1 | 佐賀市久保泉町大字下和泉1841                 | 附属アグリ創生教育研究センター（本部）、学生実習宿泊施設                                                                                                                                           |
| 006  | 久保泉町2 | 佐賀市久保泉町大字一本柳                     | 附属アグリ創生教育研究センター（実習田）                                                                                                                                                   |
| 007  | 城内1   | 佐賀市城内1丁目14-4                     | 附属中学校                                                                                                                                                                  |
| 008  | 城内2   | 佐賀市城内2丁目17-3                     | 附属小学校                                                                                                                                                                  |
| 009  | 水ヶ江   | 佐賀市水ヶ江1丁目4-45                    | 附属幼稚園                                                                                                                                                                  |
| 010  | 赤松町   | 佐賀市赤松町9-27                       | 職員宿舎(学長宿舎)                                                                                                                                                             |
| 011  | 与賀町1  | 佐賀市与賀町西精1340                     | 総合教育研究施設                                                                                                                                                               |
| 013  | 大和町   | 佐賀市大和町久池井1022-1                  | 職員宿舎                                                                                                                                                                   |
| 014  | 鍋島2   | 佐賀市鍋島3丁目11番地                     | 職員宿舎                                                                                                                                                                   |
| 015  | 八戸溝   | 佐賀市八戸溝3丁目10番地                    | 職員宿舎                                                                                                                                                                   |
| 017  | 神集島   | 唐津市神集島字コウソ辻                      | 課外活動施設                                                                                                                                                                 |
| 018  | 久保泉町3 | 佐賀市久保泉町大字川久保字藤付                  | 附属アグリ創生教育研究センター（果樹園）                                                                                                                                                   |
| 020  | 本庄町3  | 佐賀市本庄町大字正里46-2                   | 附属特別支援学校                                                                                                                                                               |
| 021  | 唐津    | 唐津市松南町152番1                      | 附属アグリ創生教育研究センター（唐津）                                                                                                                                                    |
| 023  | 山代町   | 伊万里市山代町久原字平尾1番48                 | 海洋エネルギー研究所（伊万里サテライト）                                                                                                                                                   |
| 025  | 鳥栖    | 鳥栖市弥生が丘8-7                       | シンクロトロン光応用研究センター分室                                                                                                                                                     |
| 027  | 伊万里   | 伊万里市大坪町狩立（今岳）乙2436-1             | サテライト教室                                                                                                                                                                |
| 033  | 久米島   | 沖縄県島尻郡久米島町真謝500-1                | 海洋エネルギー研究所（久米島サテライト）                                                                                                                                                   |
| 034  | 有田    | 佐賀県西松浦郡有田町大野乙2441-1<br>(有田キャンパス) | 芸術地域デザイン学部、肥前セラミック研究センター                                                                                                                                               |
| 035  | 有田2   | 佐賀県西松浦郡有田町南原甲706番地74             | 芸術地域デザイン学部学生宿舎                                                                                                                                                         |
| 036  | 嬉野    | 佐賀県佐賀市嬉野町大字下宿2172-3              | 海洋エネルギー研究所（嬉野サテライト）                                                                                                                                                    |

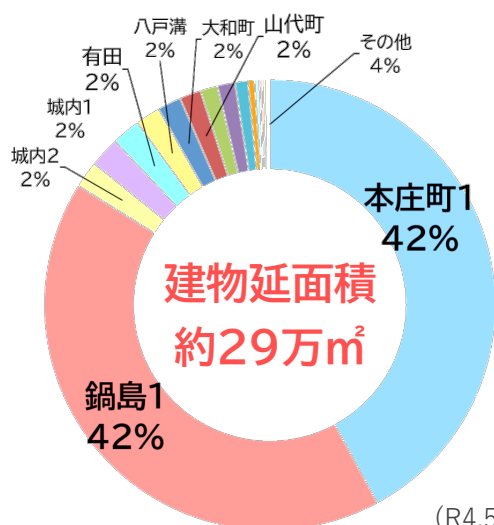


佐賀県内位置図

佐賀市内位置図



敷地面積 団地別状況

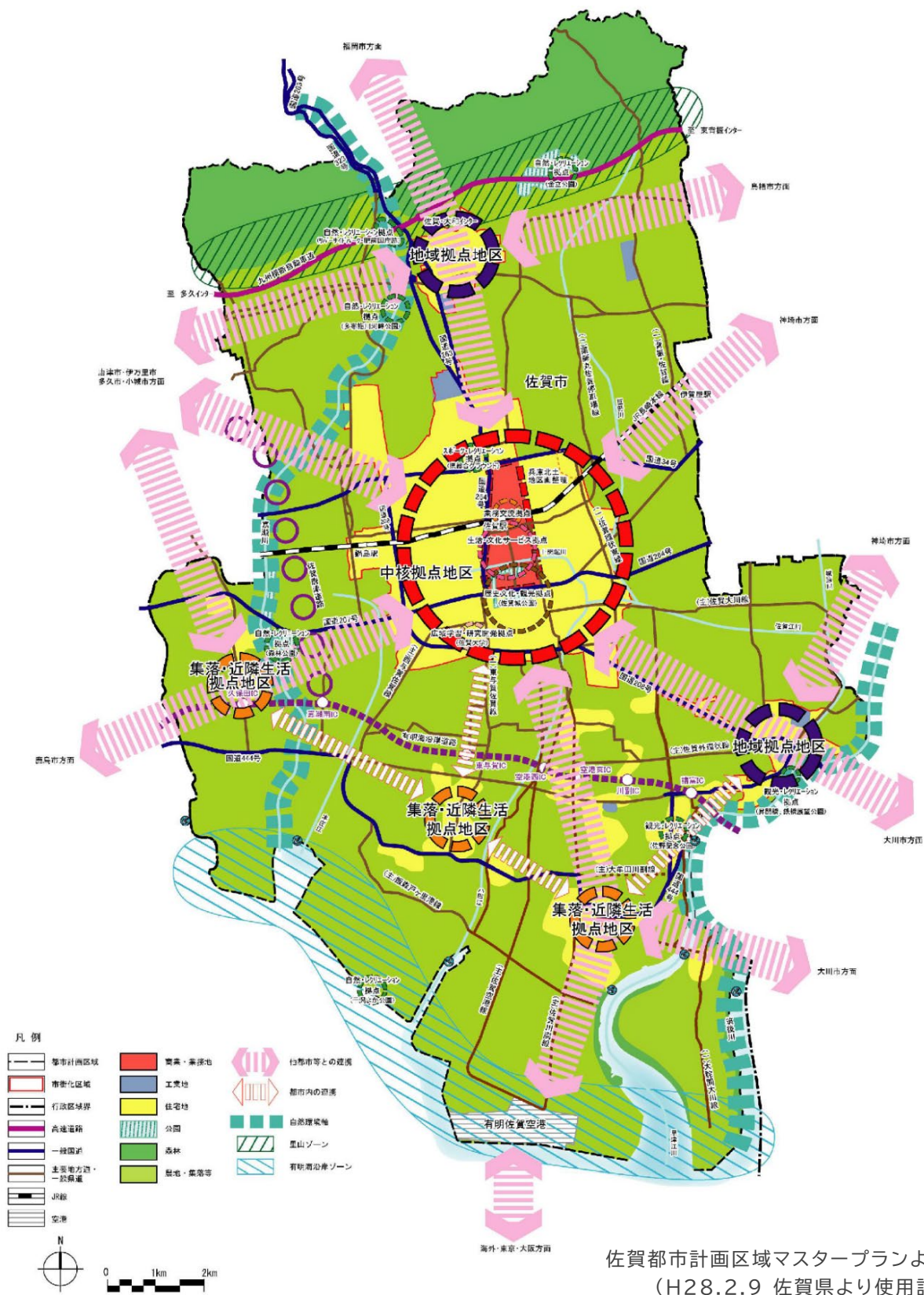


建物延面積 団地別状況

(R4.5.1現在)

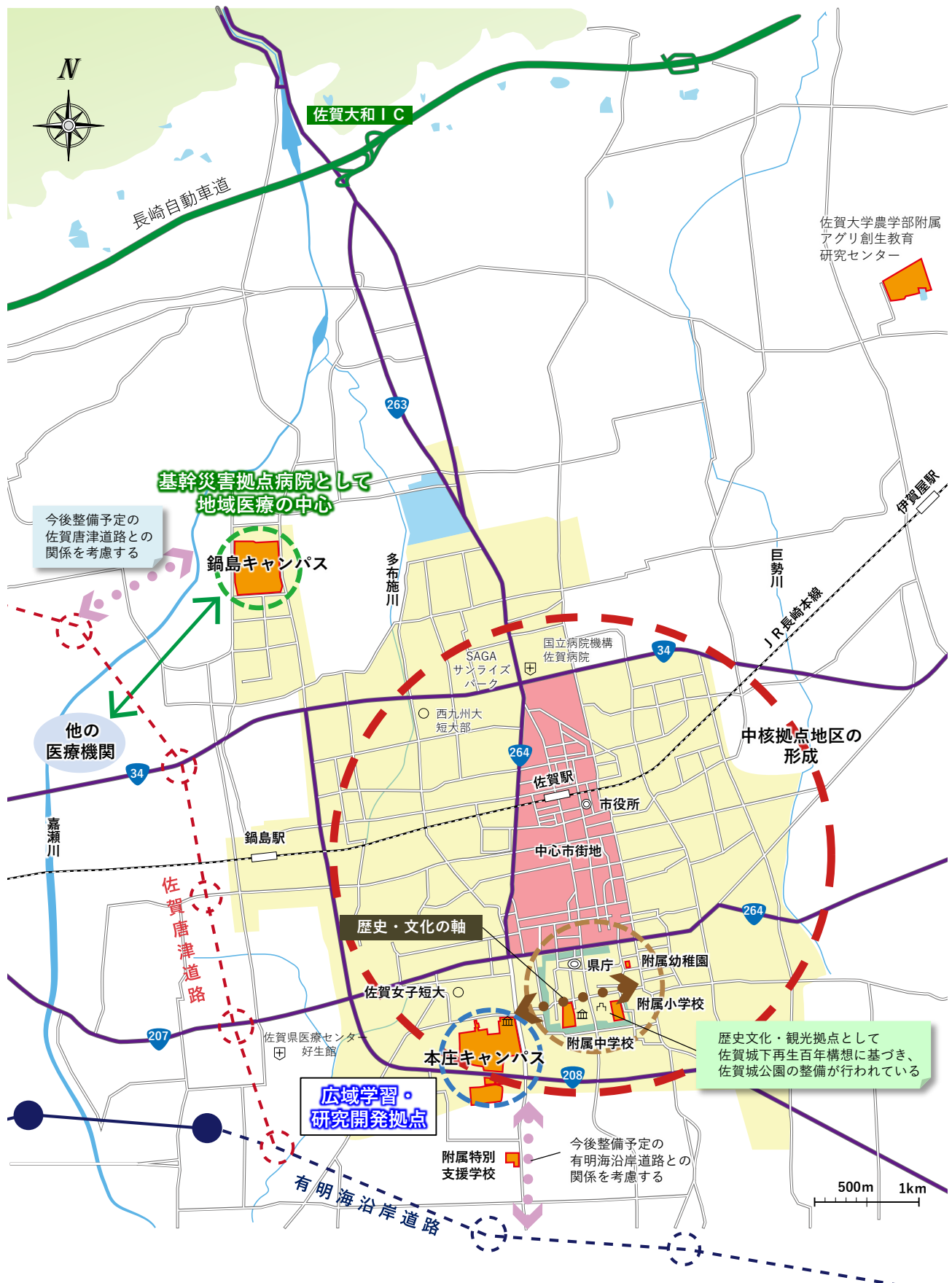
## 1-2. 佐賀県中心部と大学キャンパスとの関係

参考附図（整備、開発及び保全の方針図）





## 佐賀都市計画区域マスタープラン等に基づく周辺地域との関係



## 1-3. キャンパスマスタープランについて

### (1) 目的

キャンパスマスタープランは、国民から負託されたキャンパスを最大限に活用し、教育研究の質の向上を図り、教育研究の成果を経済的価値や社会的・公共的価値の創造につなげるために作成するものであり、次の役割があります。

- 1 キャンパス像に関する長期的ビジョンを確立する
- 2 キャンパス環境の質の向上を図る
- 3 あるべき姿を示し、変化の必要性を知らしめる
- 4 施設の配置とデザイン決定の理論を確立する

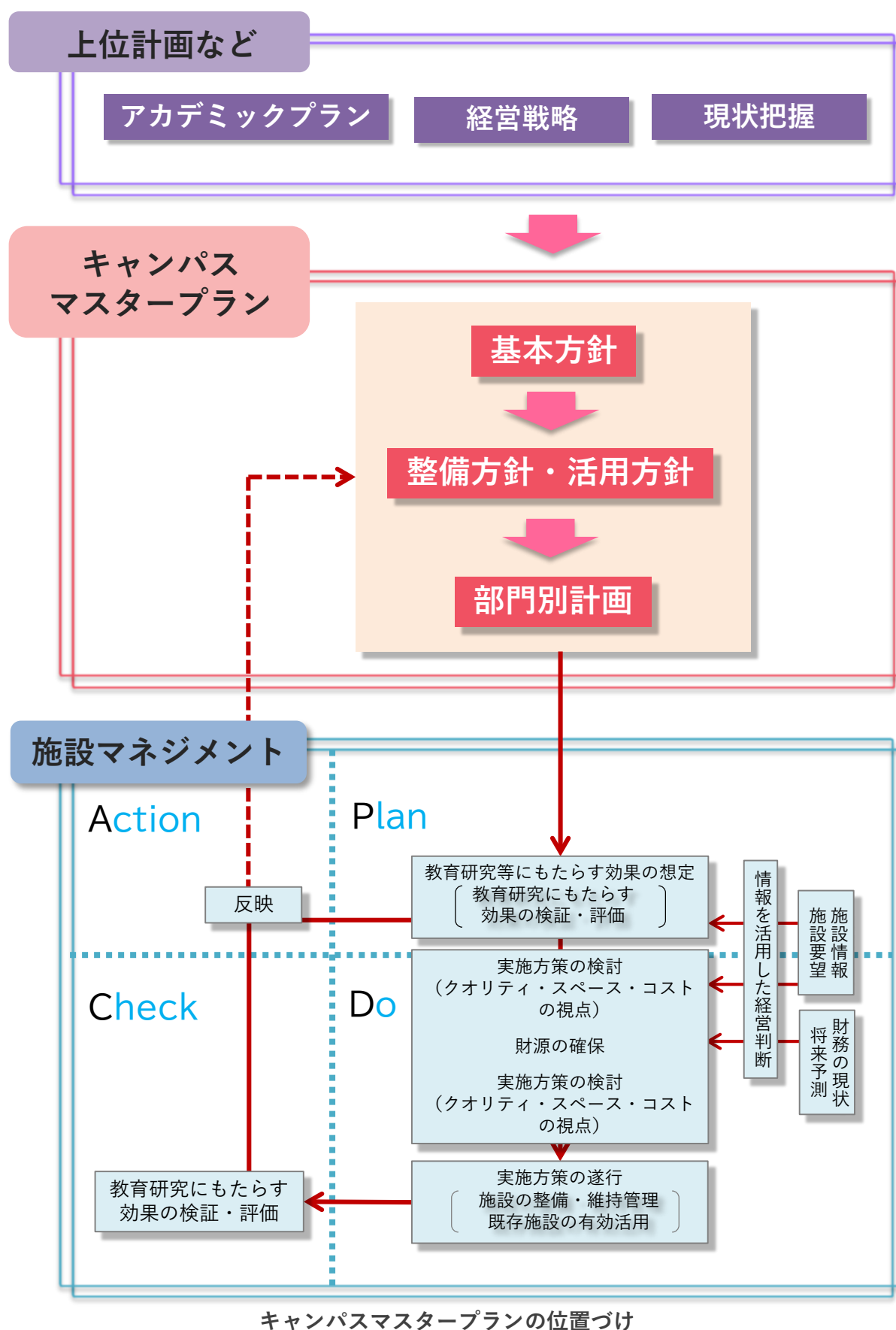
など

キャンパスマスタープランは、大学のアカデミックプランなどを支えるために作成するものであり、アカデミックプランの中核である中期目標・中期計画が第4期を迎える時期にあわせて改訂します。



### (2) キャンパスマスタープランの位置づけ

キャンパスマスタープランは、キャンパス全体の整備・活用の観点から、上位計画である本学の経営戦略やアカデミックプランを支え、実現するために作成するものです。その実行のためには、施設マネジメントによる施設整備や維持管理、既存施設の有効活用、省エネルギー対策、財源確保などの取り組みを行う必要があります、また、PDCAサイクルを確立し取り組みを継続的に改善していくことにより、教育研究環境の持続的向上を図る仕組みを構築することが重要です。





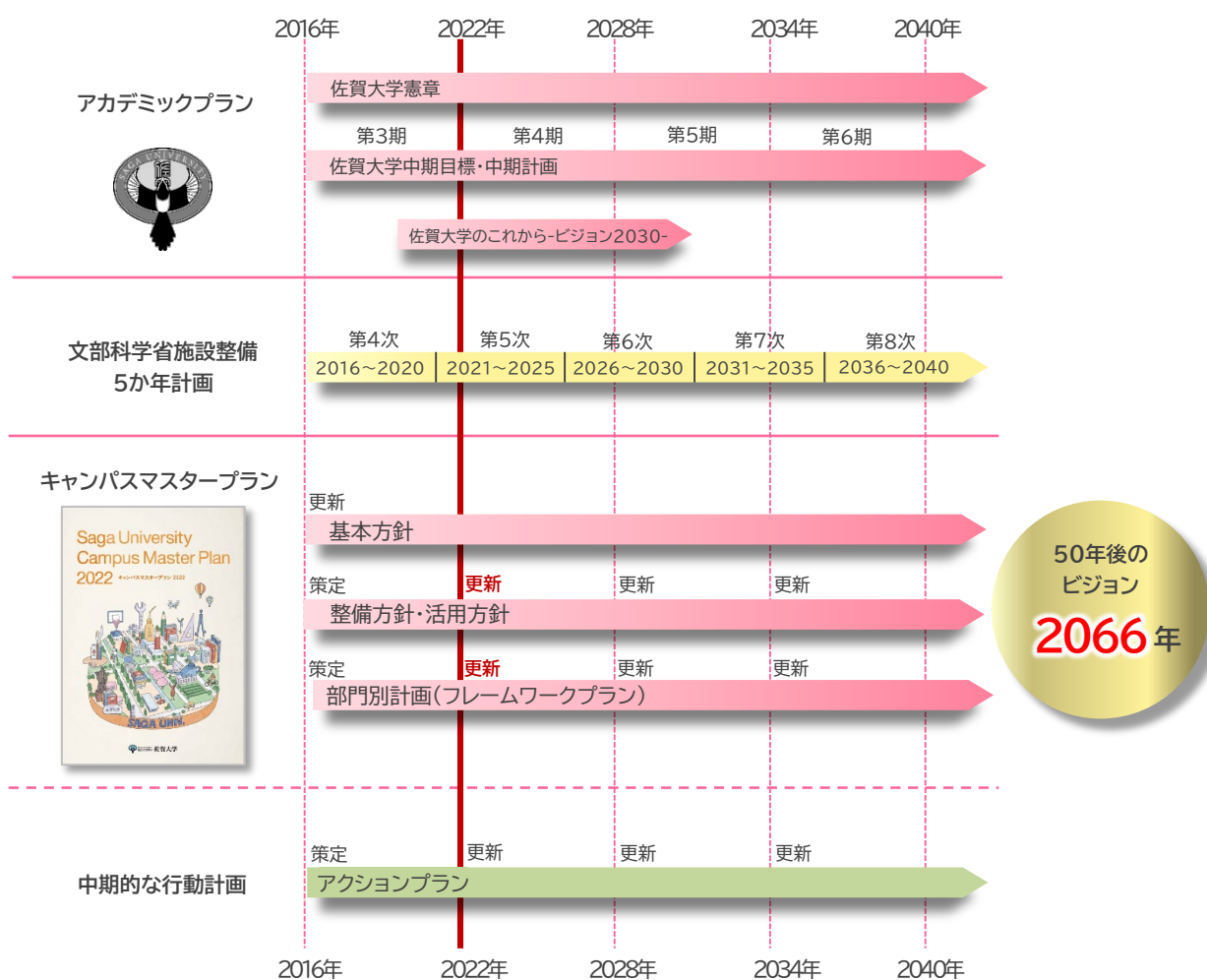
### (3) 対象範囲

本学は複数のキャンパスを所有しています。キャンパスマスタープランでは、すべてのキャンパスを対象とした基本的事項（第1章）に加え、メインキャンパスの本庄キャンパス（第2章）、鍋島キャンパス（第3章）の部門別計画を中心に作成します。



### (4) 目標年次と更新周期

キャンパスを創造的に再生するためには、長期的展望の下にキャンパスの整備・活用に取り組む必要があります。本計画では、キャンパスマスタープラン2016の考え方に基つき2066年を目標年次とし、佐賀大学中期目標・中期計画の更新周期にあわせて6年毎に更新するものとします。



## 1-4. 佐賀大学のアカデミックプラン

### (1) 佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来にむけて発信し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します。

#### 魅力ある大学

Attractive University

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます。

#### 創造と継承

Creation and Inheritance

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます。

#### 教育先導大学

Education-Oriented University

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします。

#### 研究の推進

Promotion of Research

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します。

#### 社会貢献

Contribution to Society

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます。

#### 国際貢献

Contribution to the International Society

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します。

#### 検証と改善

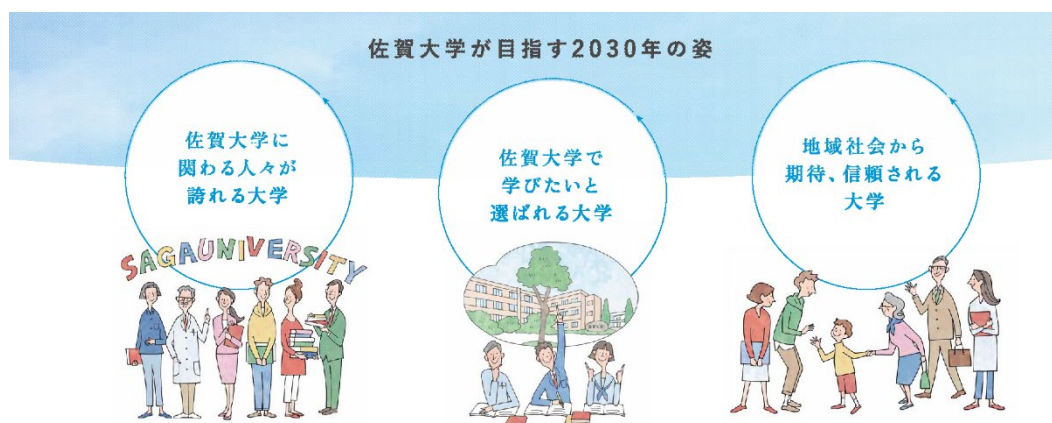
Evaluation and Improvement

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします。

平成18年3月15日制定

## (2) 佐賀大学のこれから-ビジョン2030-

佐賀大学では、令和2年4月に「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」を大学のビジョンとして掲げました。学生を含む全ての構成員が「志」を持って挑戦し、未来（これから）を創造することで、佐賀大学憲章が謳う理念を実現していきます。そして、これからも地域とともに未来に向けて発展し続ける大学を目指します。



「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」広報用リーフレット  
<http://www.saga-u.ac.jp/vision/vision2030-2.pdf>



### (3) 第4期中期目標

#### 大学の基本的な目標

佐賀大学は、地域とともに未来に向けて発展し続ける大学として、地域を志向した社会貢献・教育・研究を推進することで、地域活性化の中核的拠点を目指します。また、教育先導大学として幅広い教養を身に付けた人材を養成するとともに、総合大学の強みを生かし、分野横断的な研究を推進します。

第4期中期目標期間は、これまで実施してきた取組を継続しつつ、本学の10年後の在り方を示した「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」を新たな指針として、以下の事項に取り組みます。

#### 1 教育

しなやかな知性と未知なる領域に踏み出す行動力を基盤に、多様な人々との協働を通して持続可能な社会を構築できる人材を育成する。

#### 2 研究

持続可能な社会の実現と地域社会における安全・安心、豊かで質の高い生活の実現に向けて、研究者の育成を進め、知の資産を創出するとともに、地域社会の発展に寄与する研究とイノベーションの創出を強力に推進する。

#### 3 社会貢献

佐賀県をはじめとする周辺地域の社会変革を担う大学を目指し、産学官連携の推進による教育・研究活動の高度化を通じて、持続可能な地域社会の実現に寄与する。

#### 4 大学運営

学内外の資源を有効かつ最大限に活用し、全ての構成員が能力を発揮できる環境を構築するとともに、学長はリーダーシップを発揮し、本学の英知を結集することで未来に向かって持続的に発展することができる大学運営を行う。

## 1-5.国立大学法人等施設整備5か年計画

文部科学省では、国立大学法人等施設整備5か年計画を定期的に策定し、教育研究活動の基盤である国立大学法人等施設の計画的な整備を推進しています。「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」（令和3年3月 文部科学大臣決定）では、国立大学等が「共創」の拠点としての役割を果たすため、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ」へ転換することの必要性やカーボンニュートラルに向けた取り組みの推進などが掲げられています。

### 第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度）

（令和3年3月 文部科学大臣決定）

#### 基本的な考え方

##### ▶国立大学等に求められる役割

- 国立大学等の本来の役割である「教育研究の機能強化」と「地域・社会・世界への貢献」
- 社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点
- 多様なステークホルダーと積極的にに関わり合い、新たな活動が新たな投資を呼び込むことで成長し続ける真の経営体

##### ▶施設整備の方向性

キャンパス全体を **イノベーション・コモンズ（共創拠点）** へ

##### 産業界との共創

- ・ 共同利用できるオープンイノベーションラボの整備
- ・ キャンパスを実証実験の場として活用



他大学や企業等とのオープンラボ



構内道路を活用した実証実験  
※ https://www.tyohoku.ac.jp/tyohoku/innovation/

##### 教育研究の機能強化

- ・ 学修者中心に捉えた人材育成
- ・ 研究の活性化
- ・ 世界をリードする最先端研究の推進
- ・ 先端・地域医療を支える病院機能充実
- ・ 国際化のさらなる進展



学生同士のアクティブ・ラーニング



ICTによるコミュニケーション



国際線における日常的な国際交流

##### 地方公共団体との共創

- ・ 災害時にも活用できるインフラの強靱化
- ・ 地方創生の連携拠点整備
- ・ 地域との施設の相互利用



地元企業との交流会



地域への公開講座

##### <イノベーション・コモンズ実現に向けた今後の取組>

- ・ 国立大学等施設は全国的に配置された我が国最大の知のインフラであり、最大限活用
- また、DXの加速化をはじめ、社会情勢の変化に速やかに対応
- ・ 効率的な施設整備により老朽改善整備の加速化とともに新たなニーズに対応した機能強化を図る
- ・ ポストコロナ社会も見据えたオンラインと対面の双方のメリットをいかした効果的なハイブリッド、国土強靱化やカーボンニュートラルに向けた取組や、バリアフリーなども含めダイバーシティに配慮した施設整備を推進
- ・ あわせて、施設マネジメントの取組と多様な財源の活用を一層推進

#### 「イノベーション・コモンズ」のイメージ

「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とは

- ・ あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが**共に創造活動を展開**する「共創」の拠点
- ・ 教育研究施設の個別の空間だけでなく、食堂や寮、屋外空間等も含め **キャンパス全体が有機的に連携**した「共創」の拠点
- ・ **対面とオンラインのコミュニケーションが融合**し、**ソフトとハードが一体**となって取り込まれる「共創」の拠点

⇒多様な学生・研究者や異なる研究分野の「共創」、地域・産業界との「共創」の促進等により、  
**教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献**



第5次国立大学法人等施設整備5か年計画

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shisetu/kokuritu/1318409\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/1318409_00001.htm)

## 1-6. 基本方針

「佐賀大学憲章」、「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」、「第4期中期目標」等の各種計画を受け、キャンパスマスタープラン2022で定めるキャンパスの整備・活用に向けた基本方針を示します。

### 1 質の高い人材育成に貢献するキャンパス

多様な価値観や背景を持つ人々との協働を通して、持続可能な社会を構築できるグローバルな視野を持った人材育成をサポートするキャンパス

### 2 知の資産や地域社会のイノベーションの創出に寄与するキャンパス

高度な学術研究活動を通じて知の資産を創出し、地域社会の課題解決と世界水準を目指す研究の創出に貢献するキャンパス

### 3 地域・社会とともに発展するキャンパス

学術的な知や資源を地域や社会に還元し、産学官連携による地域課題の解決や地域社会の維持と人々の暮らしを支援できるキャンパス

### 4 自然と調和した持続可能なキャンパス

自然と調和のとれた営み続けるための「知」の継承と創造を行い、未来に向かって持続的に発展することができるキャンパス

### 5 大学の個性を活かしたキャンパス

「ここだから出来ること、ここでしか出来ないこと」を大学の歴史、文化として育み、伝統として継承するキャンパス



## 1-7. 整備方針・活用方針

基本方針を踏まえたキャンパスの整備方針・活用方針を示します。

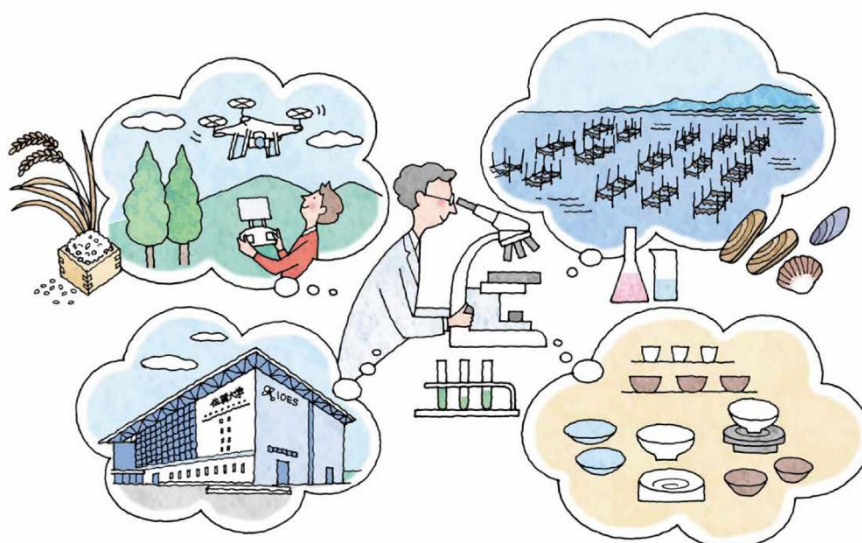
### 基本的機能

教育、研究及び診療活動の充実と共に、大学活動の活性化を促す、人と人、地域と大学をつなぐ場の提供、また、学生の豊かなキャンパスライフと主体的な学びを支える環境の充実やデジタルキャンパスの推進など、魅力的で個性のあるキャンパスづくりを目指す。



### 地 域

地域創生の中核的拠点「佐賀の大学」として、歴史、文化、風土などの地域資源を活かすと共に、地域の課題解決に貢献し、「知」の拠点としての責務を十分に果たせるキャンパスづくりを目指す。



## グローバル・多様性

国際性豊かな研究拠点としての知的交流を促すとともに、多様な文化や価値観を尊重し、理解し合える環境の整った、グローバル化に対応するキャンパスづくりを目指す。



## 環境

大学の環境資源を最大限に活用することで、自然との共生を図り、地球規模の課題解決へ繋がるカーボンニュートラルな社会の実現を志向したキャンパスづくりを目指す。



## 安全・安心

教育、研究及び診療活動における安全・安心な環境の確保、ユニバーサルデザインの導入、パブリックスペースの充実などによるキャンパスアメニティの向上を意識した大学の機能を最大限発揮するためのキャンパスづくりを目指す。



## 施設マネジメント

スペースの再配分や施設の集約化等による戦略的な整備・共用を進め、施設を最大限に活用するための管理運営を行う。





## 1-8.イノベーション・commons（共創拠点）

大学の本来の役割である「教育研究の機能強化」と「地域・社会・世界への貢献」を推進するため、先述のとおり「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」では、キャンパス全体を「イノベーション・commons（共創拠点）」へ転換することが求められています。

### イノベーション・commons（共創拠点）

多様な人々が社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会的変化をもたらす活動を支援できる場所。

大学の「共創」のコンセプトに基づく全学的・組織的な活動を踏まえ、キャンパス全体の再構築や個々の施設整備を推進することが重要。



「共創」のコンセプト

「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」

### 佐賀大学イノベーション・commons計画

#### 〔教育〕

- ・ 総括的・総合的な学びと探求の場
- ・ 多様な学生が互いを刺激し、学び合う場
- ・ 大学間の連携・協力の場

#### 〔研究〕

- ・ 海外との研究者との多様な交流の場
- ・ 分野横断的な研究の推進
- ・ 超スマート社会（Society5.0）の実現
- ・ 資源・エネルギーの安定的な確保と利用の効率化
- ・ 最先端の医療技術の実現
- ・ 企業との連携強化による共同研究・ベンチャービジネスの推進

#### 〔社会貢献〕

- ・ 生涯学習の場としての大学開放
- ・ 地域課題の解決に資する研究の推進と企業との連携強化
- ・ 地域における社会生活の維持と人々の暮らしを支援

#### 〔大学運営〕

- ・ 学内施設の有効活用
- ・ 自然災害に対応した防災・減災への取り組み

「佐賀大学のこれから-ビジョン2030-」より関連性の高いキーワードを抽出



## イノベーション・コモンズ全体イメージ (本庄キャンパス)

国際交流会館等



ニューノーマル時代の  
多様な交流

図書館



総括的・総合的な学びと  
探求の場

コンピュータ演習室



デジタル人材の育成  
ICT活用教育

研究棟



地域課題の解決に資する  
研究の推進と企業との  
連携強化

体育施設



地域における社会生活の  
支援と人々の暮らしを支援

“みんな”で開く、佐賀大学へ

アクティブラーニング  
スペース

多様な学生が互いを  
刺激し学び合う場

屋外実習施設



超スマート社会の実現  
(IT農業の実証実験等)



食堂



日常的な知的交流や  
人間関係の形成

実験室



サイバー空間とフィジカル  
空間の融合による新たな  
価値の創出

講義棟



生涯学習の場としての  
大学開放

屋外広場



交流を誘発する  
オープンスペース

講義棟



学内施設の有効活用  
産学交流施設



企業との連携強化による  
共同研究・ベンチャー  
ビジネスの推進

美術館



大学と地域を結ぶ  
芸術・文化の振興拠点

## イノベーション・コモンズ全体イメージ (鍋島キャンパス)

講義棟



生涯学習の場としての  
大学開放  
学内施設の有効活用

保育所



ダイバーシティを取り  
入れた多様な人材登用

廊下 (学生のデザイン)



ステークホルダーとの  
連携による新たな  
価値の創造

手術室



最先端の医療技術の実現

附属病院



診療の研修ができる最先端  
の医療技術の実現

自家発電機設備



自然災害に対応した  
防災・減災への取り組み

“みんな”で開く、佐賀大学へ

附属病院



地域における社会生活の  
支援と人々の暮らしを支援

図書館

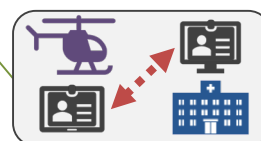


総括的・総合的な学びと  
探求の場

研究棟



地域課題の解決に資する  
研究の推進と企業との  
連携強化



超スマート社会の実現

VR医療教育



サイバー空間とフィジカル  
空間の融合による新たな  
価値の創出

PBL教室



多様な学生が互いを  
刺激し、学び合う場

屋外広場



交流を誘発する  
オープンスペース

医学部会館



日常的な知的交流や  
人間関係の形成

有田キャンパスをはじめとする各キャンパスもイノベーション・コモンズの全体イメージを踏まえ、多様な人々との共創活動に貢献できるキャンパス整備を推進します。

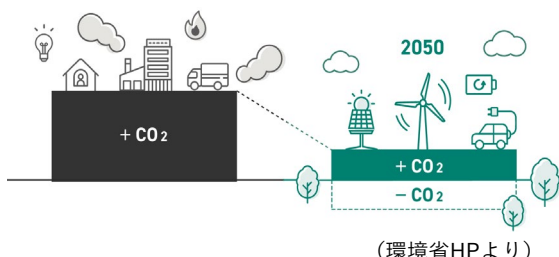


## 1-9.カーボンニュートラルキャンパス

2050年までのカーボンニュートラルに向けたロードマップが国において示され、大学もカーボンニュートラルに向けた取り組みが求められています。本学は以下のキャンパス整備を推進し、キャンパスのカーボンニュートラル化によるサステナブルな社会の実現を目指します。

### カーボンニュートラルとは・・・

温室効果ガスの排出量と吸収量を  
均衡させること



### <キャンパス整備での取り組み>

#### ZEB (Net Zero Energy Building)

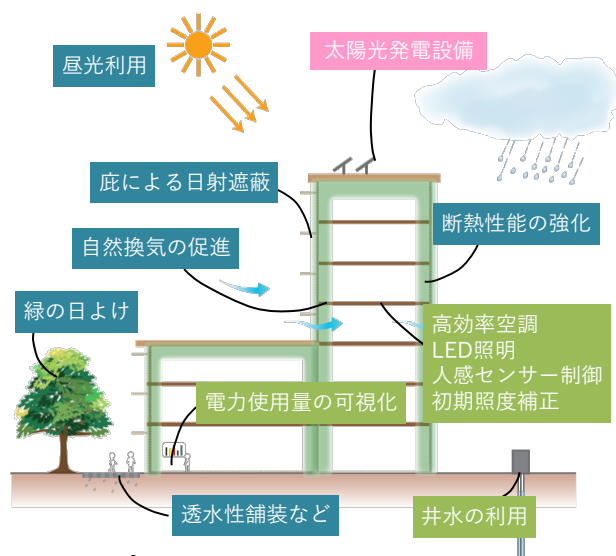
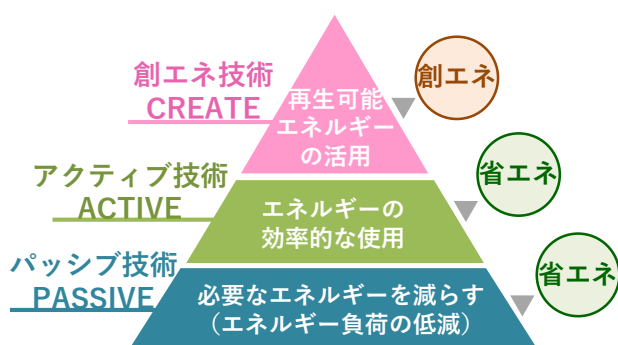
建物の一次エネルギー消費量※の

収支をゼロとすることを旨とした建築物

※空調設備、照明設備、給湯設備、エレベータ等

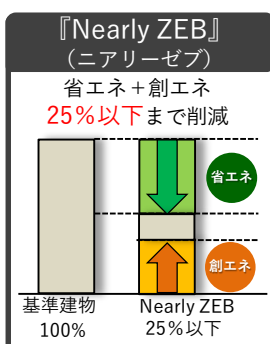
建物のZEB化⇒使用エネルギーの低減  
⇒温室効果ガスの低減

### <建物のZEB化の技術・整備イメージ>

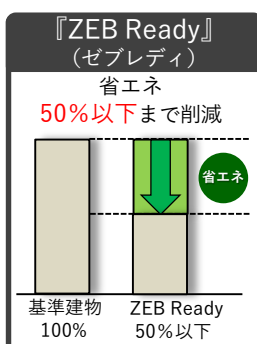


### <施設整備の目標>

#### 新築建物



#### 改修建物



### <ロードマップ>

2050年までにカーボンニュートラル  
キャンパスの実現を目指す

|           | 2022年                               | 2030年 | 2040年 | 2050年 |
|-----------|-------------------------------------|-------|-------|-------|
| 省エネルギー    | 省エネルギー設備への更新(空調・照明等)                |       |       |       |
| 創エネルギー    | 創エネルギー設備の導入(太陽光発電設備等)               |       |       |       |
| ZEB化      | 新築建物: Nearly ZEB    改修建物: ZEB Ready |       |       |       |
| クリーンエネルギー | 再生可能エネルギーの調達                        |       |       |       |
| 運用面での取組   | 日常的な節電、エネルギー使用量の見える化                |       |       |       |

# 第2章



本庄キャンパス



## 第2章 本庄キャンパス

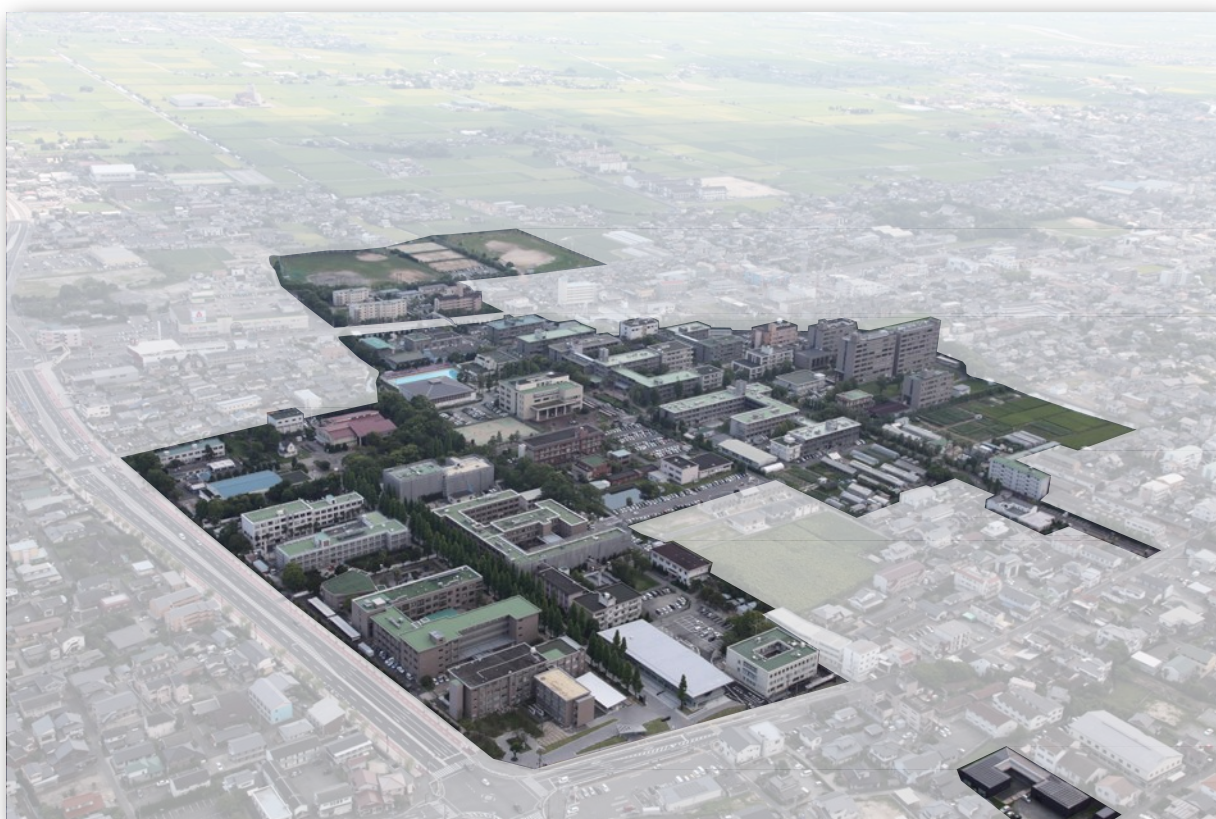
## 2-1.概要

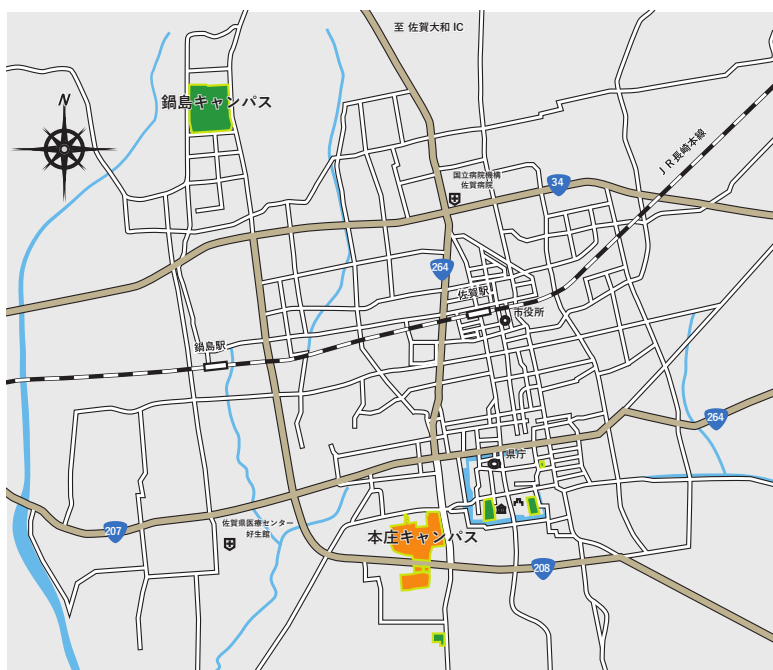
## (1) 概要

本庄キャンパスは、ＪＲ佐賀駅の南約４ｋｍに位置し、旧佐賀大学の敷地・施設を継承して、教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部、全学教育機構、附属図書館、美術館、事務局などが設置されています。キャンパス内の人口は学生約５，５００人、教職員約７５０人の合計約６，２５０人に及びます。学生の約７割が自転車通学です。

キャンパスの周囲は住宅を中心とした市街地が形成されており、南側と東側には多くの車両が行き交う幹線道路が走っています。敷地の大部分は都市計画法における市街化区域ですが、南側の運動場周辺は市街化調整区域（市街化を抑制すべき区域として定められた場所）に指定されているため、大学の施設整備に一定の制約がかかっています。

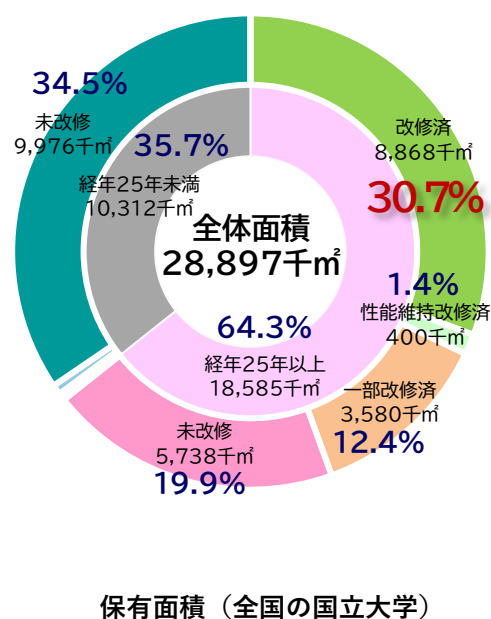
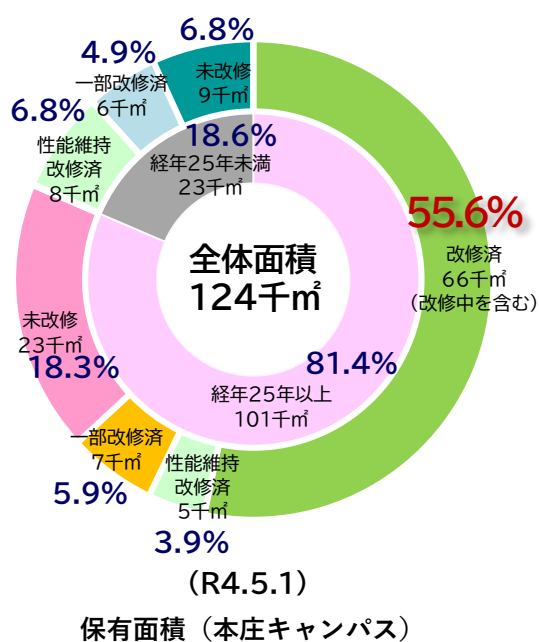
敷地は低平地である佐賀平野に属し、平坦で高低差はほとんどないため、降った雨をスムーズに排水するための様々な対策が域内で進められています。

平成25年9月 

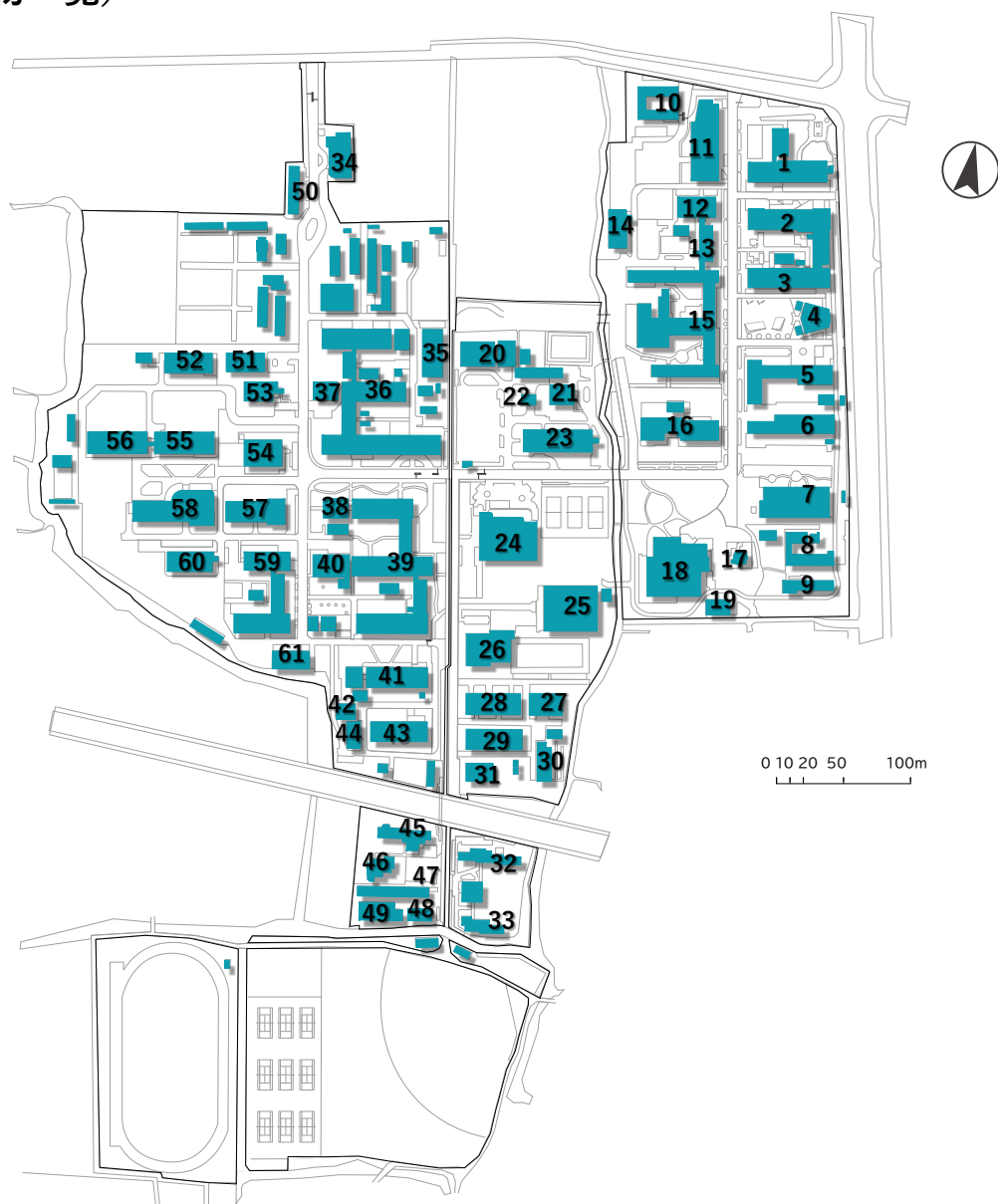


本庄キャンパスにある建物の面積は、約12万㎡ほどであり、建築後約25年以上の老朽施設が80%を超えています。改修済の施設は50%を超え、ここ数年の大型補正予算などで整備が進みました。全国の国立大学と比べても進んでいることがわかります。

今後も既存建物の老朽化による改修整備が中心となることを見込まれており、限られた予算内での計画的な整備が必要となります。



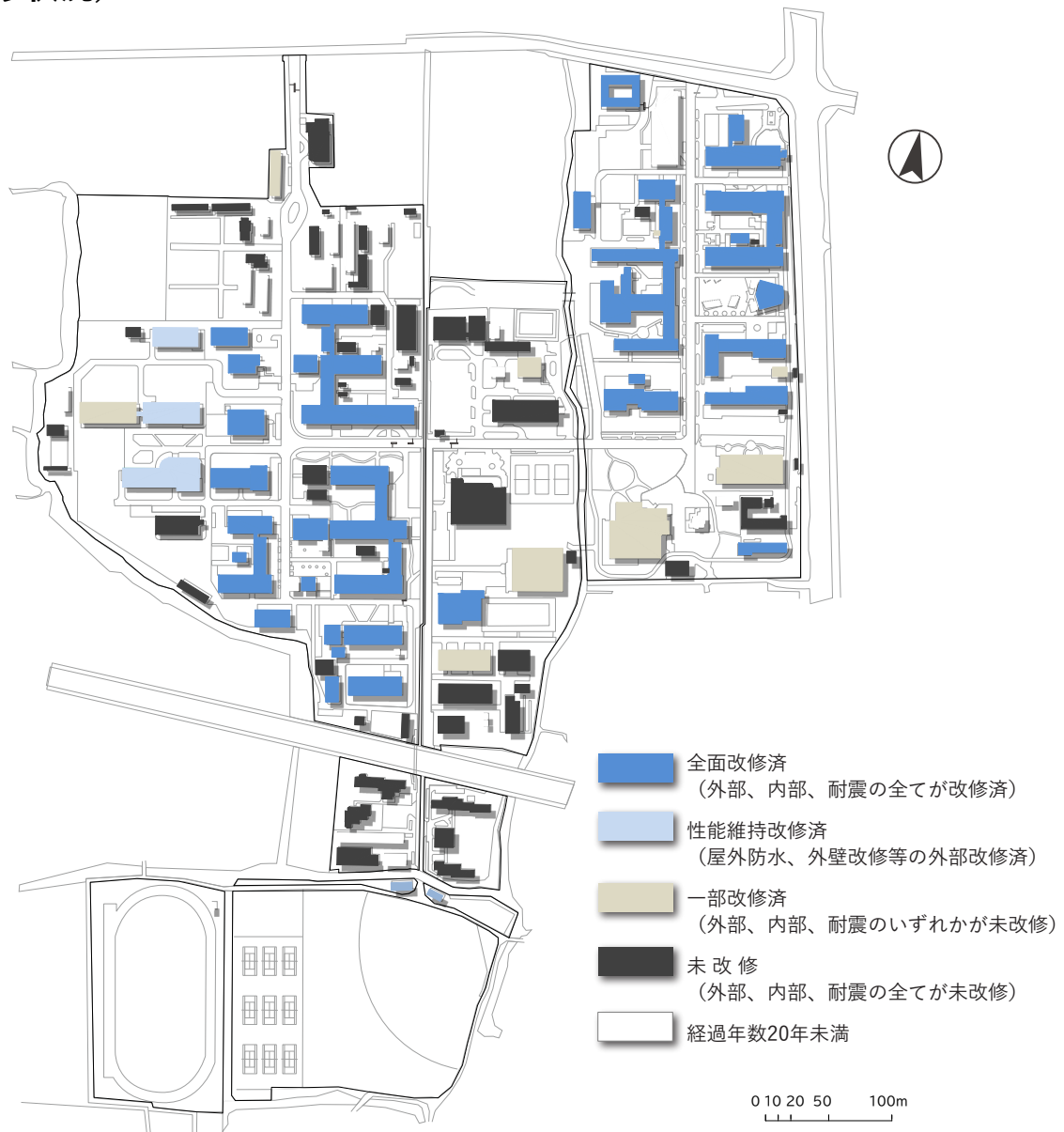
## (建物一覧)



- |                   |                 |                   |                     |
|-------------------|-----------------|-------------------|---------------------|
| 1. 教養教育2号館        | 17. 菊楠シュライバー館   | 33. 楠葉寮南棟         | 49. 第2サークル会館        |
| 2. 教養教育1号館        | 18. 大学会館        | 34. 菱の実会館         | 50. 国際交流会館第2家族棟(C棟) |
| 3. 教育学部5号館        | 19. 特高受変電棟      | 35. 農学部実験棟        | 51. 農学部3号館          |
| 4. 教養教育大講義室       | 20. 総合情報基盤センター  | 36. 農学部1号館        | 52. 農学部4号館          |
| 5. 教育学部1号館        | 21. 保健管理センター    | 37. 農学部大講義室       | 53. 農学部2号館          |
| 6. 教育学部3号館        | 22. 第2本部棟       | 38. 理工学部理系大学院棟    | 54. かささぎホール         |
| 7. 総合研究1号館        | 23. 本部棟         | 39. 理工学部1号館       | 55. 理工学部8号館         |
| 8. 芸術地域デザイン学部2号館  | 24. 附属図書館       | 40. 理工学部大学院棟      | 56. 理工学部9号館         |
| 9. 芸術地域デザイン学部3号館  | 25. 体育館         | 41. 理工学部2号館       | 57. 理工学部4号館         |
| 10. 産学交流プラザ       | 26. スポーツセンター    | 42. 大型構造物実験棟      | 58. 理工学部6号館         |
| 11. 美術館           | 27. 機械システム実験棟A  | 43. 理工学部3号館       | 59. 理工学部5号館         |
| 12. 経済学部3号館       | 28. 実習工場        | 44. 第3サークル会館      | 60. 理工学部7号館         |
| 13. 経済学部2号館       | 29. 機械システム実験棟B  | 45. 国際交流会館単身棟(A棟) | 61. イノベーションラボ       |
| 14. 経済学部4号館       | 30. 水理実験棟       | 46. 国際交流会館家族棟(B棟) |                     |
| 15. 経済教育棟         | 31. 環境構造材料科学実験棟 | 47. 第1サークル会館      |                     |
| 16. 芸術地域デザイン学部1号館 | 32. 楠葉寮北棟       | 48. 多目的トレーニング棟    |                     |



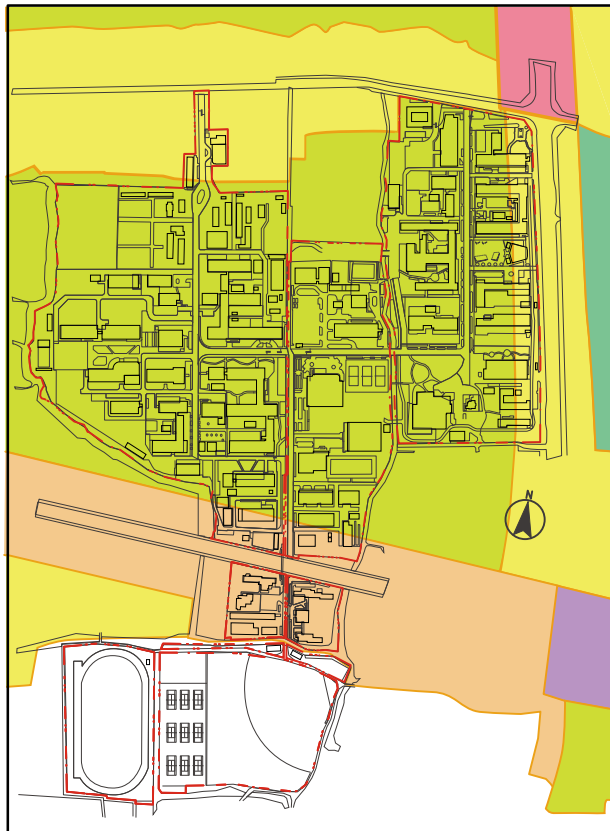
## (改修状況)



| 経過年数  | 保有面積     |       | 全面改修済   |       | 性能維持改修済 |       | 一部改修済   |       | 未改修     |       |
|-------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
|       | 面積       | 割合    | 面積      | 割合    | 面積      | 割合    | 面積      | 割合    | 面積      | 割合    |
| 50年以上 | 47,903㎡  | 38.7% | 42,718㎡ | 89.2% | 0㎡      | 0.0%  | 3,371㎡  | 7.0%  | 1,814㎡  | 3.8%  |
| 40年以上 | 73,974㎡  | 59.8% | 58,831㎡ | 79.5% | 0㎡      | 0.0%  | 5,020㎡  | 6.8%  | 10,123㎡ | 13.7% |
| 30年以上 | 94,043㎡  | 76.0% | 64,788㎡ | 68.9% | 0㎡      | 0.0%  | 7,356㎡  | 7.8%  | 21,899㎡ | 23.3% |
| 25年以上 | 100,785㎡ | 81.4% | 65,921㎡ | 65.4% | 4,806㎡  | 4.8%  | 7,356㎡  | 7.3%  | 22,702㎡ | 22.5% |
| 20年以上 | 116,605㎡ | 94.2% | 66,001㎡ | 56.6% | 13,200㎡ | 11.3% | 13,384㎡ | 11.5% | 24,020㎡ | 20.6% |
| 20年未満 | 7,138㎡   | 5.8%  |         |       |         |       |         |       |         |       |
| 合 計   | 123,743㎡ |       | 66,001㎡ | 53.3% | 13,200㎡ | 10.7% | 13,384㎡ | 10.8% | 24,020㎡ | 19.4% |

## (都市計画法上の用途地域)

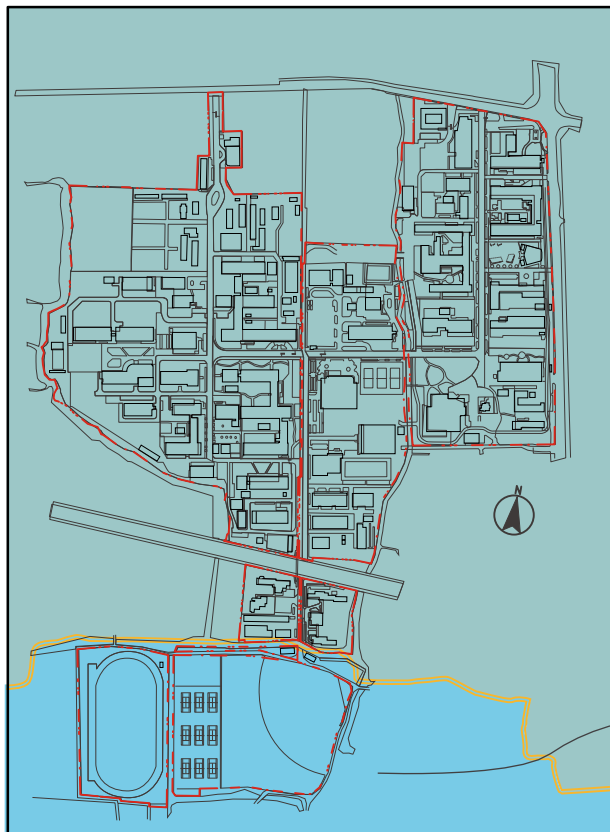
用途地域



|      |               |  |
|------|---------------|--|
| 用途地域 | 第一種低層住居 専用地域  |  |
|      | 第一種中高層住居 専用地域 |  |
|      | 第一種住居地域       |  |
|      | 準住居地域         |  |
|      | 近隣商業地域        |  |
|      | 準工業地域         |  |

敷地面積：283,630㎡  
防火地域：法22条区域

0 10 20 50 100m

都市計画  
区域など

|              |         |  |
|--------------|---------|--|
| 都市計画<br>区域など | 市街化調整区域 |  |
|              | 市街化区域   |  |

都市計画法第29条により、大学の建築物は  
建築が制限されている

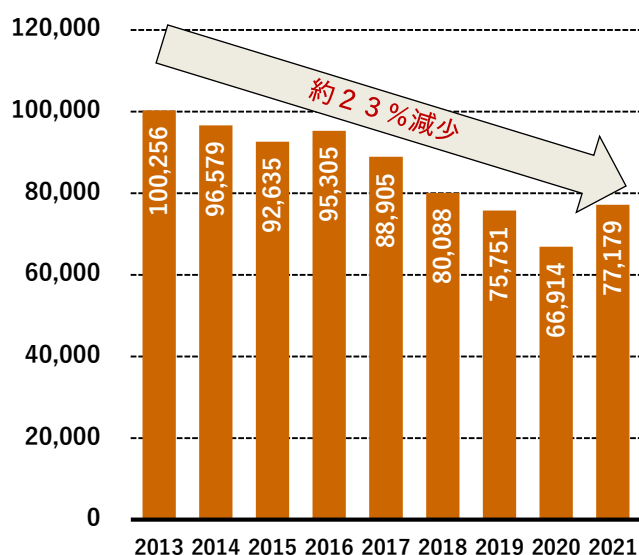
0 10 20 50 100m

## (エネルギー消費および二酸化炭素排出状況)

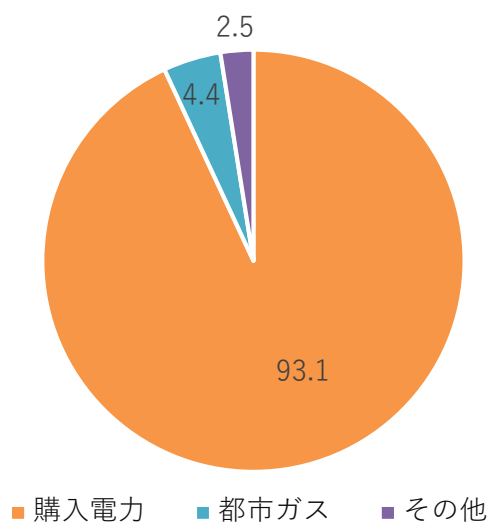
本庄キャンパスの総エネルギー使用量は2013年度から約23%削減、水使用量は約38%削減、二酸化炭素排出量は約48%削減されています。また、エネルギーの構成として購入電力が約95%を占めています。

省エネルギー機器の計画的な導入・更新によるエネルギーおよび二酸化炭素排出量の削減が今後も求められていきます。

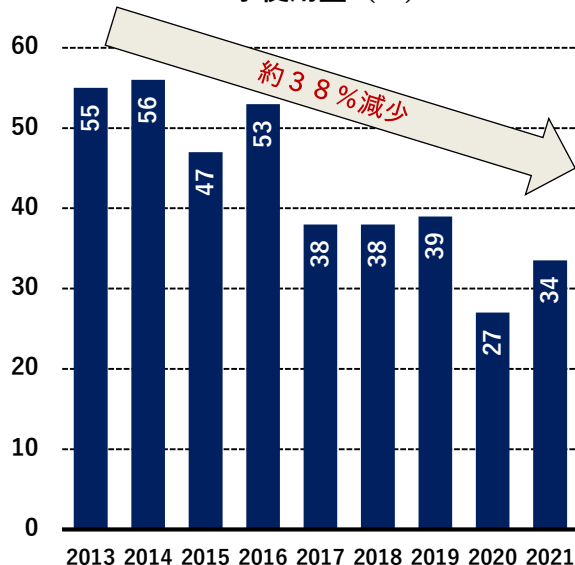
エネルギー使用量 (GJ)



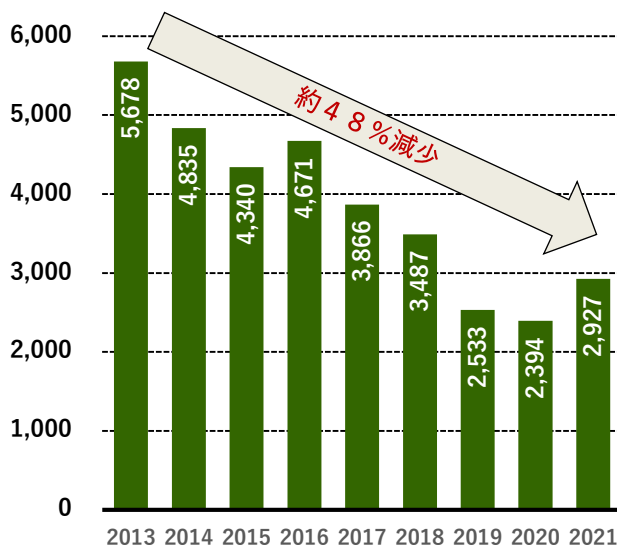
使用エネルギーの構成 (%)



水使用量 (t)



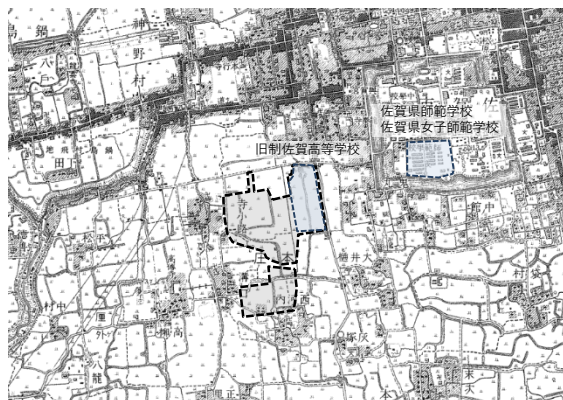
CO2排出量 (t-CO2)



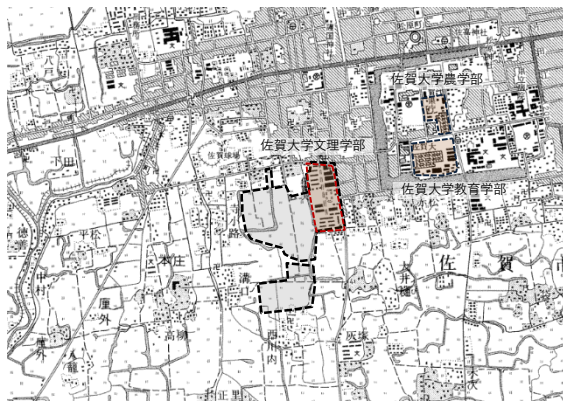


## (2) 変遷

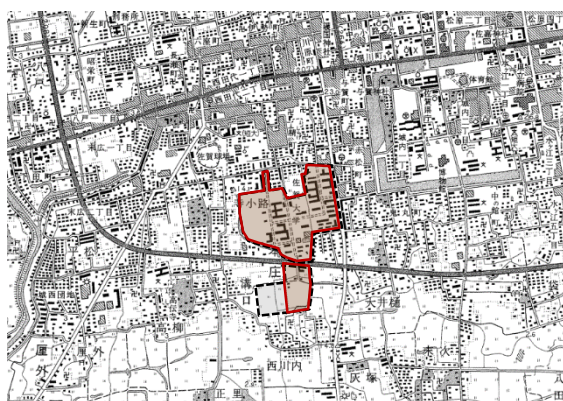
## (敷地周辺の変遷)

1931年  
(昭和6年)

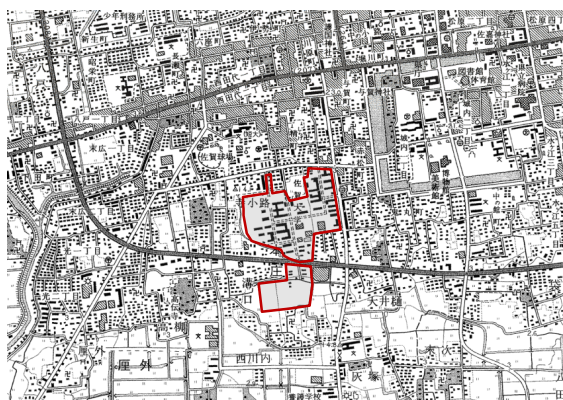
佐賀大学設立前、本庄キャンパスの敷地は旧制佐賀高等学校および農地として利用されていた。また、城内には佐賀大学の前身である佐賀県師範学校・佐賀女子師範学校があった。師範学校の用地は現在佐賀城公園（県立美術館・博物館）及び教育学部附属中学校の校地となっており、佐賀城公園には「有朋」の文字が刻まれた記念碑が建立されている。

「有朋」記念碑  
(佐賀城公園内)1964年  
(昭和39年)

昭和24年の佐賀大学設立後、本庄キャンパス東側の一部が文理学部として利用されていた。周辺について北東部は住宅地であったが、それ以外は農地のままであった。北西部には佐賀球場があった。城内には佐賀大学教育学部と農学部が設置されていた。

1981年  
(昭和56年)

農学部および教育学部の本庄キャンパスへの移転、文理学部改組による経済学部や理工学部設置によりキャンパスが拡大した。この頃には国道208号線も整備されている。城内の教育学部跡地には博物館が整備された。本庄キャンパス南側の一部はまだ農地のままである。

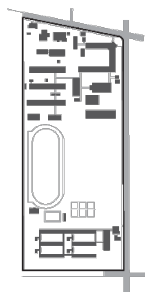
1998年  
(平成10年)

現在のキャンパスの姿が、ほぼ形づくられている。

国道208号線沿いも建物整備による都市化が進み、城内の教育学部跡地には美術館が整備されている。

時系列地形図閲覧サイト  
「今昔マップ on the web」より  
図面上に佐賀大学の位置を追記

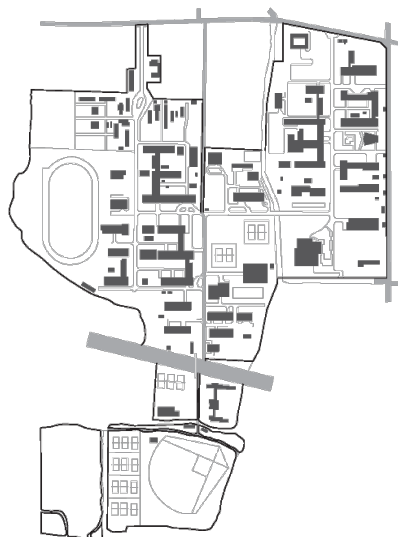
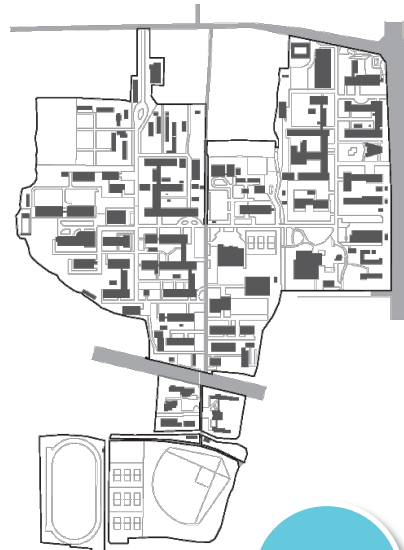
## (キャンパス内の変遷)

1920年  
(大正9年)

昭和24年、旧制の佐賀高等学校、佐賀師範学校、佐賀青年師範学校を包括し、文理学部・教育学部からなる2学部の新生国立大学として発足した。この時点では、キャンパスは東側のごく一部であった。

1949年  
(昭和24年)

市道貝田線を市道（里道）として残したままの用地の取得を行い、キャンパスを西側と南側に拡大していった。体育館および理工学部、農学部の施設の一部が整備されている。

1967年  
(昭和42年)1985年  
(昭和60年)2022年  
(令和4年)

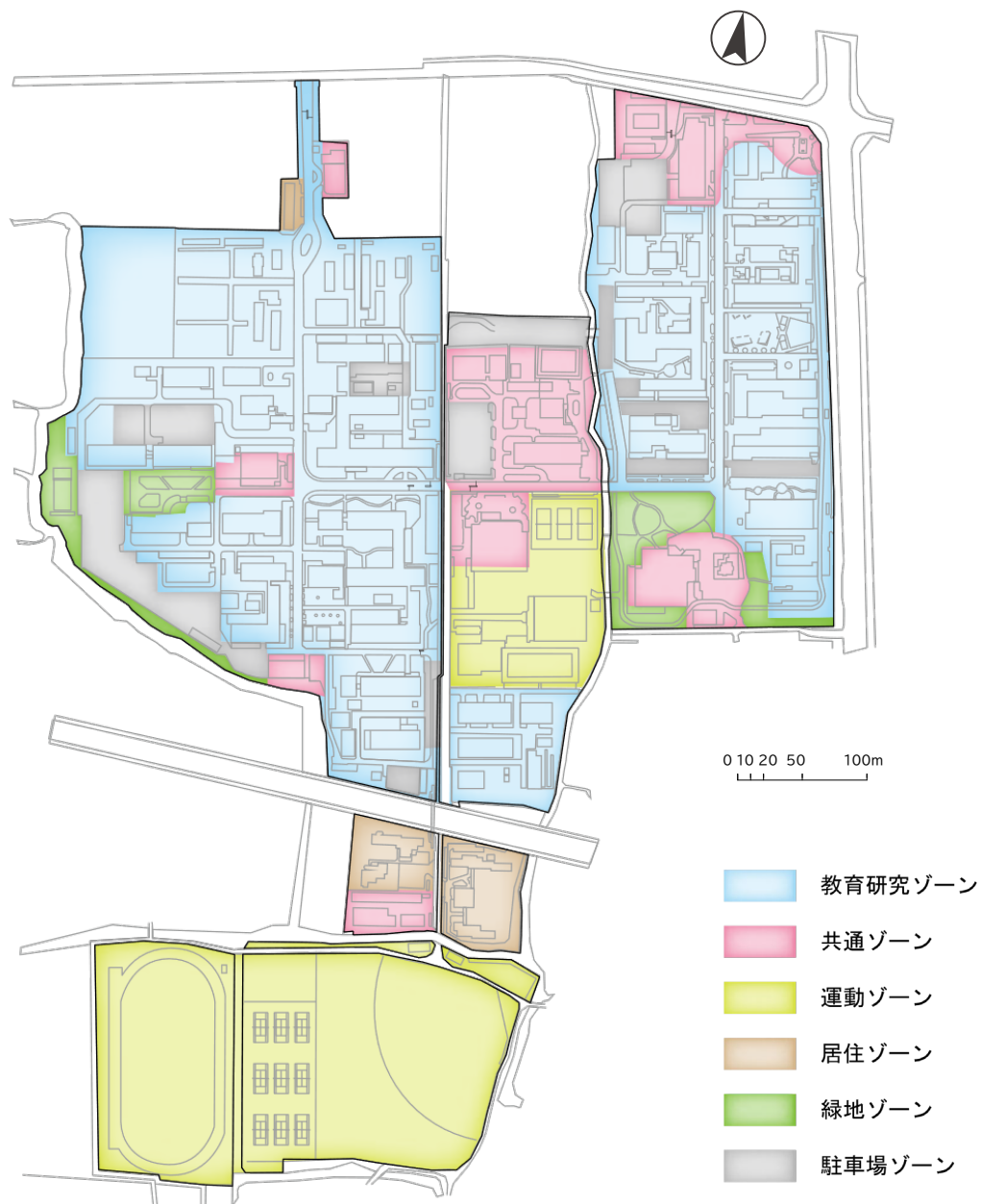
国道208号線が整備され、さらにキャンパスも南側に拡大した。現在のキャンパスの姿が、ほぼ形づくられている。

グラウンドがキャンパス南側に移転し、グラウンド跡地に施設が建設されていた。全体的に建て詰まっている。

また、キャンパス東側の県道が拡幅されており、キャンパス北側の県道において拡幅工事が進められている。

## 2-2.キャンパスの現状と課題

### (1) ゾーニング



#### 課題

- 1 小規模なゾーンが入り乱れている。
- 2 キャンパス中央の一等地に運動ゾーンがある。
- 3 緑地ゾーンが少ない。



## (2) 動線



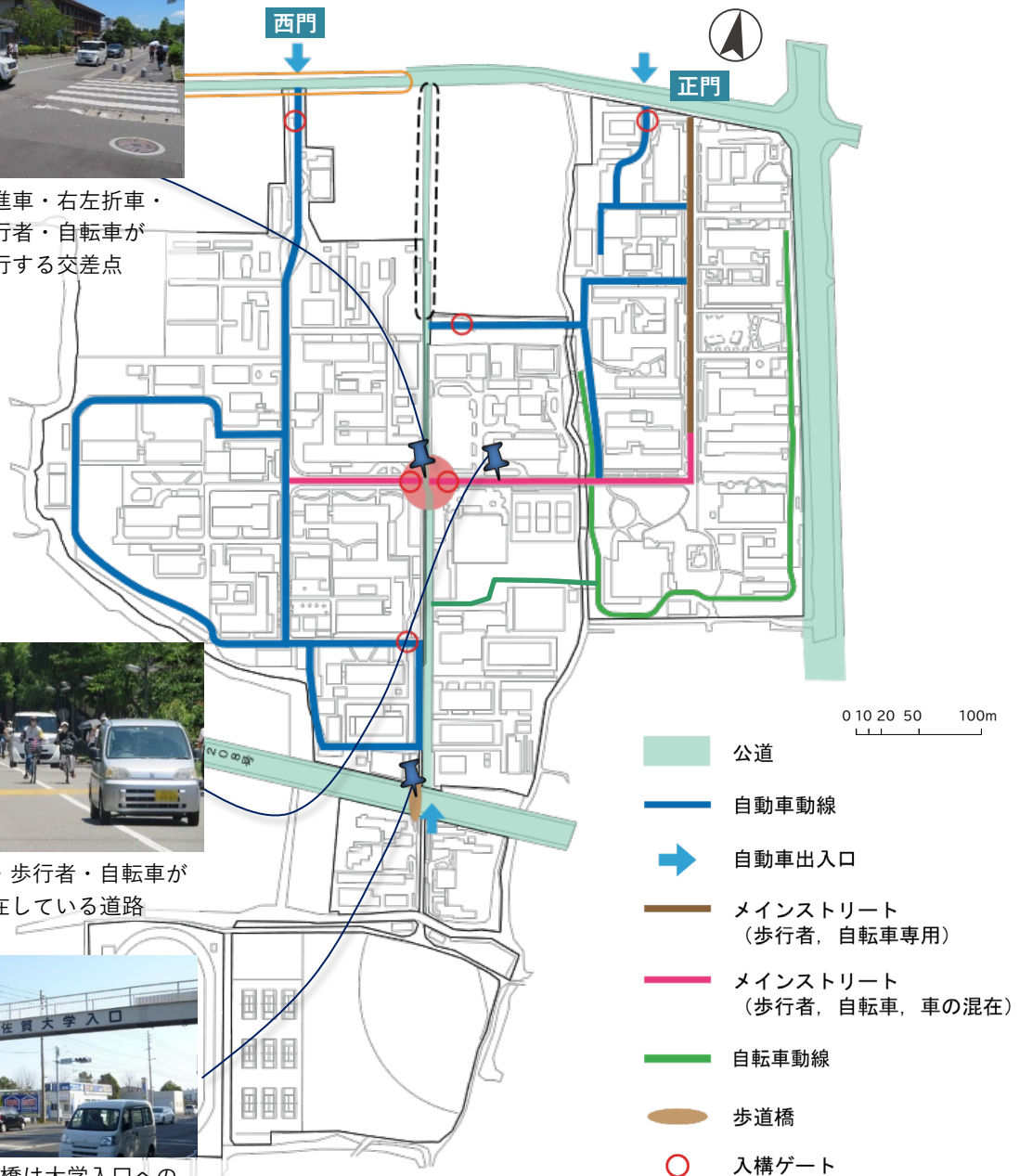
写真1 直進車・右左折車・  
歩行者・自転車が  
通行する交差点



写真2 車・歩行者・自転車が  
混在している道路



写真3 歩道橋は大学入口への  
誘導サインとしても活用

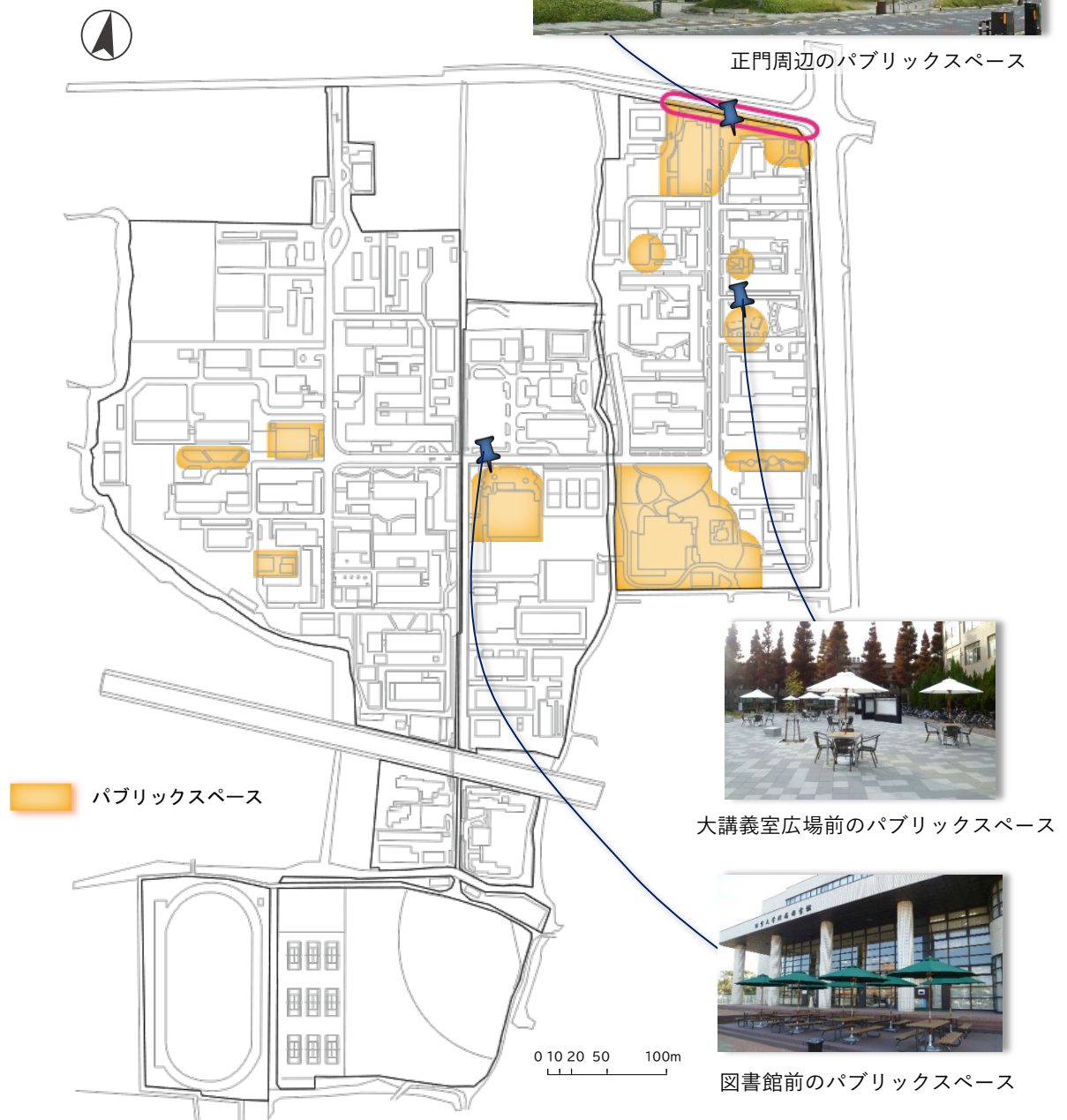


## 課題

- 1 市道貝田線とメインストリートの動線が交わっているため、事故発生の危険性が高い。(写真1)
- 2 メインストリートにおいて、歩行者、自転車、車の動線が混在しているため、事故発生の危険性が高い。(写真2)
- 3 国道208号線に架かる歩道橋は、横断歩道が整備されたため利用者が減少している。ただし、大学入口への誘導サインとして活用されている。(写真3)



## (3) パブリックスペース



## 課題

- 1 キャンパス東側には、まとまって確保されているがキャンパス西側に不足している。
- 2 イノベーション・コモンズを促進させるため、適切な位置に交流を生み出す外部空間を整備する必要がある。

## (4) 駐車場 (駐輪場)



## 課題

- 1 駐輪場がキャンパス内に広く点在し、また自転車だけでなく自動車もキャンパスの奥へ入構するため、歩行者と接触事故の危険性がある。
- 2 駐車場収容台数に余裕がない。
- 3 自転車の利用者が多く、人の動きが集中する時間帯には所定外の場所に自転車を停めるなど駐輪のマナーに問題がある。

## (5) 緑地

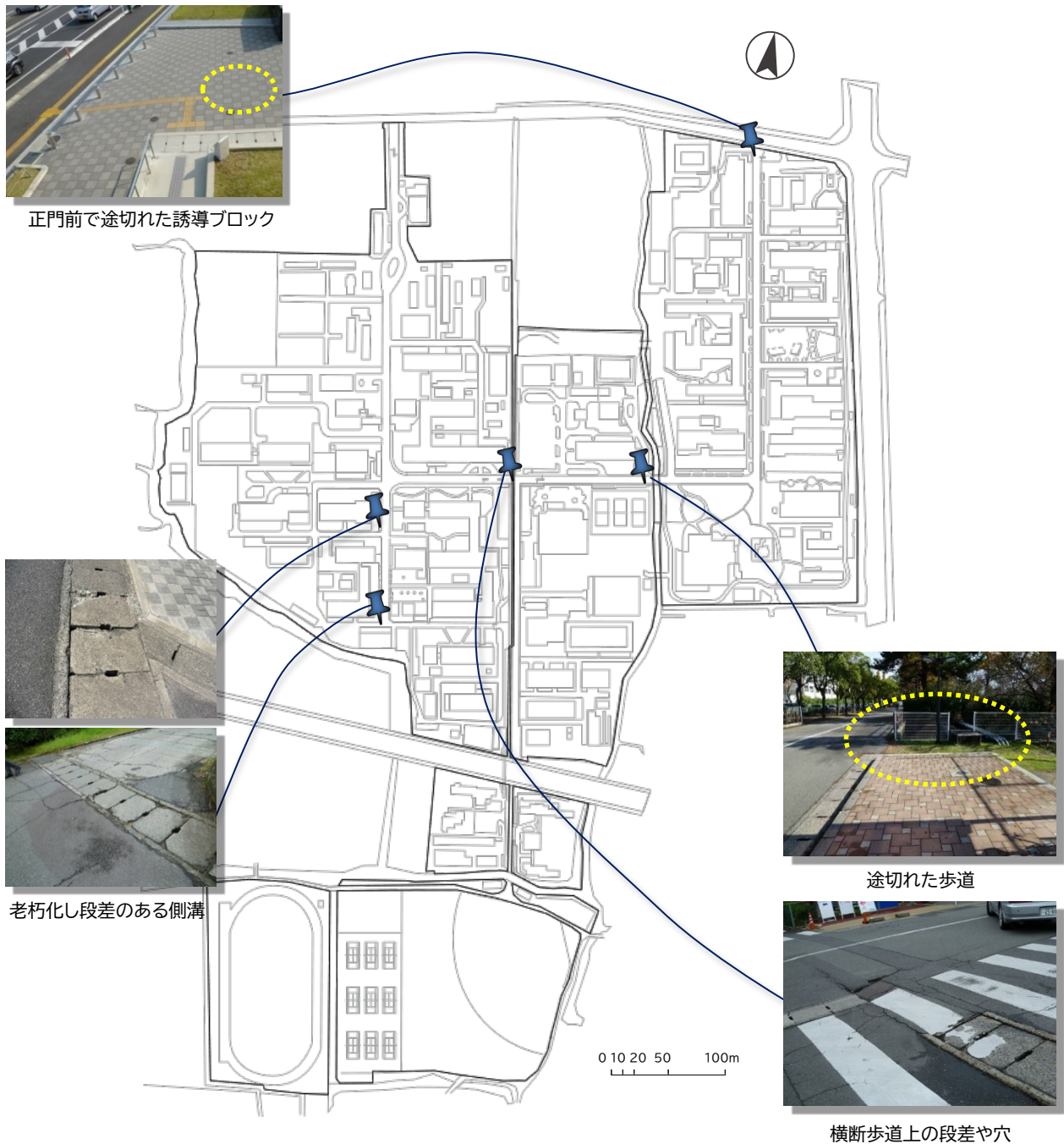


## 課題

- 1 視界を妨げている植栽など、事故の危険性が高い植栽がある。
- 2 安全面に配慮した上で計画的な植樹を行い、良質なキャンパス環境を形成する必要がある。



## (6) ユニバーサルデザイン

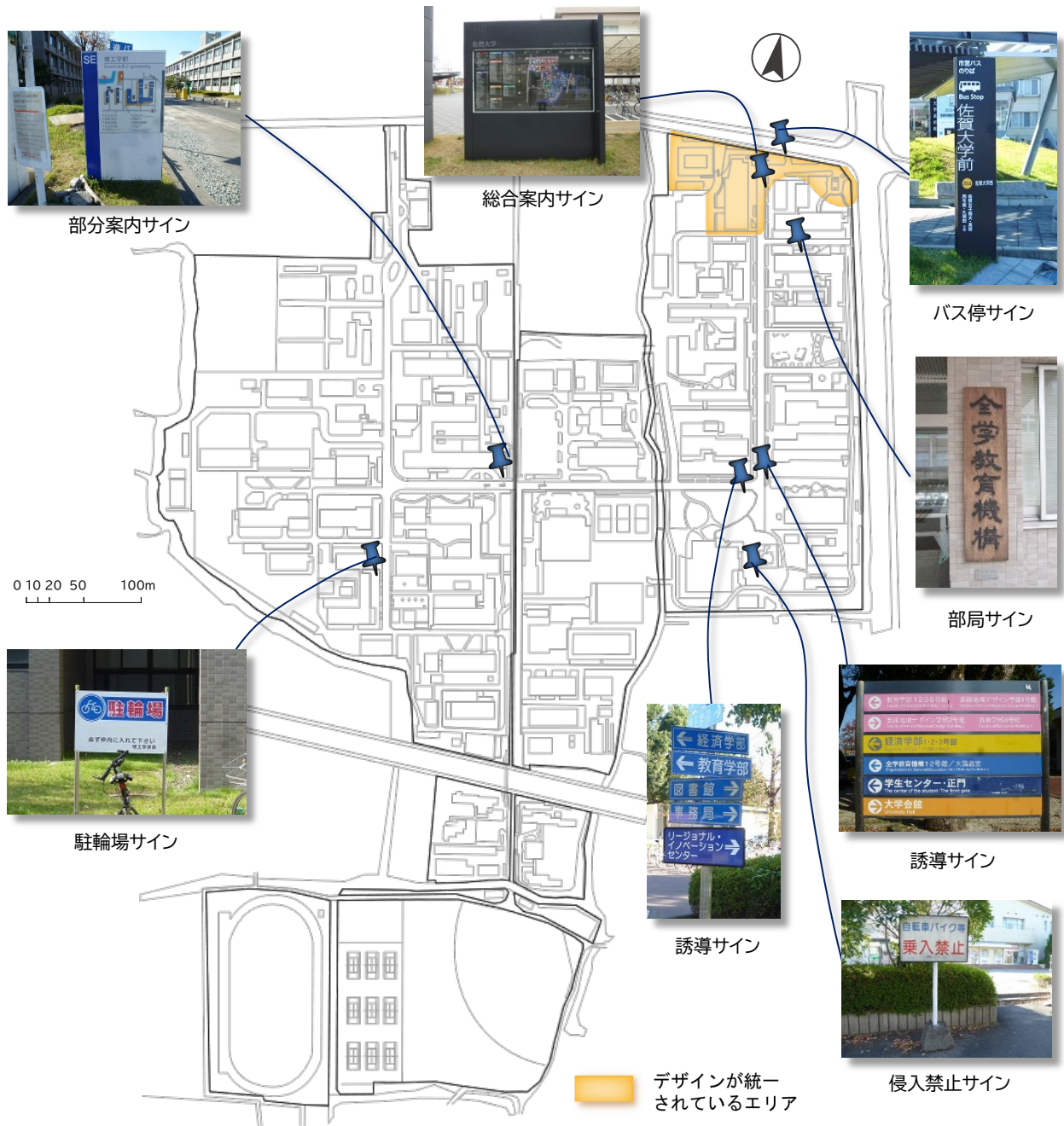


## 課題

- 1 スロープが設置されていない等、段差解消が不十分な場所がある。
- 2 通行に影響のある道路を計画的に改善する必要がある。



## (7) サイン



## 課題

- 1 正門エリア以外のデザインが統一されていない。
- 2 外国語表記がないものがある。
- 3 組織改編や建物名称の変更等に対し適切に名称の更新ができていない。
- 4 駐車場からの誘導サインが不足。

## (8) アート



## 課題

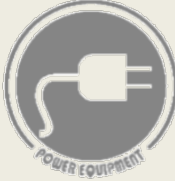
- 1 各所にアート作品が展示されており、芸術に強みを持つ大学として、今後も注力してゆく。

## (9) 基幹設備

基幹設備については、建物改修時に合わせた更新を実施している他、基幹整備事業として、耐用年数の概ね2倍を超えるライフライン設備の更新を進めています。

給水、ガス、電気設備等、主要な設備について概ね更新が行われているものの、経年進行により部品供給停止となった設備機器や更新を迎える時期となった各設備について、将来への対応やキャンパスの省エネルギー化の視点も踏まえ計画的に整備する必要があります。

各設備一覧

|  POWER EQUIPMENT | 電力設備   | 現 状                                          | 備 考                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
|                                                                                                    | 引き込み   | 特別高圧埋設管路引き込み                                 | —                                                          |
|                                                                                                    | 回線数    | 常用、予備22kVで2系統電力引き込み                          | —                                                          |
|                                                                                                    | 受電設備容量 | 4000kVA x 2                                  | —                                                          |
|                                                                                                    | デマンド出力 | 2470kW                                       | —                                                          |
|                                                                                                    | 契約種別   | 特定規模電気事業者と契約                                 | —                                                          |
|                                                                                                    | 構内配線敷設 | 管路埋設                                         | —                                                          |
|                                                                                                    | 停電対策   | 予備線自動切り替えによる対応                               | —                                                          |
|                                                                                                    | 省エネルギー | 高効率型変圧器および省エネ照明機器の採用、センサースイッチ採用による照明設備の自動点滅化 | 各電気室の変圧器で経年劣化が進んでいるものは順次更新が必要<br>各建物内の照明器具についてはLEDに順次更新が必要 |
|                                                                                                    | 新エネルギー | 太陽光パネルの設置                                    | 設置建物…教育学部1号館、教育学部5号館、経済学部1号館、附属図書館                         |

|  INFORMATION COMMUNICATION EQUIPMENT | 情報通信設備 | 現 状                                             | 備 考                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                         | 電話設備   | デジタル電子交換機                                       | 本部棟改築の際に交換機室を移設                                                                            |
|                                                                                                                         | 情報設備   | キャンパス情報ネットワーク構内LAN構築<br>ギガビットネットワーク構築（一部10Gbps） | —                                                                                          |
|                                                                                                                         | 防災電気設備 | 平成25年度にR型受信機に更新済                                | —                                                                                          |
|                                                                                                                         | 集中検針装置 | 平成17年以降、一部建物で導入<br>計測内容は、電力、水道、ガスなど             | 導入建物…教養教育1号館、経済・教育棟<br>理工学部1号館、理工学部3号館<br>理工学部9号館、農学部本館<br>管理区分毎にメーターを設置するなど、エネルギー管理の強化が必要 |



|  | 空調設備 | 現 状                                                    | 備 考                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
|                                                                                   | 空調方式 | 主に、業務用エアコンとビル用マルチエアコン（GHP、EHP）を採用。一部の居室では家庭用ルームエアコンを採用 | GHP老朽化によるランニングコストの増大とメーカー撤退による部品供給停止に伴い順次EHPに更新している |

|  | 熱源設備 | 現 状                 | 備 考                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------|------------------------------------------|
|                                                                                   | ボイラ  | なし                  | —                                        |
|                                                                                   | 冷凍機  | 空気熱源式スクルーヒートポンプチャラー | 附属図書館…冷355kW、暖375kW<br>美術館…冷148kW、暖119kW |

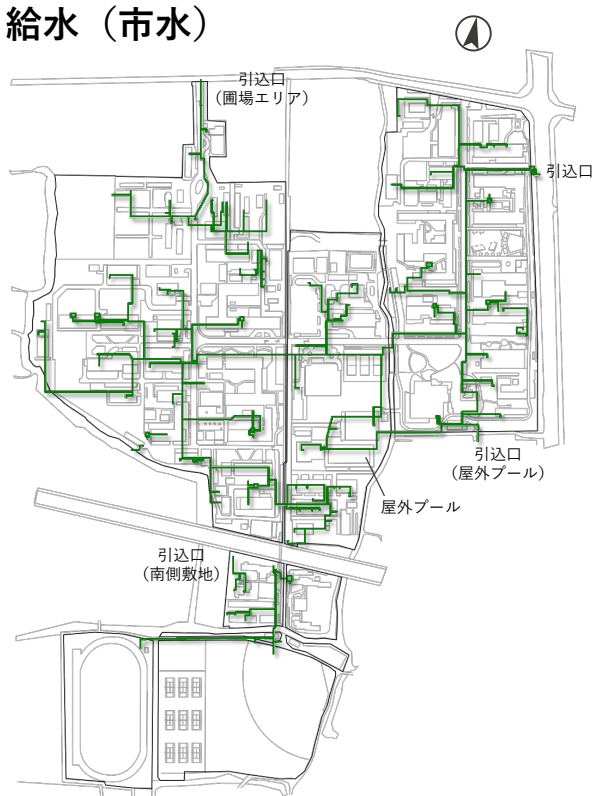
|  | 都市ガス設備 | 現 状      | 備 考                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------|-----------------------------------------------|
|                                                                                     | 使用先    | 団地内各所    | 実験用、生活用、熱源用として77,000m <sup>3</sup> （令和3年実績）使用 |
|                                                                                     | 配管     | 基幹配管更新完了 | ポリエチレン管（耐震性あり）                                |

|  | 給水設備 | 現 状                                                    | 備 考                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------|
|                                                                                     | 水源   | 市水                                                     | 市水使用量34,000m <sup>3</sup> 程度（令和3年実績） |
|                                                                                     | 給水方式 | 受水槽と高架水槽の組合せ（重力方式）または受水槽とポンプの組合せ（加圧給水方式）<br>低層建物は水道直結式 | —                                    |
|                                                                                     | 配管   | 基幹配管の更新はほぼ完了                                           | 一部未着手の配管は順次更新が必要                     |

|  | 排水設備 | 現 状                       | 備 考                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------|-----------------------------------------------------------|
|                                                                                     | 生活排水 | 公共下水道に放流                  | —                                                         |
|                                                                                     | 雨水排水 | 構外側溝に放流                   | 雨水量調整のための調整池あり。撤去不可。                                      |
|                                                                                     | 実験排水 | 建物周りの実験排水処理層を經由し、公共下水道に放流 | 設置建物…理工1,2,3,5,8,9号館<br>農学部本館,4号館<br>教育学部3,5号館<br>教養教育1号館 |

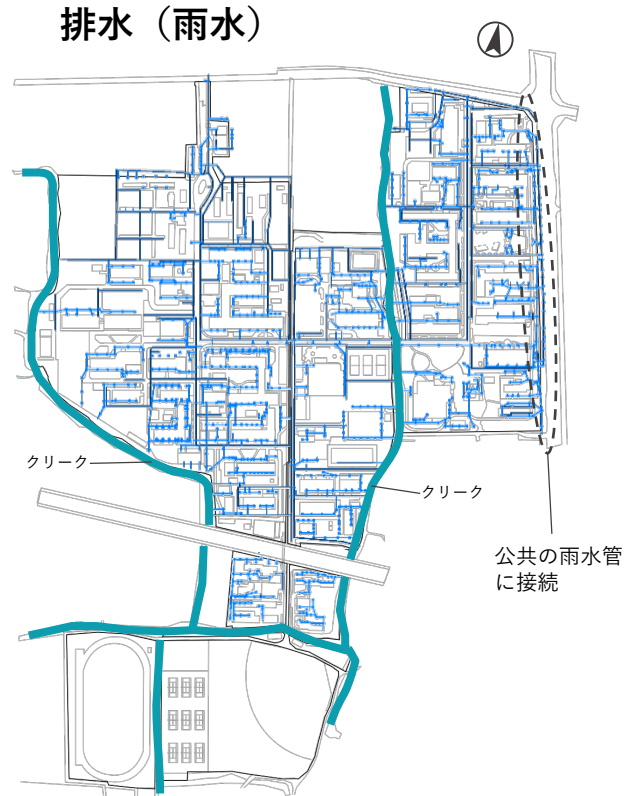


## 給水（市水）



東側道路から引き込んでいる。一部のエリア（南側敷地、屋外プール、圃場エリア）は別系統

## 排水（雨水）



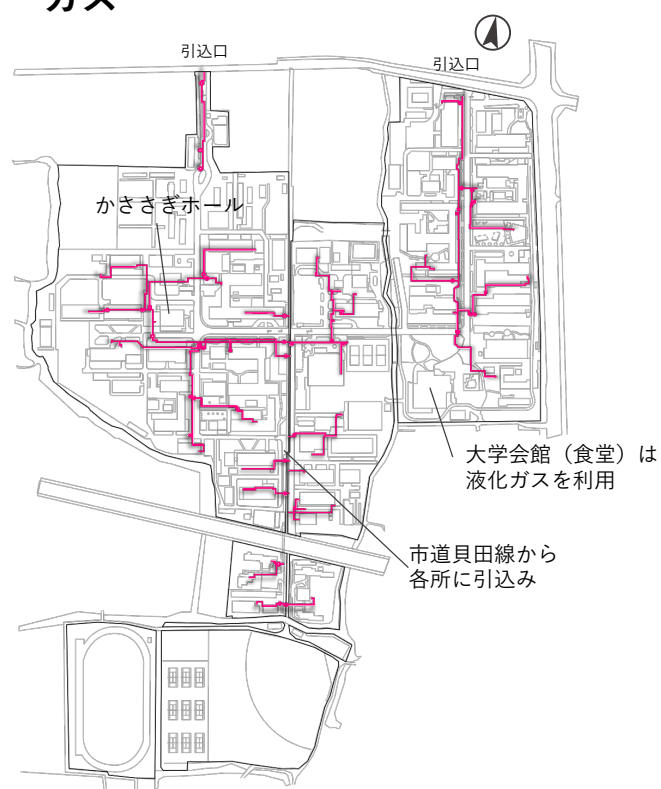
敷地東側は公共の雨水管へ接続し放流。その他は付近のクリークへ放流

## 排水（汚水）



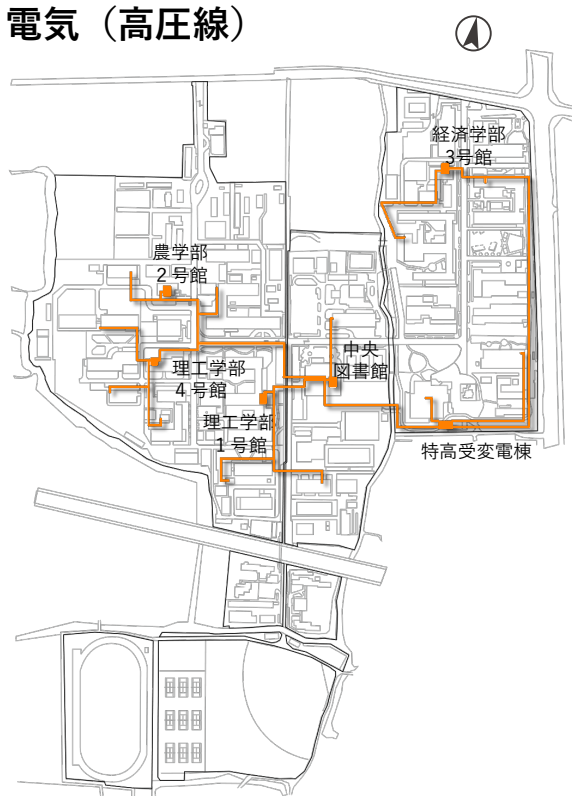
市道貝田線、美術館北側、大学会館南側、の公共下水に接続

## ガス



一般系統（低圧）を各所に整備。かささぎホール（食堂）はガス会社所有の中圧管が引き込まれている。

## 電気（高圧線）



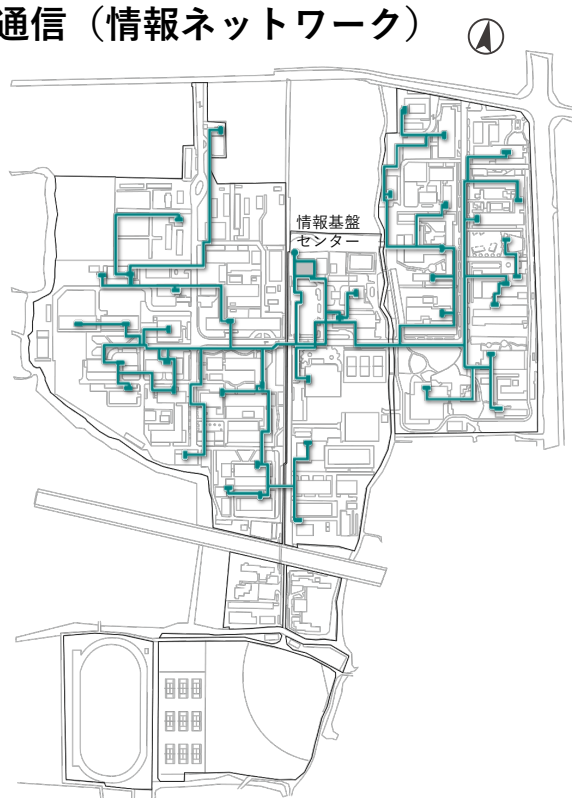
特高受変電棟から各エリアの電気室に配線

## 電話



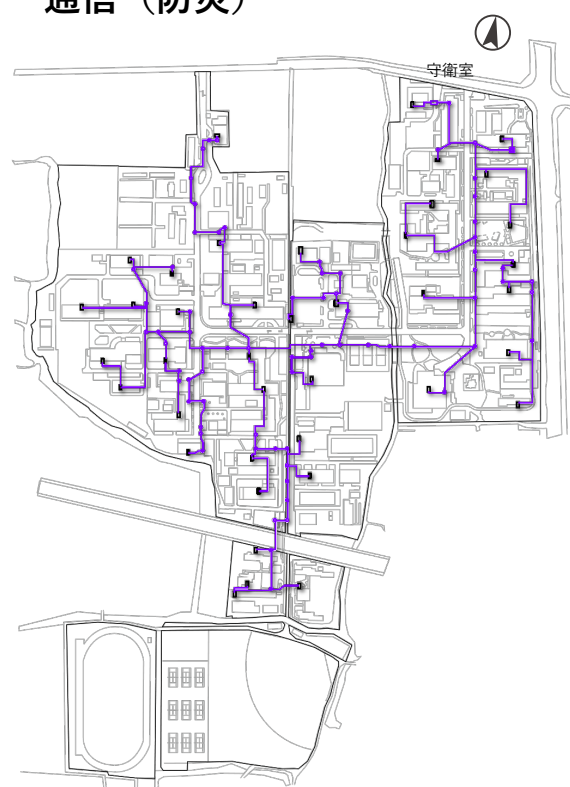
東側道路から電話線を引込み各建物へ分岐

## 通信（情報ネットワーク）



市道貝田線から情報基盤センターに引き込み  
各建物へ配線

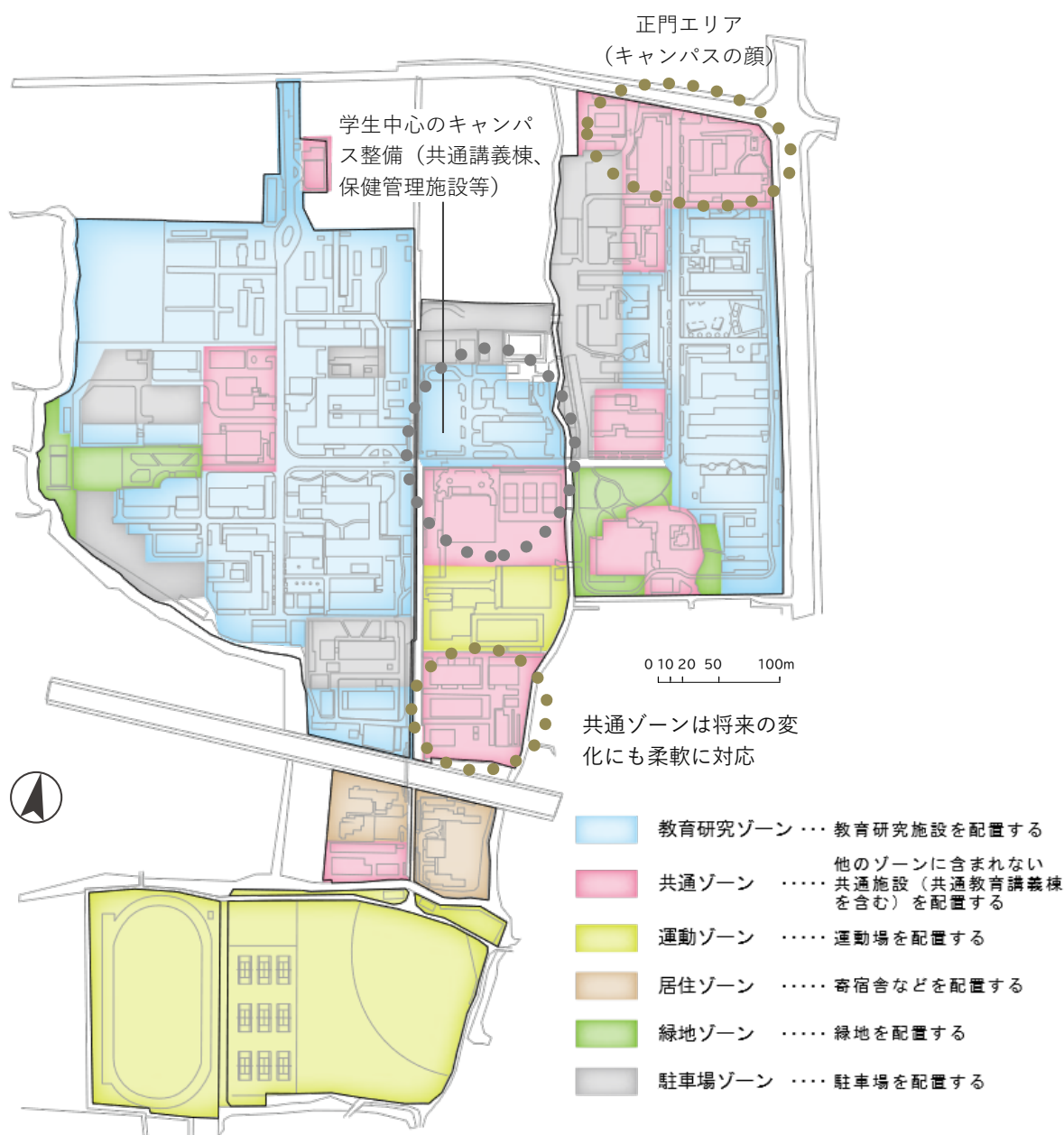
## 通信（防災）



美術館守衛室で各建物の火災情報を把握

## 2-3.計画

## (1) ゾーニング計画



## 対 策

関連するSDGs



## 1 ゾーンの集約整理

- ・ 正門前は地域との交流のため共通ゾーンを拡大する。
- ・ 法人本部棟を正門周辺に移転し、跡地に共通教育講義棟を集約する。
- ・ 法人本部跡地付近に学生生活を支援する施設や機能 (学生支援室、保健管理施設等) を集約する。

## 2 運動ゾーンの縮小整理

- ・ 図書館西側のテニスコートを国道208号南の運動ゾーンに集約する。

## 3 緑地ゾーンの拡大



## (2) 動線計画



## 対 策

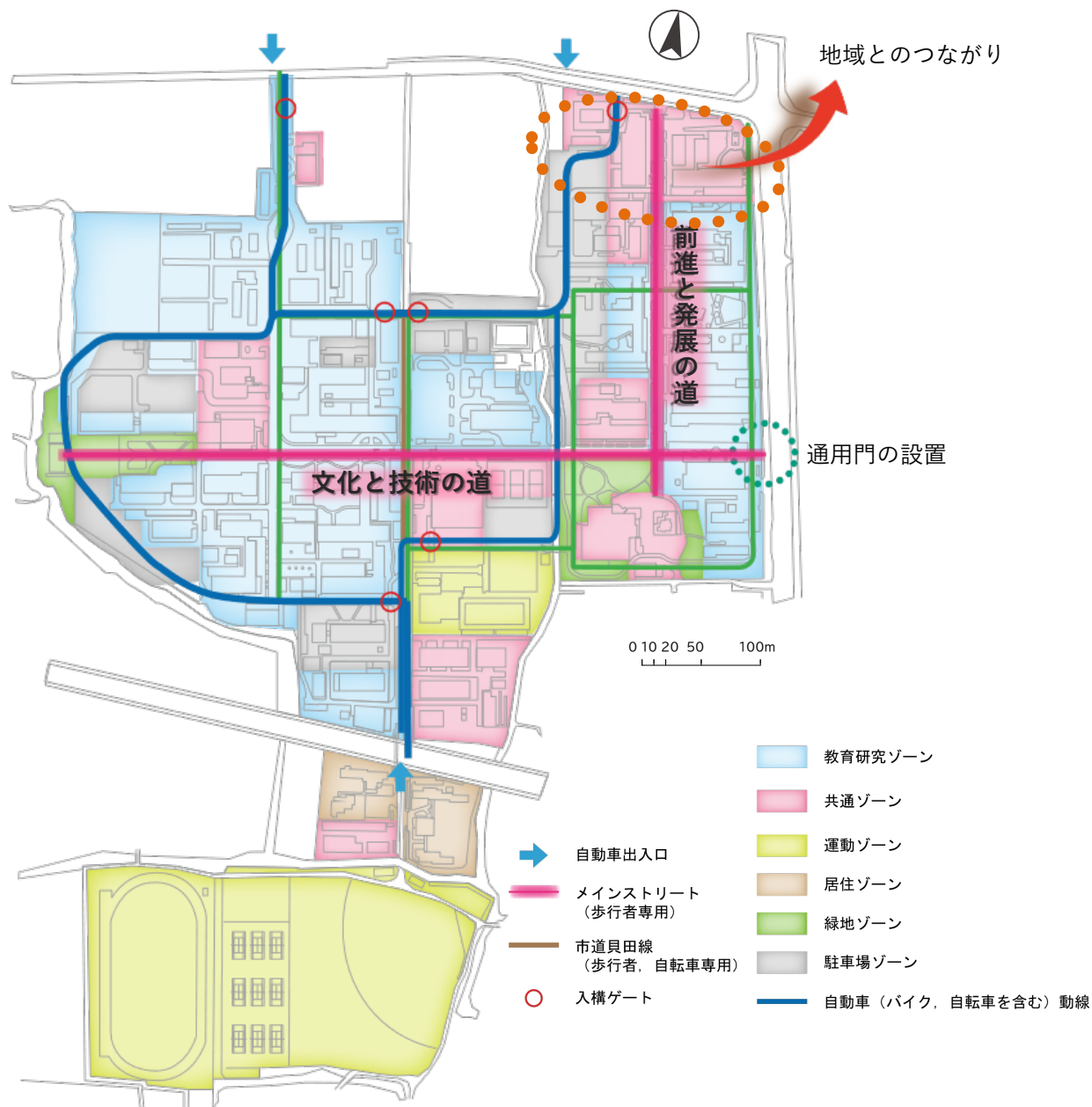
関連するSDGs



- 1 市道貝田線は自治体等と協議し安全性を確保する。また、市道廃止等に関する佐賀市との協議を継続して行う。
- 2 メインストリートは原則車両を通行止め（歩行者専用通路）とし、車両のメイン動線をキャンパスの外周部に整備する。（救急車両やサービス車両等は建物の近くにアクセス可能な計画とする。）
- 3 歩道橋は佐賀大学入口のサインとして活用するなど当面は使用し、代替のサイン整備が可能となった場合は廃止する。

## ゾーニング計画+動線計画

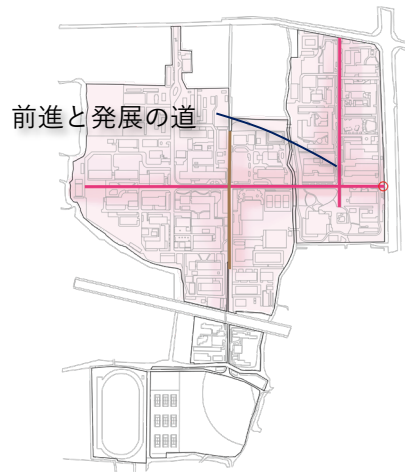
キャンパスの骨格となるゾーニング及びメイン動線の計画



**南北に延びるメインストリート** : 新緑の頃には美しいラクウショウが茂る南北線の南の先には有明海があり、古代より浮泥の自然沈下堆積と干拓により陸化が進んできた。この歴史性を踏まえ「**前進と発展の道**」として軸線を性格付ける。

**東西に延びるメインストリート** : 佐賀市内を横断する長崎街道は、鎖国時代の長崎出島を通じた西洋文化と技術の通り道であった。この歴史性を踏まえ東西軸を「**文化と技術の道**」として性格付ける。

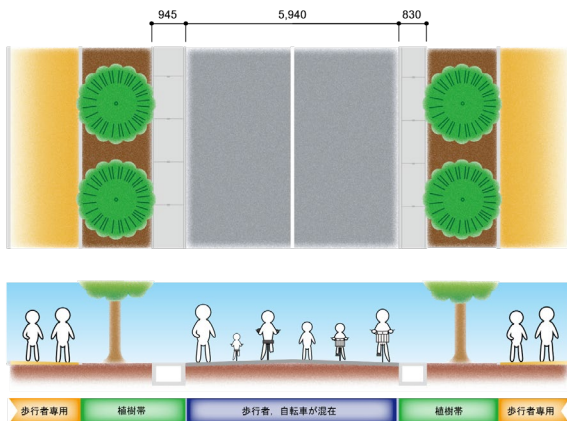
## メインストリートのイメージ (前進と発展の道)



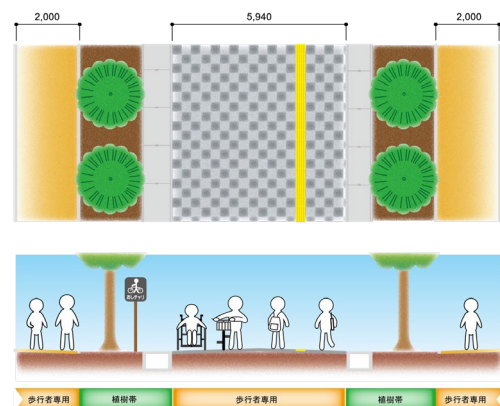
(KEY PLAN)



歩行者専用道路とする。自転車は、おしチャリのみ通行可能とする。



(現 状)



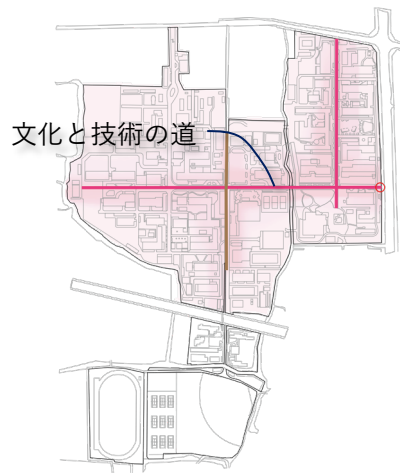
(計 画)



らくうしょう並木と建物との調和 (H29年撮影)



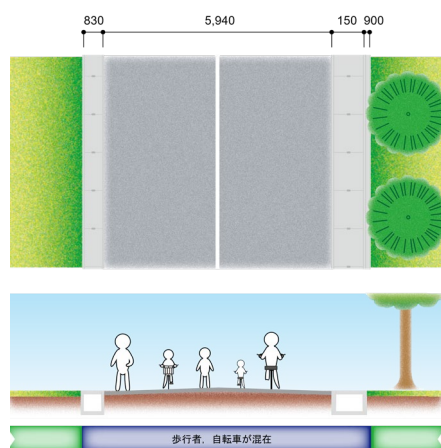
## メインストリートのイメージ (文化と技術の道)



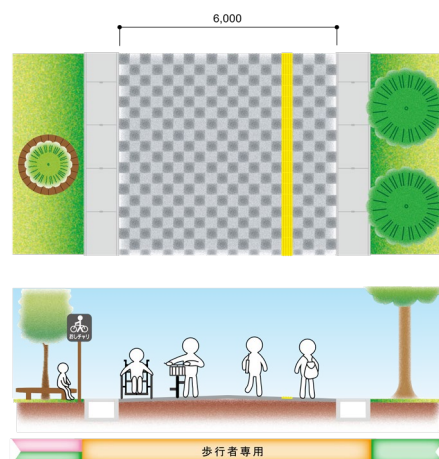
(KEY PLAN)



歩行者専用道路とする。自転車は、おしチャリのみ通行可能とする。



(現 状)



(計 画)



メインストリート現状 (文化と技術の道)



## (3) パブリックスペース計画



## 対 策

関連するSDGs



- 1 理工学部8号館周辺に（パブリックスペースを）確保する。
- 2 メインストリート沿いにパブリックスペースを連続して配置し、キャンパスのイノベーション・コモンズ化に寄与する交流空間を形成する。

## (4) 駐車場（駐輪場）計画



## 対 策

関連するSDGs



- 1 駐車場は自動車動線沿いに配置する。ただし、バリアフリー対応の駐車場は改修工事等に合わせて建物の近くに計画し安全な移動経路を確保する。
- 2 地域開放等に対応するための駐車場収容台数を確保する。
- 3 駐輪場（自転車置場）は、校舎と校舎の間に適宜設ける。また、駐輪場には屋根の設置を進める等、駐輪場の利用を誘導する。バイク置き場は、出入口周辺に適宜設ける。

## (5) 緑地計画



## 対 策

関連するSDGs

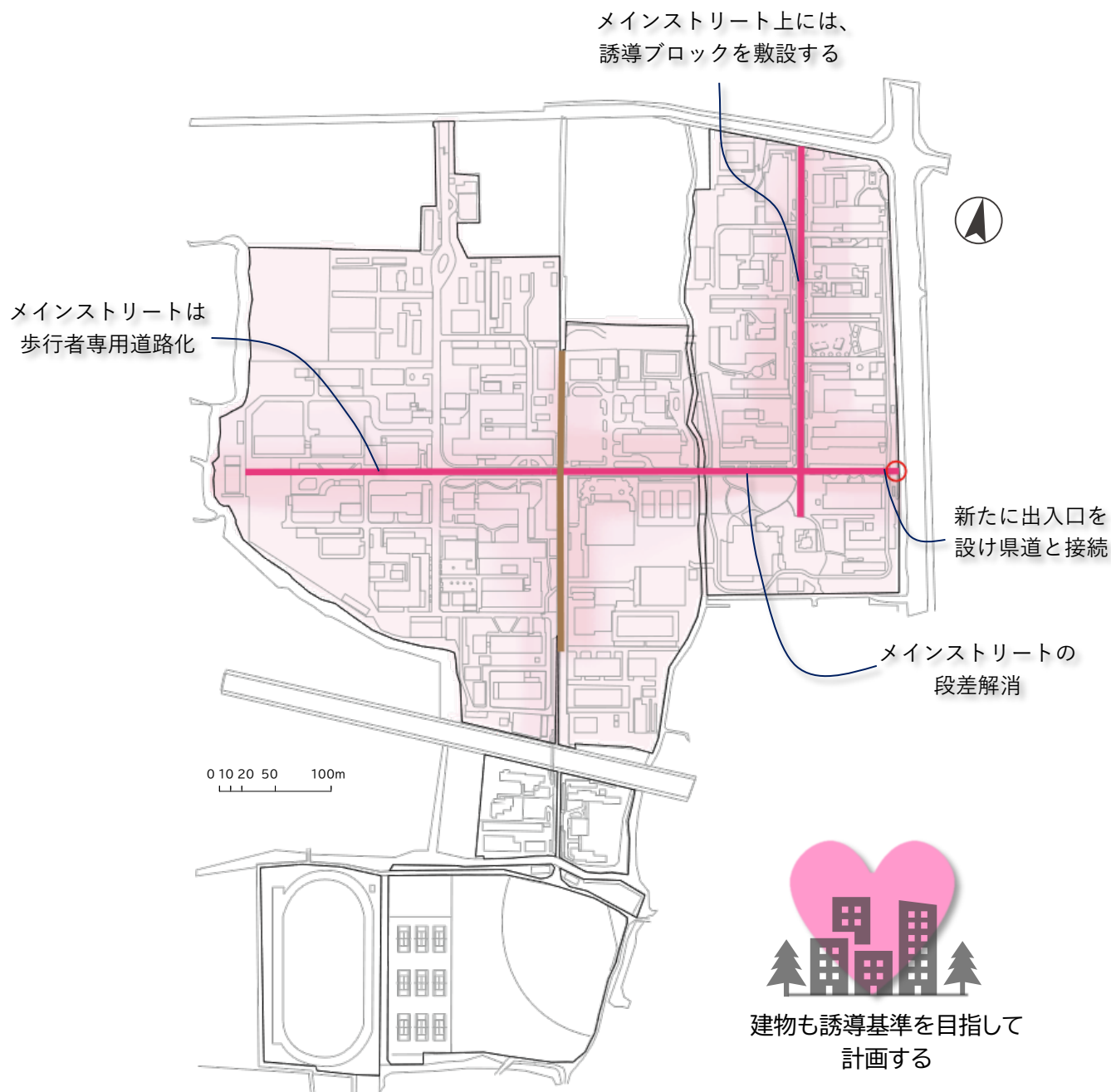


- 緑地の管理が行き届くよう、適正な規模に整理し、魅力的な空間の形成に寄与する。
  - ・ラクウショウ並木は大学のシンボルとして保存。  
アベリアは移植
- パブリックスペースは計画的な植樹を行う。





## (6) ユニバーサルデザイン計画 (例)



## 対 策

関連するSDGs



- 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等の関連の整備マニュアルを基に整備を行う。
- 2 安全対策を図りつつ、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン（誘導基準）の視点も重視した整備を行う。

## (7) サイン計画 (例)



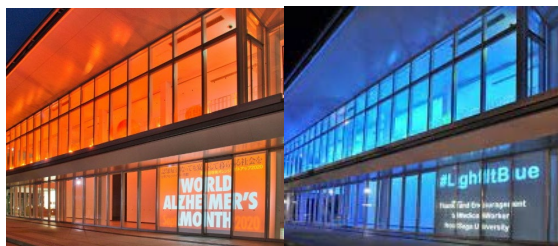
## 対 策

関連するSDGs



- 1 外部サインはキャンパス全体において統一を図る。内部サインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする。
- 2 サイン計画の詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う。
- 3 組織再編や新たなキャンパス整備などでサインの情報が古くならないよう維持管理を行う。
- 4 来訪者が迷わないよう、適切な場所に案内サインを整備する。

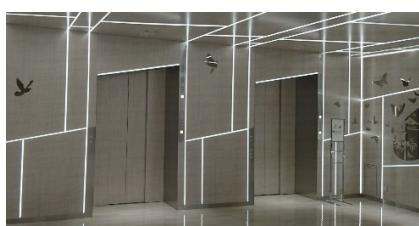
## (8) アート計画 (例)



空間を特色づける光環境 (佐賀大学美術館)



落ち着いた空間を演出する外壁デザイン (佐賀大学)



アート作品と一体的な内装デザイン



壁面を活用したレリーフ



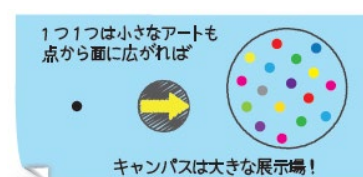
建物と家具による内部空間

自然石により統一された  
車止めのデザイン舗装材と植栽の使い分け  
によるデザイン

シンボルアートの例



案内サイン・ベンチを活用したアート

マンホールを活用した  
アートの例

## 対 策

関連するSDGs



芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体がアートの空間となり、魅力あるイノベーション・commonsとしてデザインされた空間となる施設整備を推進する。

作品はパブリックスペース等の共用部への配置を基本とし、企画段階から製作者と設置場所に応じたコンセプト、周囲の調和等について検討を行う。

パブリックスペースは、学生の創作展示の場としても活用する。



## (9) 基幹設備計画

基幹設備計画では、教育・研究の円滑な遂行を支えるための基盤として、キャンパス全体の安全性、将来の変化に対応するための拡張性や柔軟性を有しつつ、地球環境に配慮したエネルギー供給や効果的・効率的な維持管理を行い、強靱かつサステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



### 対 策

関連するSDGs



#### 1 安全・安心を支える基幹設備計画

更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要個所を集中的に予防保全する。また、佐賀市排水対策基本計画をはじめとした域内の防災対策等を注視しつつ、災害に強いキャンパス整備を推進する。

#### 2 質の高い教育・研究活動を支える基幹設備計画

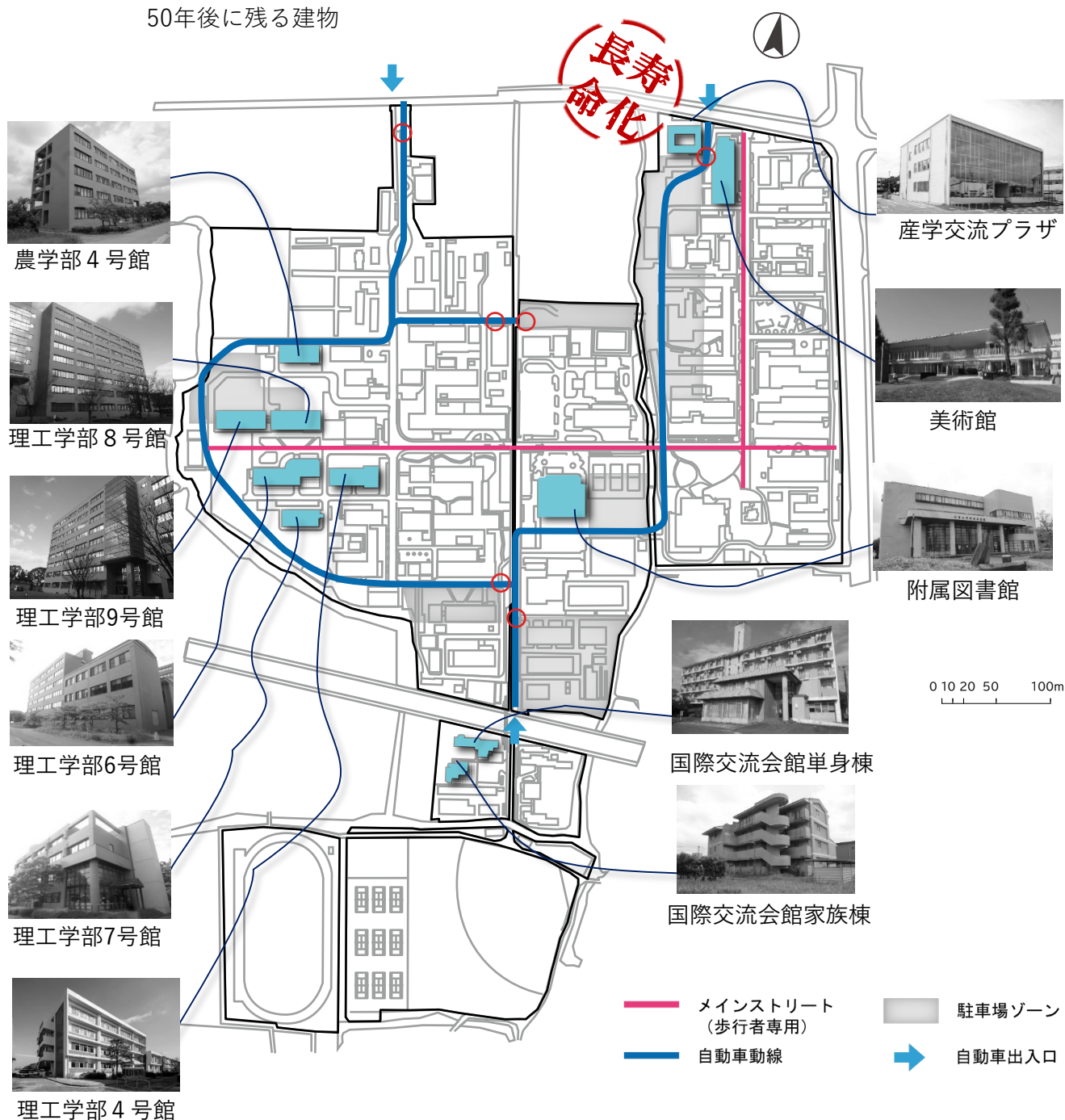
建物の将来計画や教育研究内容の変化に追従可能となるような、強靱かつ柔軟性のあるシステムを採用する。

#### 3 カーボンニュートラルキャンパスの形成に資する基幹設備計画

CO<sub>2</sub>排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入を進める。

## (10) 施設整備計画

50年後に残る建物



## 対策

関連するSDGs



- ・既存建物は性能維持改修をしっかりと行い、キャンパス全体の施設の長寿命化に努める。
- ・改築の際は施設機能の規模の最適化や他施設との集約化に努めるとともに、外観デザインや建物高さの考慮など環境に配慮したサステイナブルな建築を行う。

# 第3章



鍋島キャンパス



## 第3章 鍋島キャンパス

### 3-1.概要

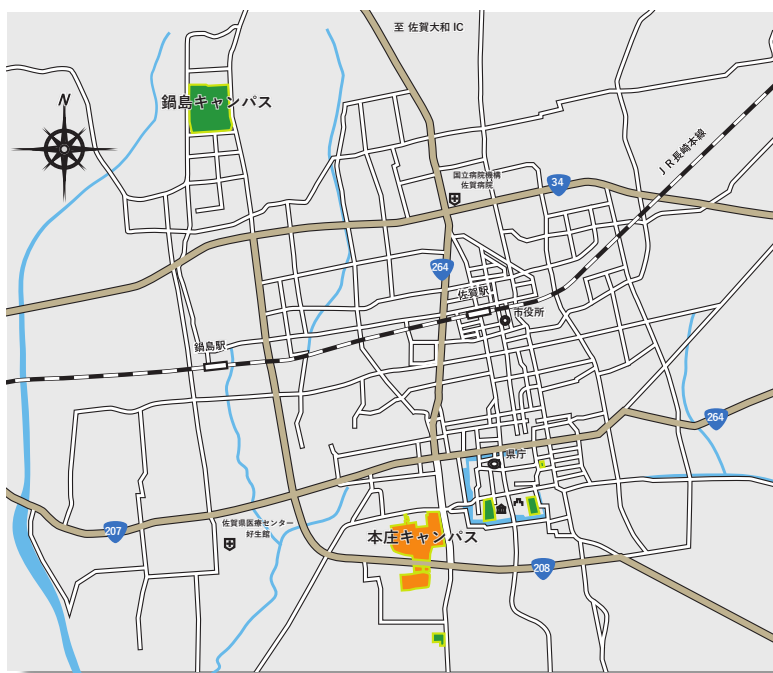
#### (1) 概要

鍋島キャンパスは、ＪＲ佐賀駅の北西約４ｋｍに位置し、佐賀医科大学の敷地・施設を継承して、医学部や附属病院などの組織と関連施設が設置されています。キャンパス内の人口は、学生約１，０００人、教職員約１，８００人、附属病院利用者約１，４００人などを含め４，２００人以上に及びます。学生の約６割が自転車通学です。また、附属病院は基幹災害拠点病院に指定されており、２０１４年からは佐賀県との共同事業であるドクターヘリの運用が開始されています。

敷地は低平地である佐賀平野に属し標高は７～８ｍで本庄キャンパスより高い標高に立地しています。キャンパス内は平坦であり、高低差も殆どありません。周囲には住宅地が並び、さらにそれを取り囲むように農地が広がっています。都市計画法における用途地域は第一種中高層住居専用地域であり、落ち着いた環境が形成されています。

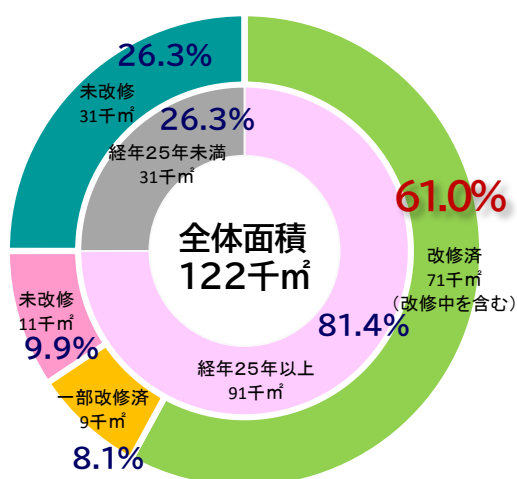


鳥瞰パース(附属病院再整備後)



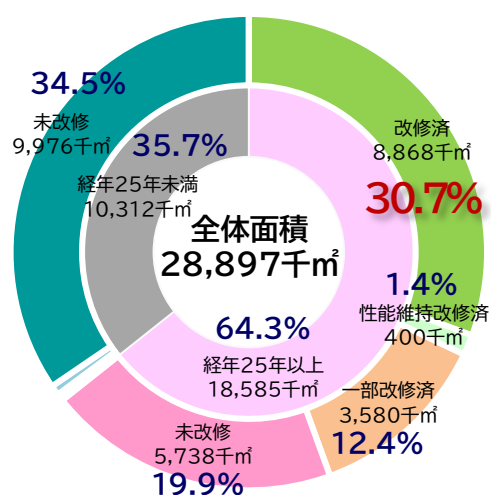
鍋島キャンパスは昭和50年代に新設医科大学として整備されており、現在は附属病院の再整備が行われています。建物の面積は、約122,000㎡ほどであり、建築後約25年以上の老朽施設が80%を超えています。附属病院が再整備中であることに加え、学部施設の改修も進み改修率は約61%までに達し、全国の国立大学法人等の改修率と比較しても整備が進んでいることがわかります。

病院の再整備を含め改修は進んでいるところですが、今後も計画的な整備が必要です。



(R4.5.1)

保有面積（鍋島キャンパス）



保有面積（全国の国立大学）

## (建物一覧)



- |              |               |                 |                |
|--------------|---------------|-----------------|----------------|
| 1. 課外活動施設    | 10. 看護師宿舎     | 19. 附属図書館医学分館   | 28. 地域医療支援センター |
| 2. 格技体育館     | 11. 医学部宿舎     | 20. 管理棟         | 29. 非常勤講師宿泊施設  |
| 3. 体育館       | 12. 保育所       | 21. 臨床講堂        | 30. ドクターヘリ格納庫  |
| 4. 動物・RI実験施設 | 13. 看護学科棟     | 22. 附属病院        | 31. 車庫         |
| 5. 院生・臨床研究棟  | 14. 講義棟・基礎実習棟 | 23. RI治療棟       | 32. 立体駐車場      |
| 6. 災害支援棟     | 15. 医学部会館     | 24. 高エネルギー治療棟   | 33. バス待合所      |
| 7. 中央機械室     | 16. 学生サークル棟   | 25. MRI棟        | 34. トリアージ棟     |
| 8. 診療支援棟     | 17. 医学部会館（食堂） | 26. 南診療棟        |                |
| 9. 北病棟       | 18. 基礎・臨床研究棟  | 27. 救急ワークステーション |                |

## (改修状況)



| 経過年数  | 保有面積     |       | 全面改修済   |       | 性能維持改修済 |      | 一部改修済  |       | 未改修     |       |
|-------|----------|-------|---------|-------|---------|------|--------|-------|---------|-------|
|       | 面積       | 割合    | 面積      | 割合    | 面積      | 割合   | 面積     | 割合    | 面積      | 割合    |
| 50年以上 | 0㎡       | 0.0%  | 0㎡      | 0.0%  | 0㎡      | 0.0% | 0㎡     | 0.0%  | 0㎡      | 0.0%  |
| 40年以上 | 75,577㎡  | 61.9% | 66,180㎡ | 87.6% | 0㎡      | 0.0% | 2,738㎡ | 3.6%  | 6,659㎡  | 8.8%  |
| 30年以上 | 84,482㎡  | 69.2% | 70,500㎡ | 83.5% | 0㎡      | 0.0% | 3,163㎡ | 3.7%  | 10,819㎡ | 12.8% |
| 25年以上 | 91,500㎡  | 75.0% | 70,720㎡ | 77.3% | 0㎡      | 0.0% | 9,341㎡ | 10.2% | 11,439㎡ | 12.5% |
| 20年以上 | 91,537㎡  | 75.0% | 70,744㎡ | 77.3% | 0㎡      | 0.0% | 9,341㎡ | 10.2% | 11,452㎡ | 12.5% |
| 20年未満 | 30,482㎡  | 25.0% |         |       |         |      |        |       |         |       |
| 合 計   | 122,019㎡ |       | 70,744㎡ | 57.9% | 0㎡      | 0.0% | 9,341㎡ | 7.7%  | 11,452㎡ | 9.4%  |



## (都市計画法上の用途地域)

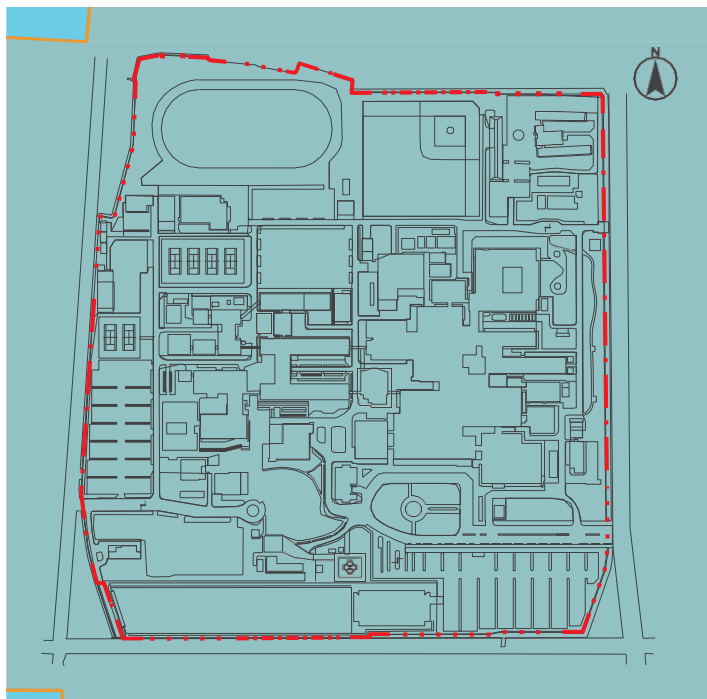
用途地域



|      |              |  |
|------|--------------|--|
| 用途地域 | 第一種中高層住居専用地域 |  |
|      | 第二種中高層住居専用地域 |  |
|      | 第一種住居地域      |  |
|      | 第二種住居地域      |  |

敷地面積：235,424㎡  
防火地域：法22条区域

都市計画区域など



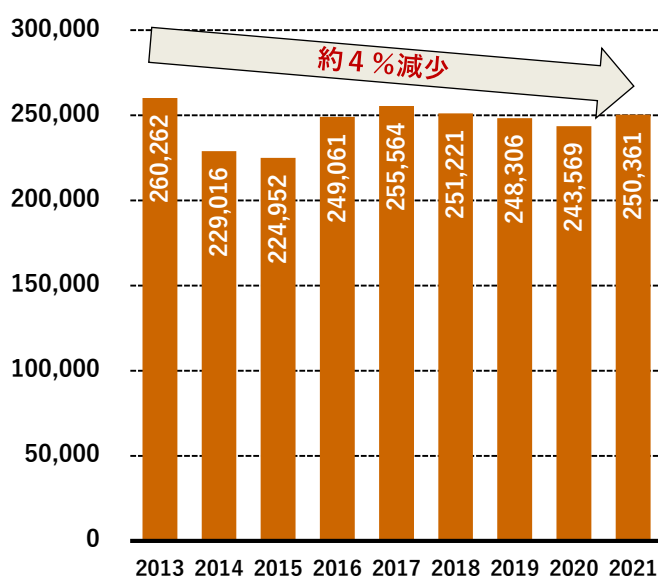
|          |         |  |
|----------|---------|--|
| 都市計画区域など | 市街化調整区域 |  |
|          | 市街化区域   |  |

## (エネルギー消費および二酸化炭素排出状況)

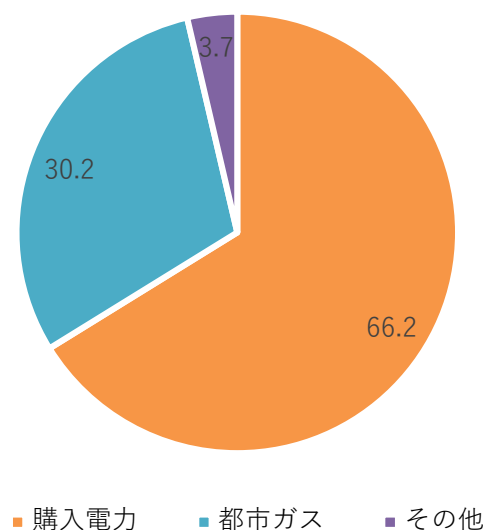
鍋島キャンパスの総エネルギー使用量は2013年度から約4%削減、水使用量は約30%削減、二酸化炭素排出量は約30%削減されています。また、エネルギーの構成として購入電力が約66%、都市ガスが約30%を占めています。

省エネルギー機器の計画的な導入・更新によるエネルギーおよび二酸化炭素排出量の削減が今後も求められていきます。

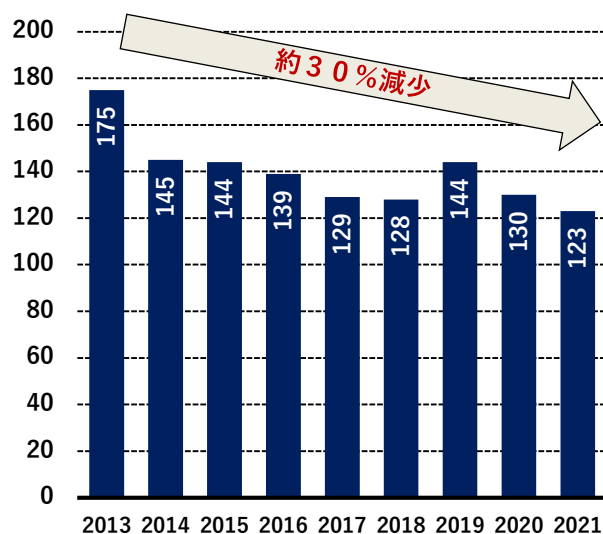
エネルギー使用量 (GJ)



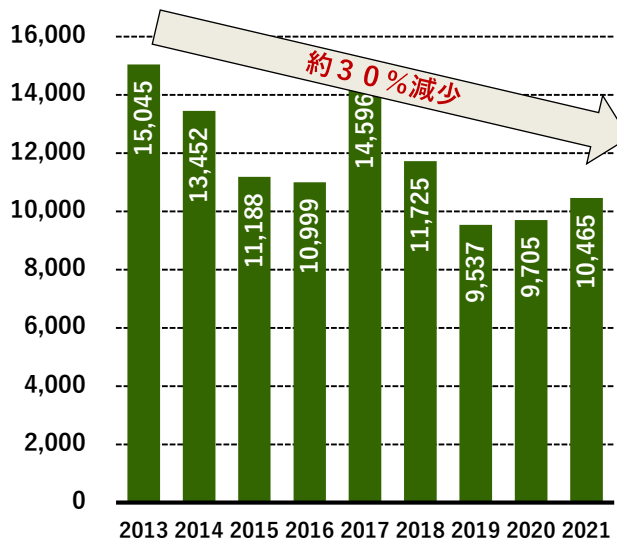
使用エネルギーの構成 (%)



水使用量 (t)

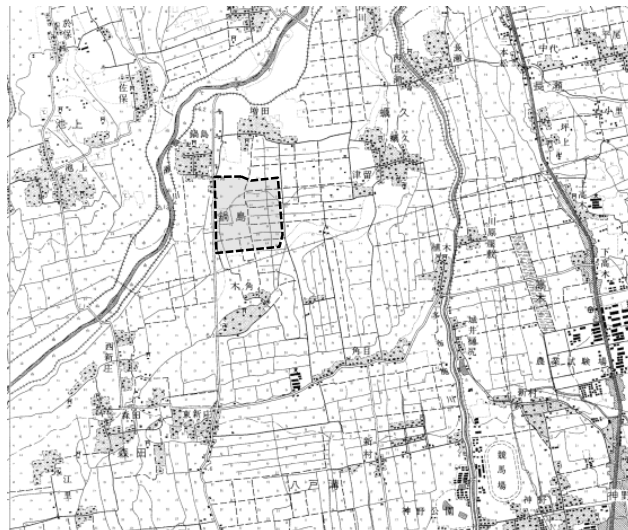


CO2排出量 (t-CO2)



## (2) 変遷

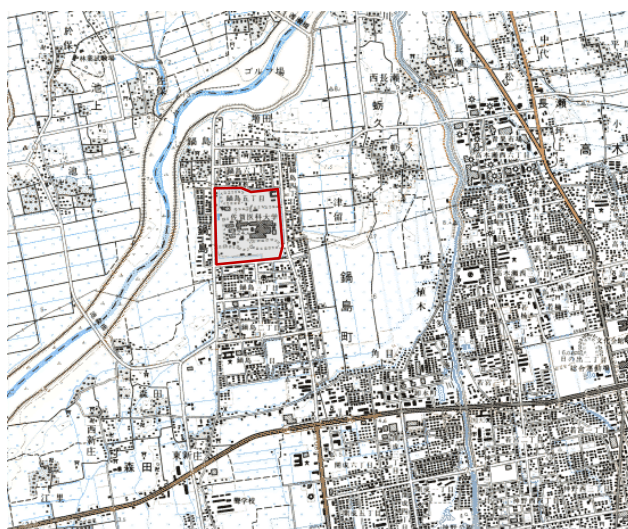
## (敷地周辺の変遷)

1964年  
(昭和39年)

鍋島キャンパス整備前の敷地一体は農地として利用されていた。南東側の市中心部には競馬場や農業試験場があった。

1981年  
(昭和56年)

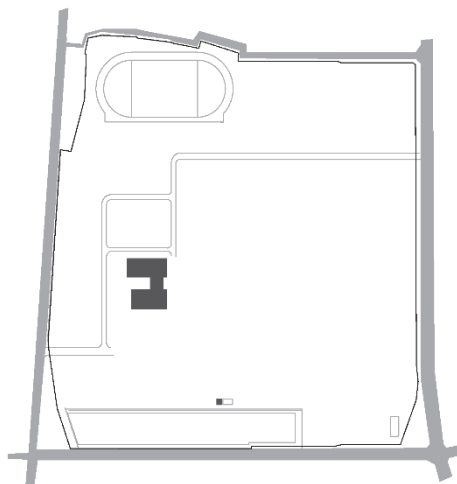
農地が造成され、鍋島キャンパスが整備された。南東の農業試験場跡地に陸上競技場が整備されている。キャンパス周辺は農地のままであった。

1998年  
(平成10年)

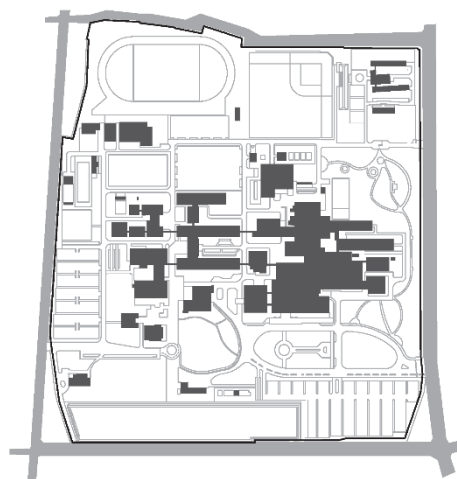
キャンパス周辺の建物整備が進み、現在の状況に近い形となっている。人口密度が増加し、キャンパスへの交通対策は喫緊の課題である。

時系列地形図閲覧サイト  
「今昔マップ on the web」より  
佐賀大学の位置を追記

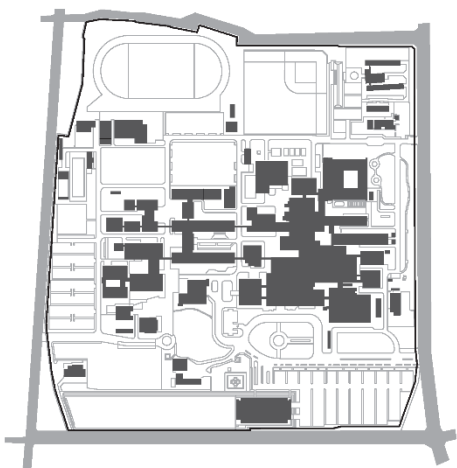
## (キャンパス内の変遷)

1978年  
(昭和53年)

1976年に佐賀医科大学が開校した。田畑が周囲一面に広がる敷地に講義棟を建設することから始まった。

1989年  
(平成元年)

校舎及び病院を建設していき、キャンパス東側に附属病院、西側に教育研究施設を配置し、現在のキャンパスの骨格を形成していった。

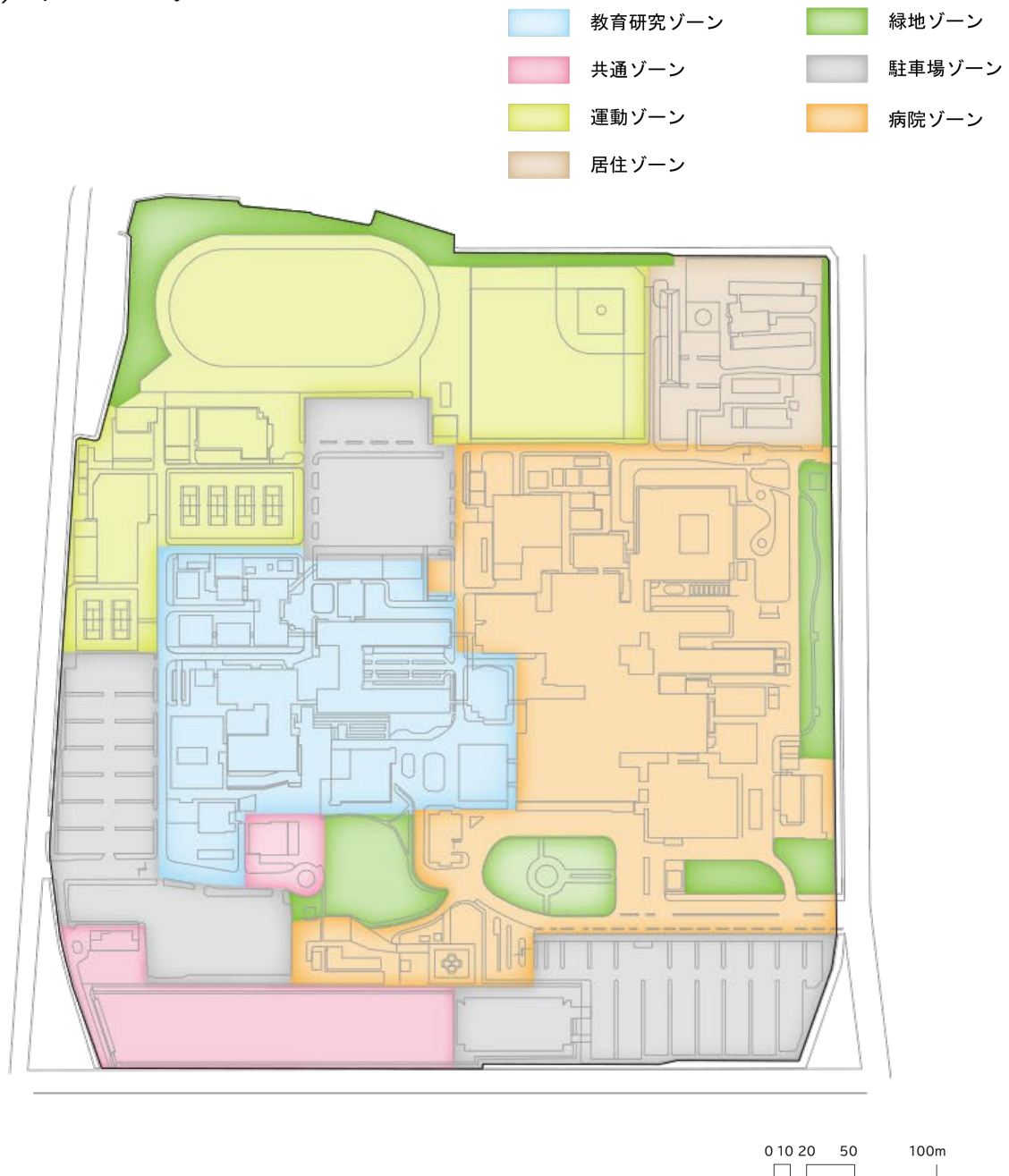
2022年  
(令和4年)

現在、附属病院の再整備が行われており、新病棟やドクターヘリのためのヘリポートが新たに設けられた。



## 3-2. キャンパスの現状と課題

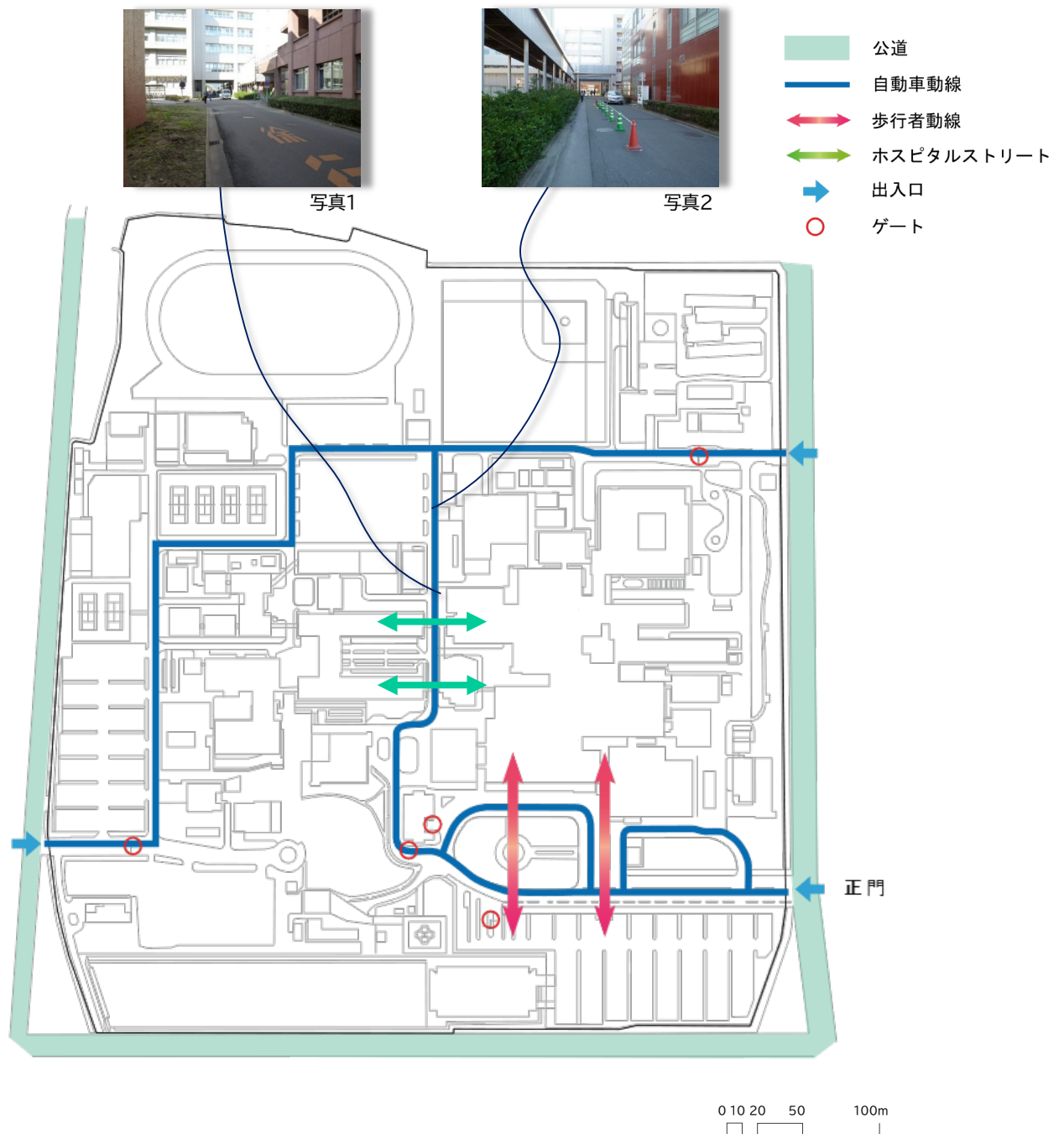
### (1) ゾーニング



#### 課題

- 1 次期病院の再整備を見据えたゾーニングにより計画的な整備を実施する必要がある。

## (2) 動線



## 課題

- 1 キャンパスを貫く道路は、幅が狭く見通しも悪いため歩行者にとって危険な面がある。（写真1、2）
- 2 医学部から附属病院への移動経路について、病室や研究室前の廊下を通過するなど、改善が必要な経路がある。

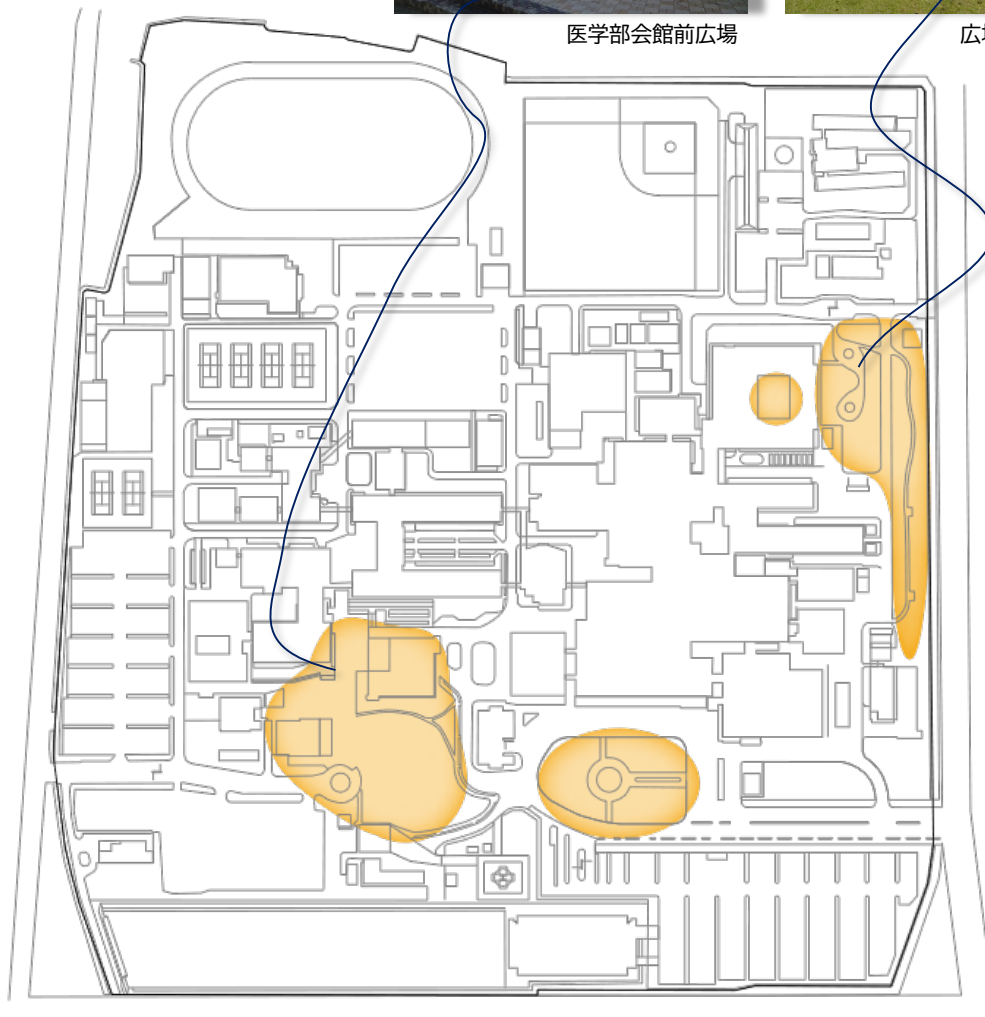
## (3) パブリックスペース



医学部会館前広場



広場および遊歩道



 パブリックスペース

0 10 20 50 100m

## 課題

- 1 教育研究ゾーンのパブリックスペースを充実させる必要がある。(写真1、2)

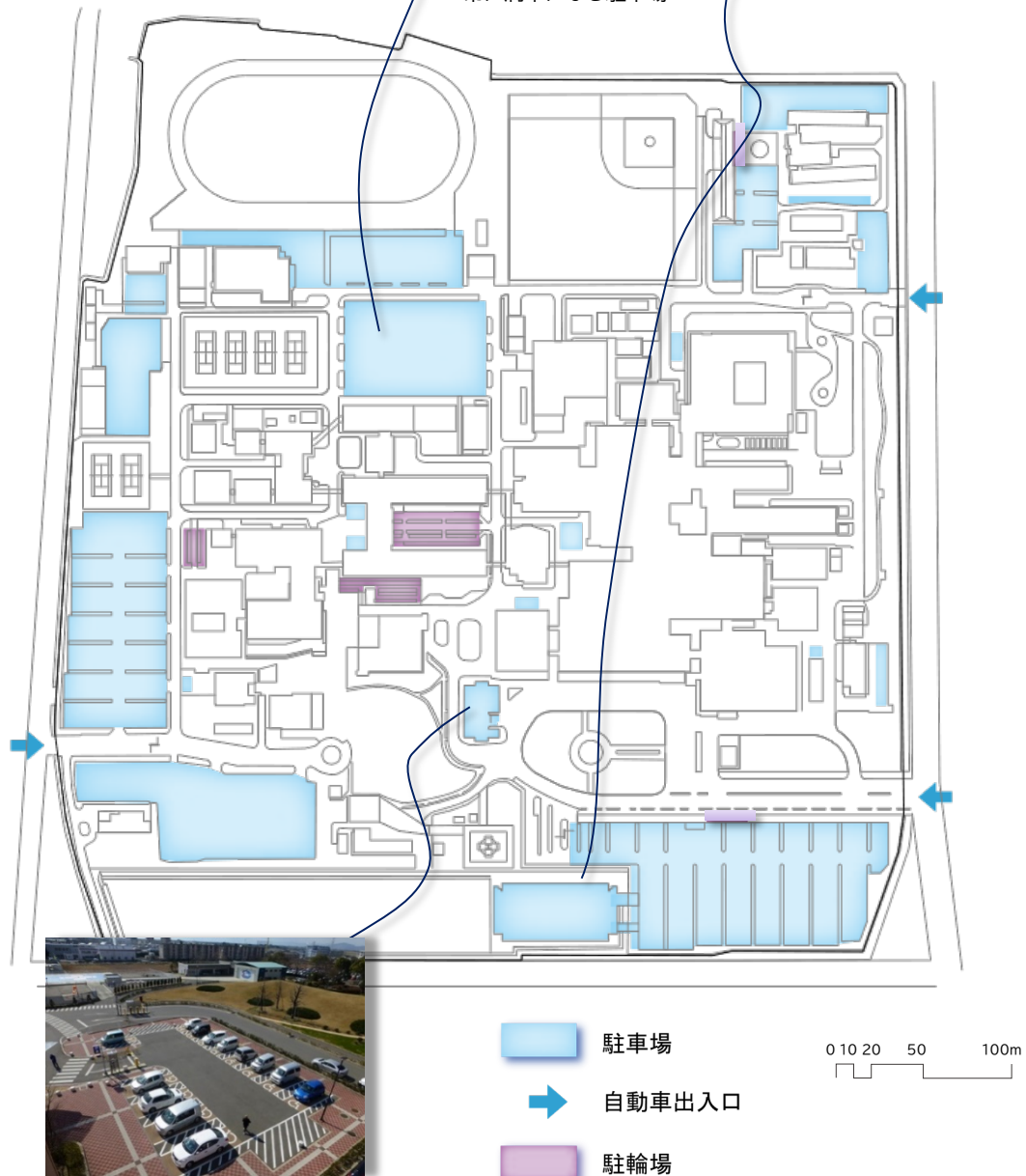
## (4) 駐車場 (駐輪場)



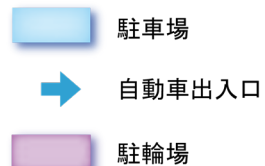
常に満車になる駐車場



調整池を活用した立体駐車場



身障者対応駐車場



0 10 20 50 100m

## 課題

- 1 附属病院の再整備による病院規模の拡大により、駐車場が慢性的に不足している。



## (5) 緑地



緑地により視認性の悪い通路



病院玄関前の緑地



築山庭園

歴史があり、将来へ継承すべき緑地

## 課題

- 1 樹木が視界を妨げ、事故の危険性が高い場所がある。
- 2 キャンパスの顔となる場所に緑地が多く、維持管理をしっかりと行う必要がある。

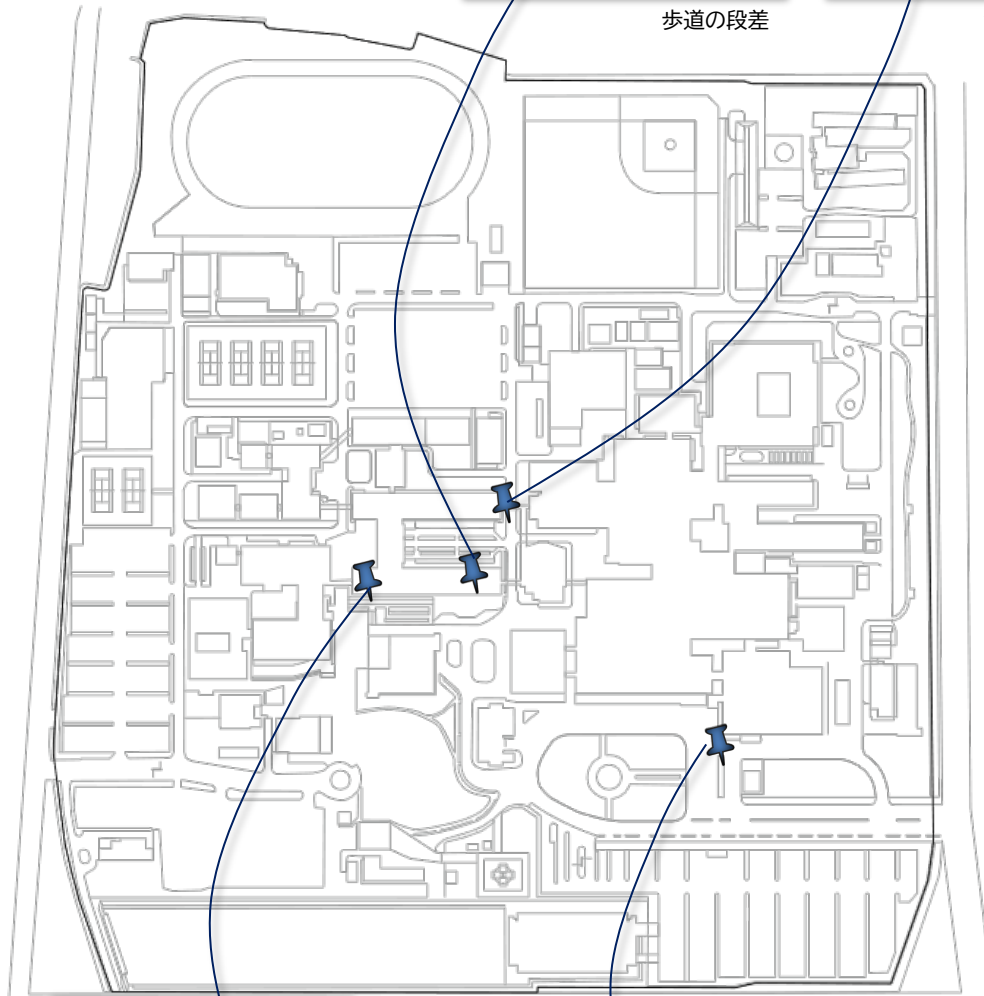
## (6) ユニバーサルデザイン



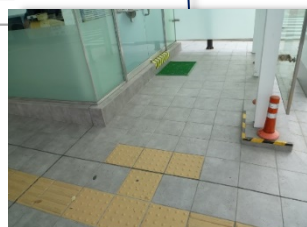
歩道の段差



歩道のない道路



手すりがなく、見通しの悪いスロープ



受付の前で途切れている誘導ブロック

0 10 20 50 100m

## 課題

- 1 スロープが設置されていない等、段差解消が不十分な箇所がある。
- 2 通行に支障のある道路を計画的に改善する必要がある。

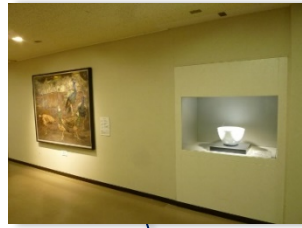
## (7) サイン



## 課題

- 1 病院エリア以外のデザインが統一されていない。
- 2 外国語表記がないものがある。
- 3 経年劣化等で不明瞭なサインがある・
- 4 駐車場からの誘導サインが不足。

(8) アート



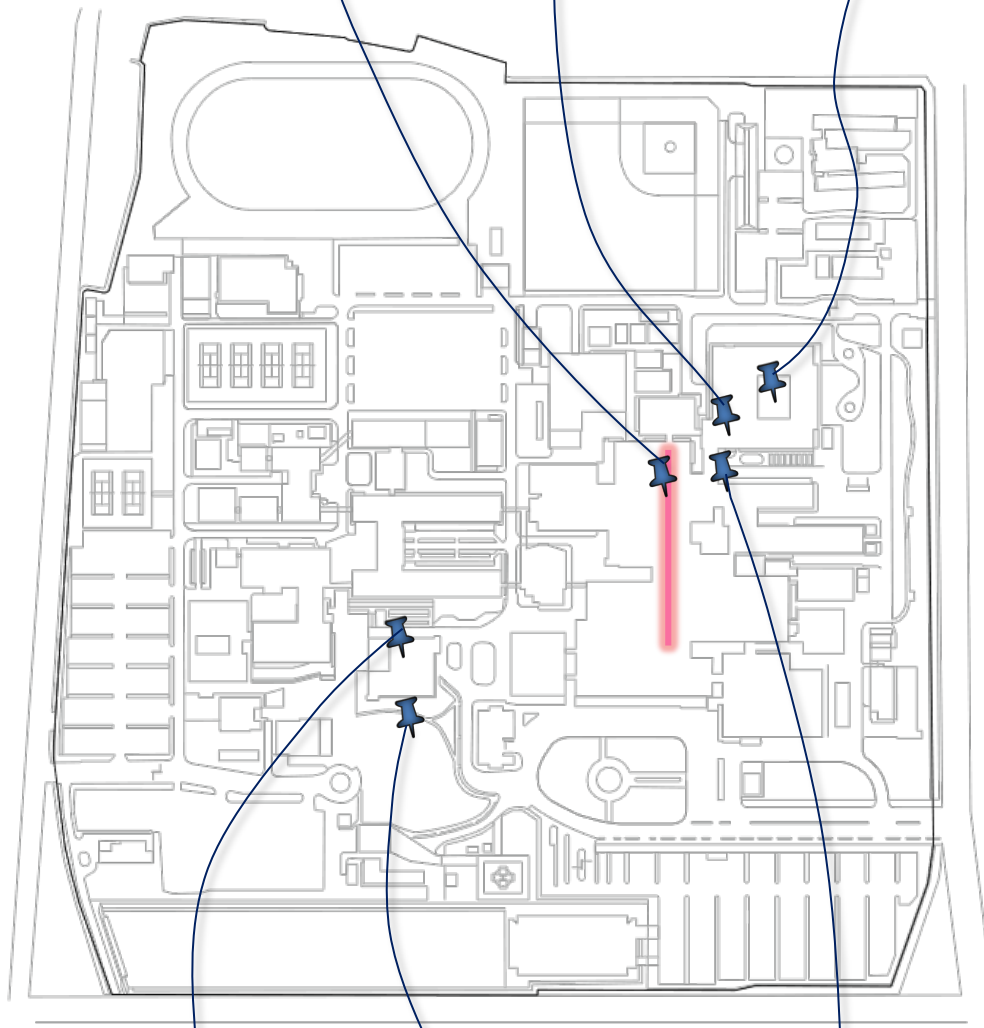
院内画廊



北病棟のモニュメント



リハビリ庭園のモニュメント



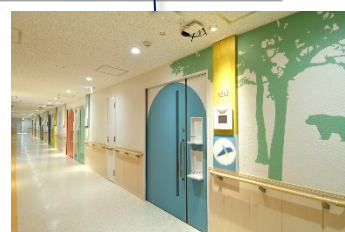
0 10 20 50 100m



附属図書館の壁面レリーフ



築山



小児病棟ホスピタルアート

課題

- 1 各所にアート作品が展示されており、芸術に強みを持つ大学として、今後も注力してゆく。

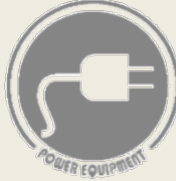


## (9) 基幹設備

基幹設備については、建物改修時に合わせた更新を実施している他、基幹整備事業として、耐用年数の概ね2倍を超えるライフライン設備の更新を行っています。

給水、ガス、電気設備等、主要な設備について概ね更新が行われていますが、経年進行や部品供給停止により更新が必要となる設備機器が今後も発生するため、将来への対応や省エネルギー化の視点も踏まえ計画的な整備を実施していく必要があります。

各設備一覧

|  POWER EQUIPMENT | 電力設備   | 現 状                                         | 備 考                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
|                                                                                                    | 引き込み   | 特別高圧埋設管路引き込み                                | —                                                             |
|                                                                                                    | 回線数    | 常用、予備22kVで2系統電力引き込み                         | —                                                             |
|                                                                                                    | 受電設備容量 | 5000kVA x 2                                 | —                                                             |
|                                                                                                    | デマンド出力 | 3250kW                                      | —                                                             |
|                                                                                                    | 契約種別   | 一般送配電事業者と契約                                 | —                                                             |
|                                                                                                    | 構内配線敷設 | 管路埋設                                        | —                                                             |
|                                                                                                    | 停電対策   | 予備線と自家発電機による非常用発電機の自動切り替えによる対応              | —                                                             |
|                                                                                                    | 省エネルギー | 高効率型変圧器および省エネ照明機器の採用、センサスイッチ採用による照明設備の自動点滅化 | —                                                             |
|                                                                                                    | 新エネルギー | 太陽光パネルの設置                                   | 設置建物…医学部附属病院<br>卒後臨床研修センター<br>地域医療支援センター<br>基礎・臨床研究棟<br>中央機械室 |

|  INFORMATION COMMUNICATION EQUIPMENT | 情報通信設備 | 現 状                                                                                   | 備 考                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
|                                                                                                                         | 電話設備   | デジタル電子交換機                                                                             | —                               |
|                                                                                                                         | 情報設備   | キャンパス情報ネットワーク構内LAN構築<br>ギガビットネットワーク構築（一部10Gbps）<br>附属病院電子カルテLAN構築<br>情報通信網（光ケーブル）幹線引込 | —                               |
|                                                                                                                         | 防災電気設備 | 病院はR型受信機<br>学部はP型受信機（一部研究棟、看護師宿舎はR型受信機設置）                                             | —                               |
|                                                                                                                         | 集中検針装置 | 平成25年に更新し、計測内容は、電力、水道、ガスなど                                                            | 導入建物…附属病院、管理棟、講義棟、看学棟、動物棟、研究棟など |

|  | 空調設備 | 現 状                                                 | 備 考                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------|----------------------------------|
|                                                                                   | 空調方式 | 病院は、主には中央機械室の熱源による中央方式、病室は個別空調方式（電気式）<br>医学部は個別空調方式 | 医学部の空調機で経年劣化が進んでいるものについては順次更新が必要 |

|  | 熱源設備 | 現 状                                                                                            | 備 考                |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
|                                                                                   | ボイラ  | 炉筒煙管式ボイラ2基<br>（燃料：都市ガス・A重油、換算蒸発量5t×2基、平成12年度設置）<br>貫流式ボイラ2基<br>（燃料：都市ガス、換算蒸発量0.7t×2基、平成29年度設置） | 炉筒煙管ボイラは、令和4年度更新予定 |
|                                                                                   | 冷凍機  | 直焚吸収式冷温水機 3（500USRT 3基 平成28・29年度設置）<br>モジュールチラー 1基<br>（150KW 1基 平成28年設置）                       |                    |

|  | 都市ガス設備 | 現 状      | 備 考                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|----------|---------------------------------------------------|
|                                                                                     | 使用先    | 団地内各所    | 実験用、生活用、熱源用として1,681,000m <sup>3</sup> （令和3年度実績）使用 |
|                                                                                     | 配管     | 基幹配管更新完了 | ポリエチレン管（耐震性あり）                                    |

|  | 給水設備 | 現 状                | 備 考                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                     | 水源   | 市水および井水            | （令和3年度実績）<br>井水使用量 108,000m <sup>3</sup> 程度<br>市水使用量 19,000m <sup>3</sup> 程度 |
|                                                                                     | 給水方式 | 受水槽と高架水槽の組合せ（重力方式） | —                                                                            |
|                                                                                     | 配管   | 基幹配管更新完了           | ポリエチレン管（耐震性あり）                                                               |

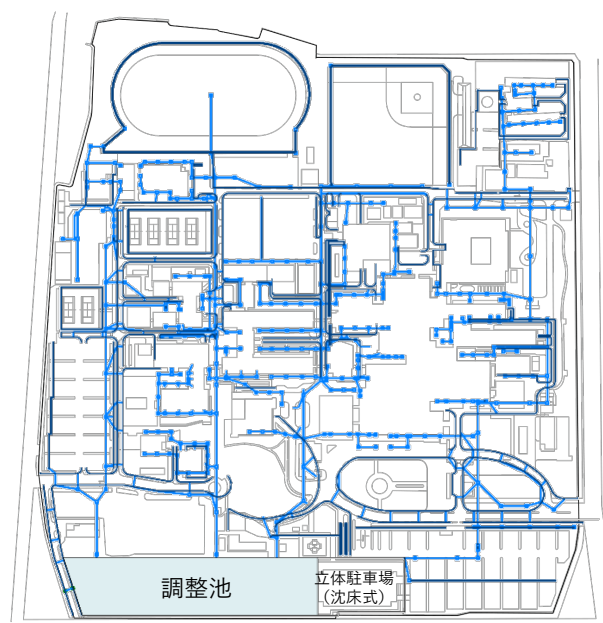
|  | 排水設備 | 現 状                             | 備 考                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------|----------------------|
|                                                                                     | 生活排水 | 公共下水道に放流                        | —                    |
|                                                                                     | 雨水排水 | 構外側溝に放流                         | 雨水量調整のための調整池あり。撤去不可。 |
|                                                                                     | 実験排水 | 洗浄排水処理施設でモニタリング後、公共下水道に放流       | —                    |
|                                                                                     | RI排水 | RI排水処理施設で貯留、希釈、モニタリング後に公共下水道に放流 | 令和4年度、一部更新予定         |

## 給水（上水・井水）



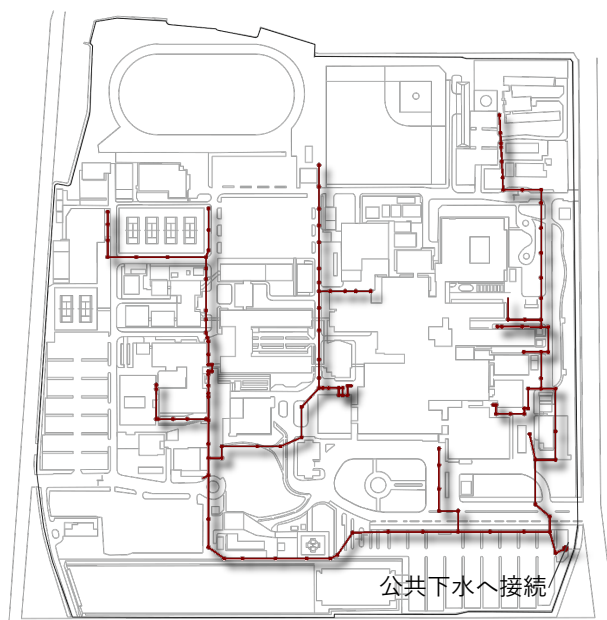
キャンパス内をループ管で接続。井水と上水との混合水を使用。看護師宿舎は別系統。

## 排水（雨水）



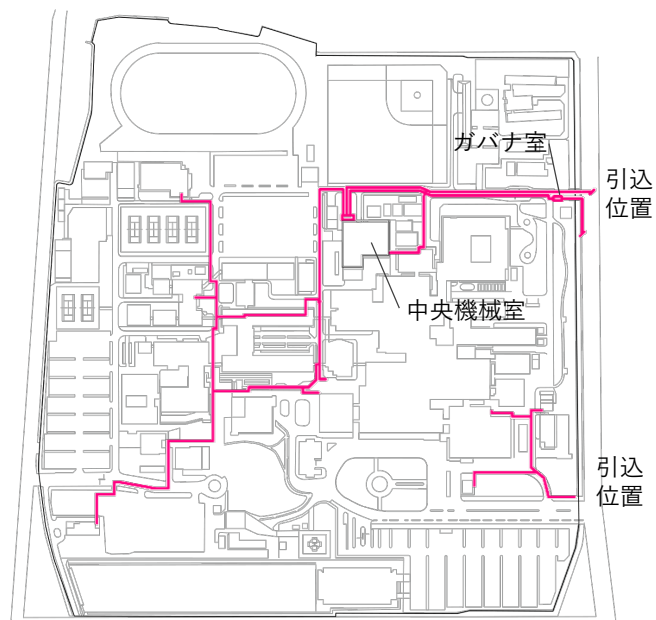
敷地内の雨水は敷地南側の調整池へ放流

## 排水（汚水）



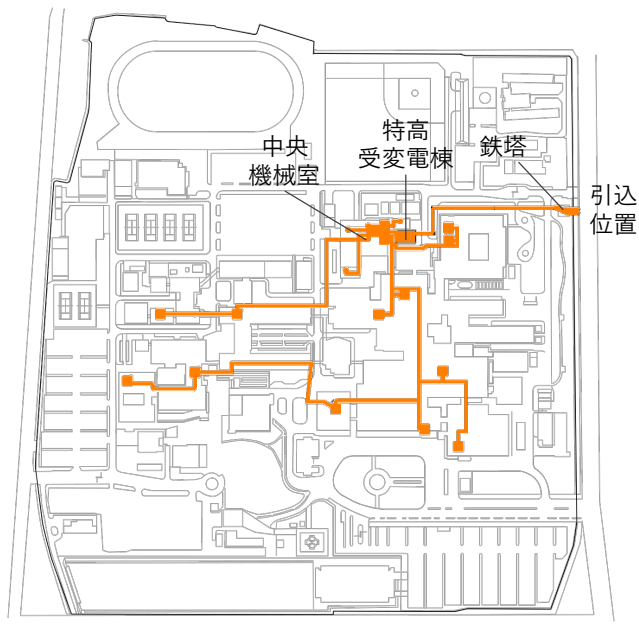
南東側に設置されている公共下水に接続

## ガス



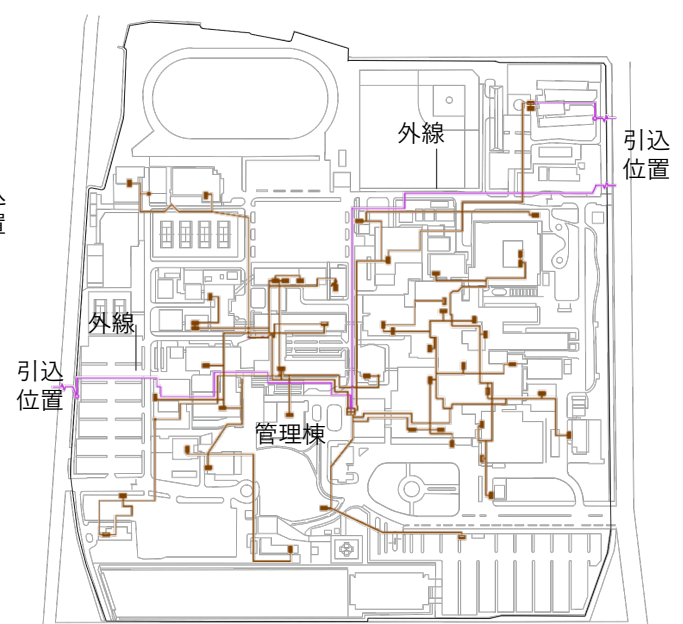
一般系統（低圧）と別途中央機械室用に中間圧の系統を整備

## 電気



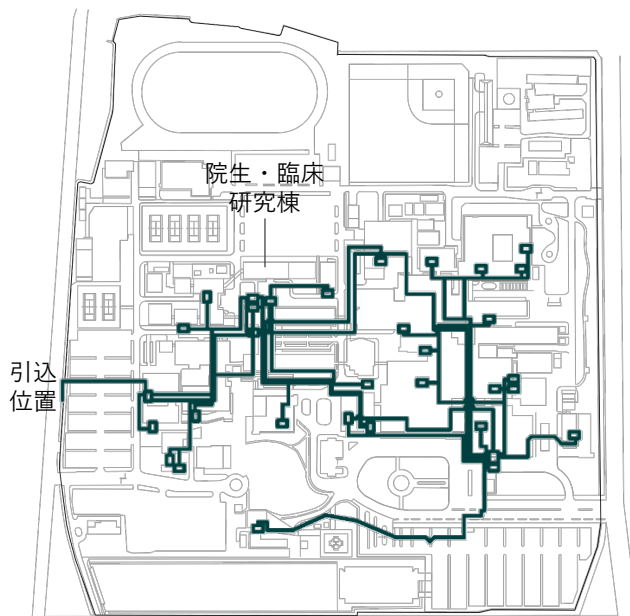
キャンパス内特別高圧線を特高受変電棟まで引き込み。  
高圧線に変圧して中央機械室より各建物に分岐

## 電話



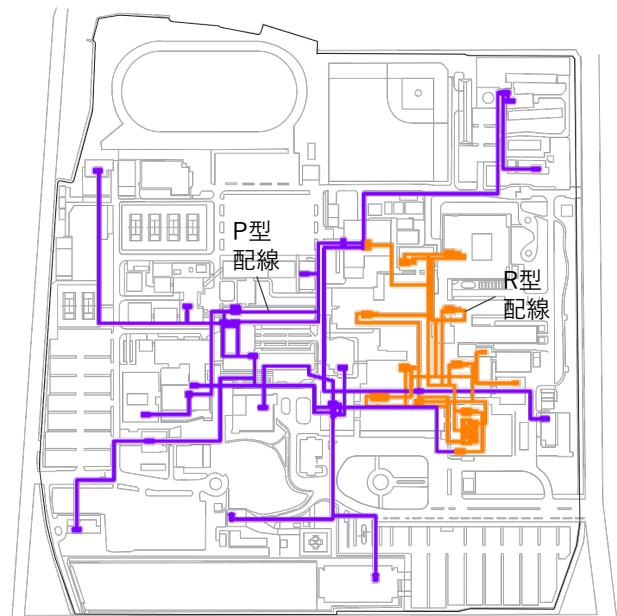
管理棟電話交換機室のMDF設備まで外線を引き込み  
各建物に分岐

## 通信（情報ネットワーク）



西側道路から院生・臨床研究棟（LAN管理室）まで  
外線を引込み各建物に分岐

## 通信（防災）

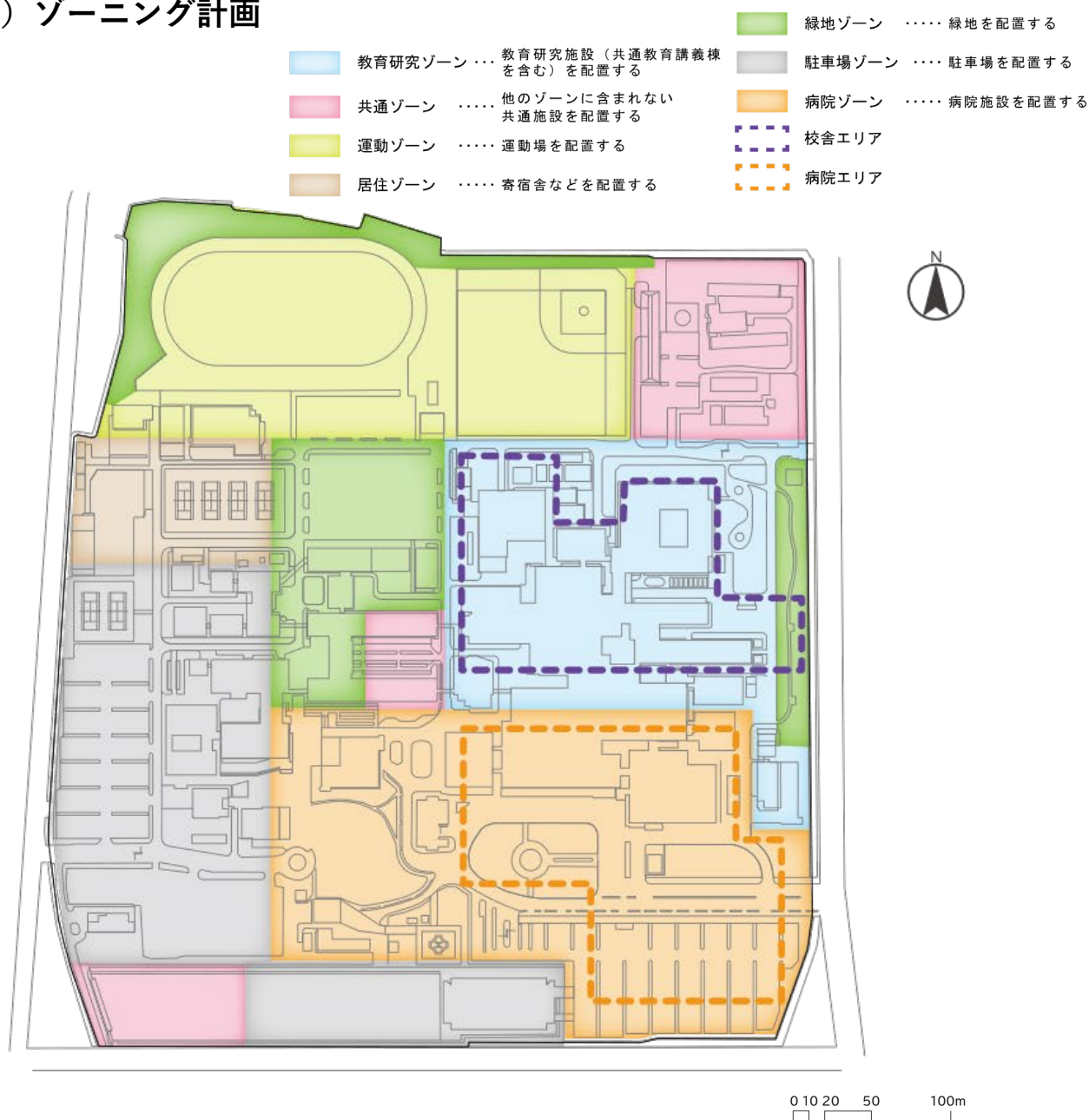


病院施設はR型、その他はP型を採用



## 3-3.計画

## (1) ゾーニング計画



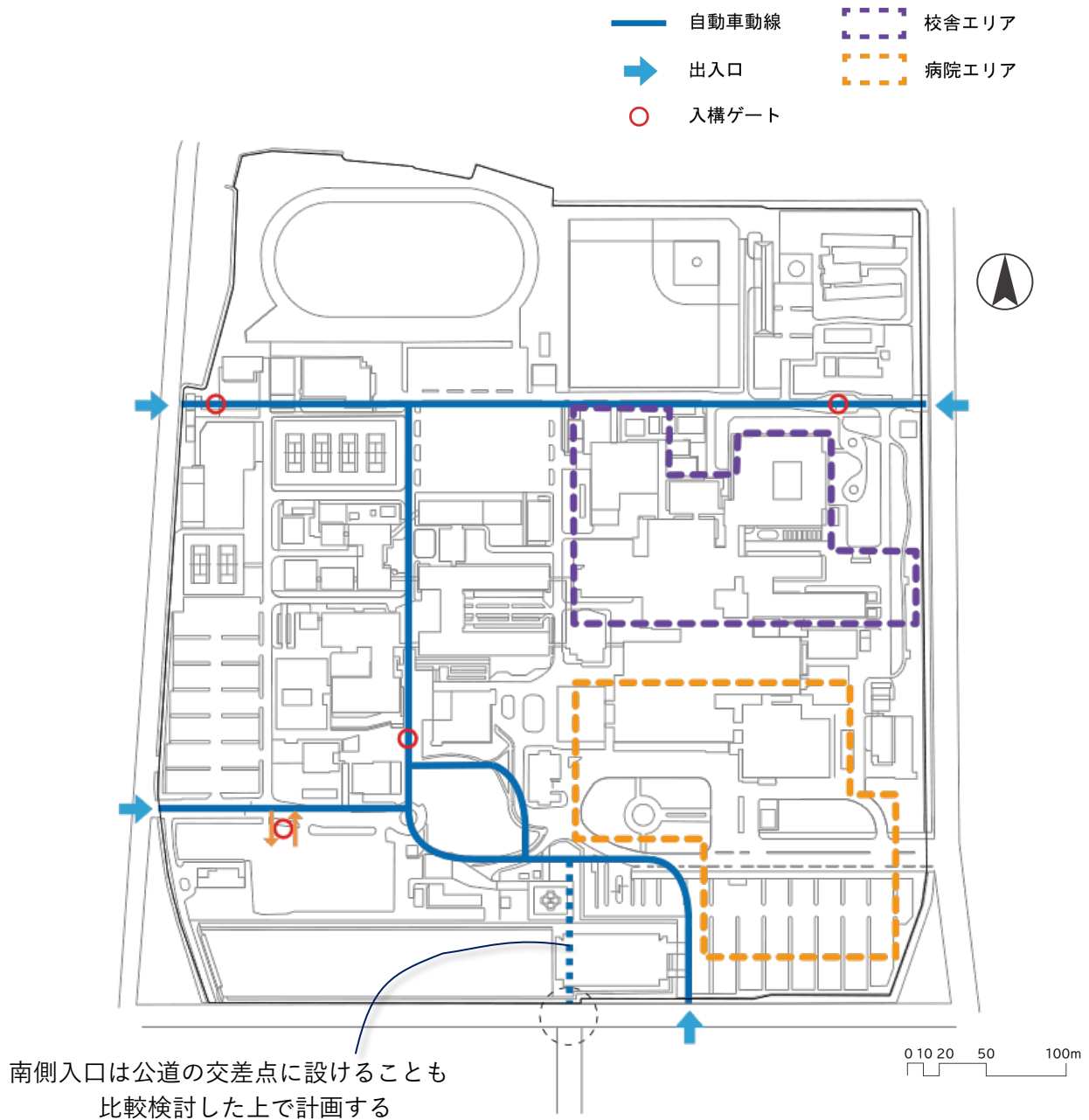
## 対 策

関連するSDGs



- 1 次期病院再整備による改築を見据えたゾーニング計画
  - ・現状の南東側の駐車場用地に病院施設を整備する。
  - ・現状の病院エリア北側の跡地に、校舎機能の施設を整備する。

## (2) 動線計画



## 対 策

- 1 歩車分離を行った自動車動線を整備し、安全性を確保する。
- 2 建物の改築の際は、学生・教職員・患者等それぞれの目的・利便性に配慮した動線計画を行う。

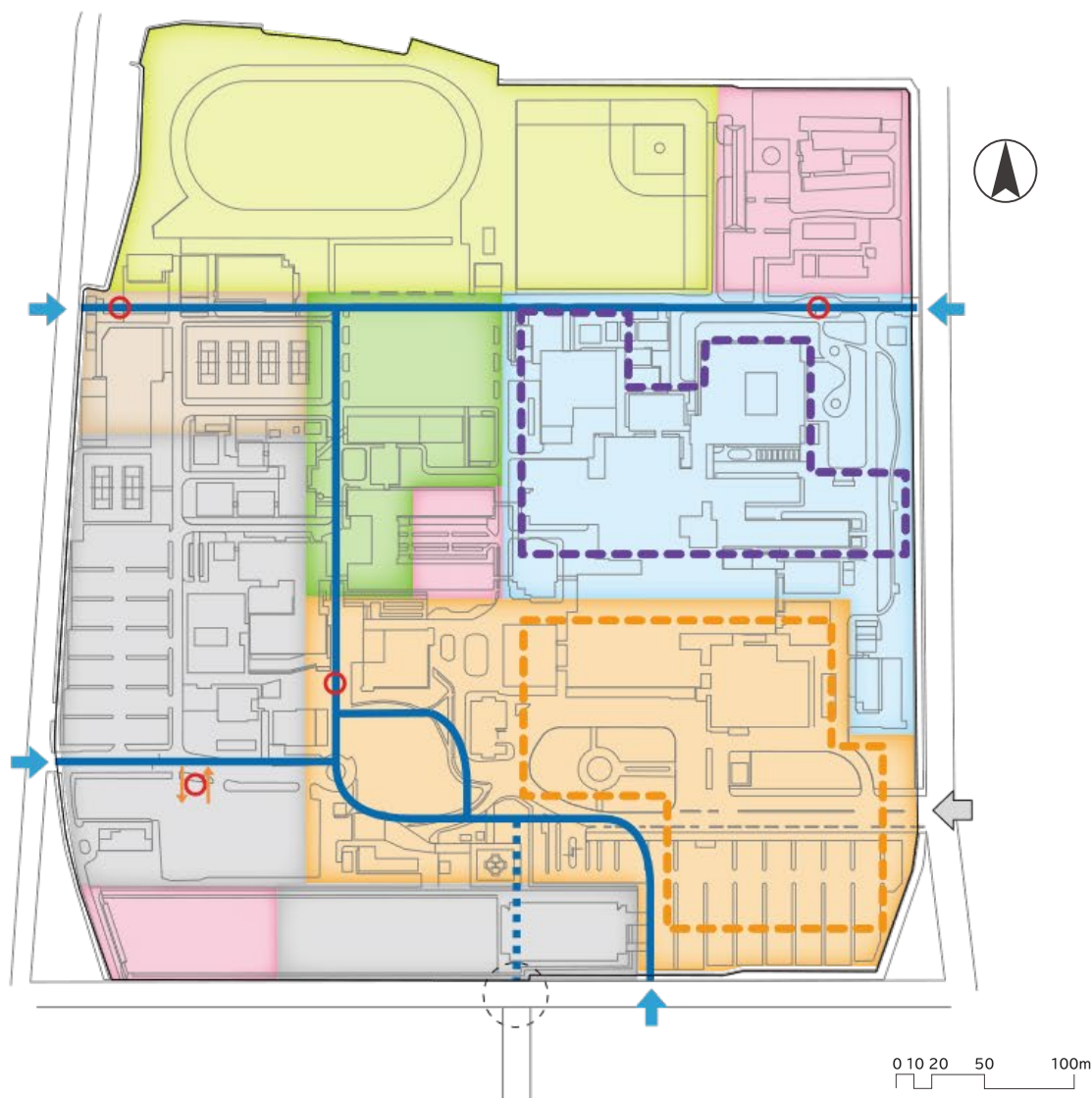
関連するSDGs



## ゾーニング計画+動線計画

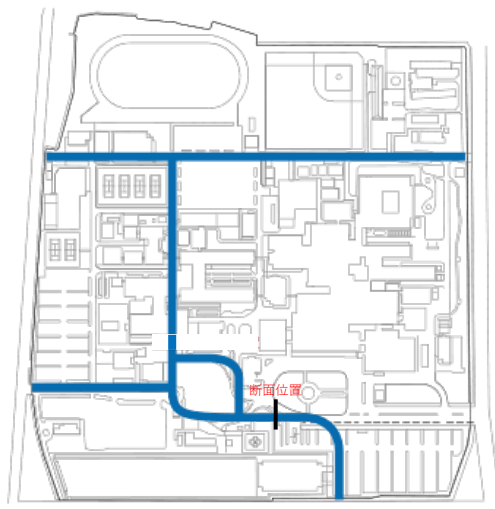
キャンパスの骨格となるゾーニング及びメイン動線の計画

- 自動車動線  
※この他に、建物配置にあわせてサービス動線を適宜配置する
- ➡ 出入口
- 入構ゲート



- |                                                                                                                                           |                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■ 教育研究ゾーン … 教育研究施設（共通教育講義棟を含む）を配置する</p> <p>■ 共通ゾーン …… 他のゾーンに含まれない共通施設を配置する</p> <p>■ 運動ゾーン …… 運動場を配置する</p> <p>■ 居住ゾーン …… 寄宿舍などを配置する</p> | <p>■ 緑地ゾーン …… 緑地を配置する</p> <p>■ 駐車場ゾーン …… 駐車場を配置する</p> <p>■ 病院ゾーン …… 病院施設を配置する</p> <p>■ 校舎エリア</p> <p>■ 病院エリア</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 道路のイメージ



KEY PLAN



- ・道路は歩道と車道で分離し、安全性を確保する。
- ・歩道と車道は同レベルに設定し、縁石で分離する。



## (3) パブリックスペース計画

築山の移設を行い、パブリック  
クスペースとして活用する。

共通ゾーンの中で展開  
するスペースとする

地域の方が気軽に  
立ち寄れる開放的  
なキャンパス。



イノベーション  
が生まれる豊か  
な空間。

キャンパスの顔となる  
スペースとする



パブリックスペース



教育研究ゾーン



共通ゾーン



病院ゾーン



校舎エリア



病院エリア



自動車（バイク、自転車を含む）動線

0 10 20 50 100m

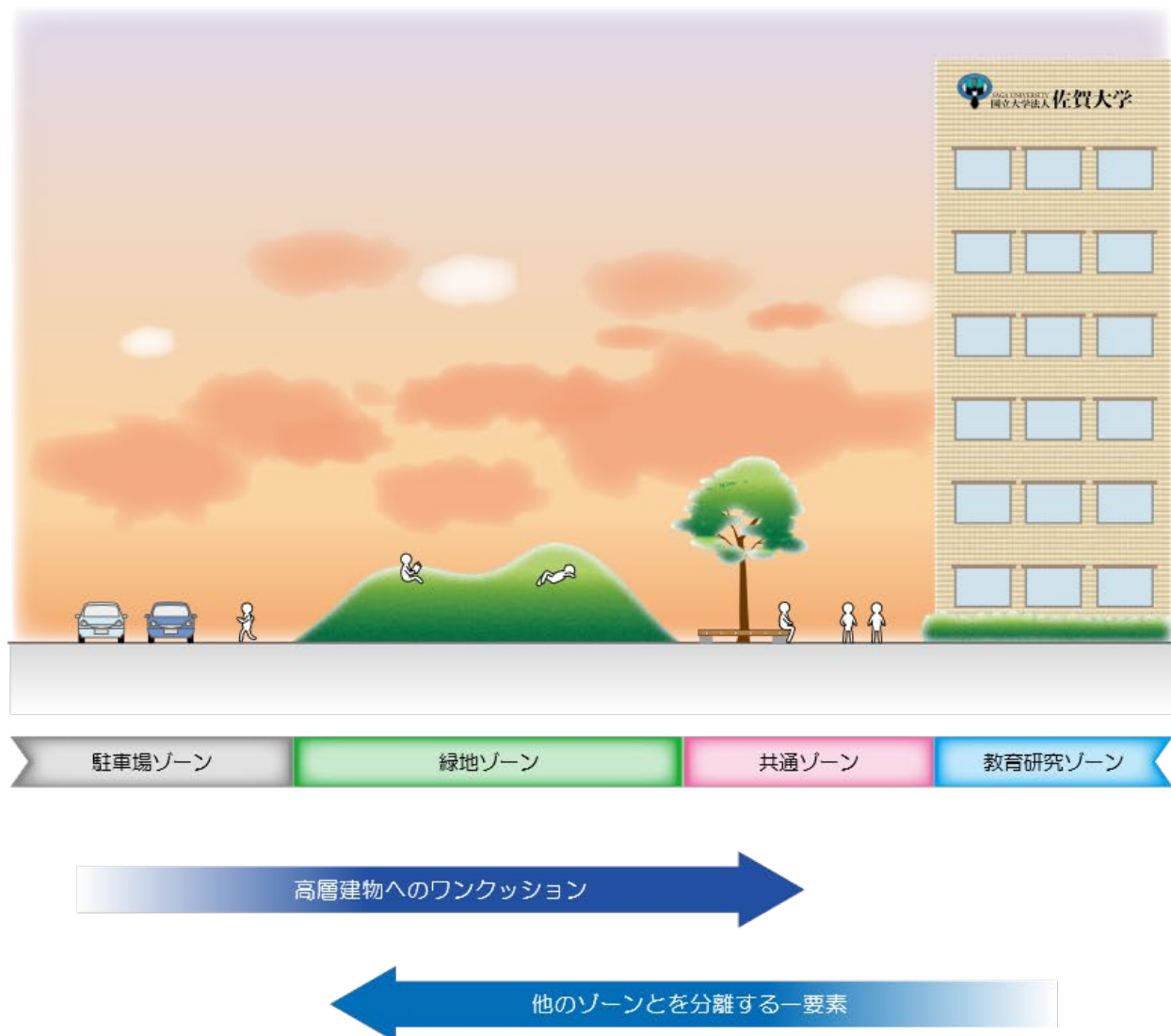
## 対 策

関連するSDGs



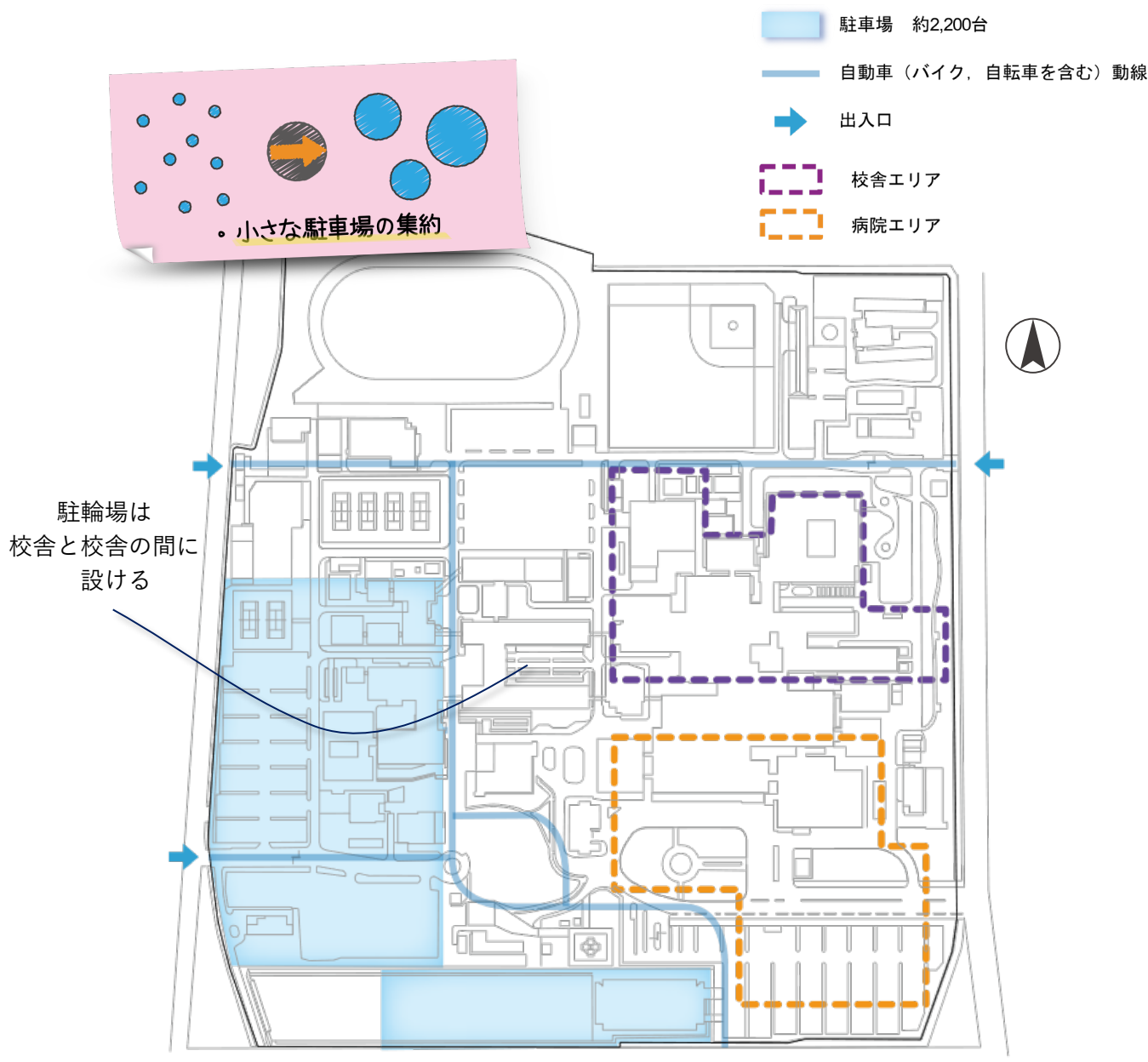
- 1 ゾーニングに対してバランス良く配置し、キャンパスのイノベーション・コモンズ化に寄与する交流空間を形成する。

## 築山の効果イメージ



- ・ 旧佐賀医科大学の時代から歴史のある景観（通称「古墳」）の継承。
- ・ 自動車からの騒音を低減し、共通ゾーンや教育研究ゾーン等が落ち着きのある空間となる。
- ・ 高層建物の手前に配置することで、圧迫感が低減され、奥行きを感じさせる空間となる。

## (4) 駐車場（駐輪場）計画



## 対 策

関連するSDGs



- 1 駐車場は自動車動線沿いに配置する。ただし、バリアフリー対応の駐車場は建物の近くにも計画し安全な移動経路を確保する。
- 2 病院再整備に対応するため、駐車場収容台数を増加する。
- 3 駐輪場（自転車置場）は、病院は駐車場周辺に設け、校舎は校舎と校舎の間に適宜設ける。また、駐輪場には屋根の設置を進め、駐輪場の利用を誘導する。

## (5) 緑地計画



築山庭園は、周辺施設の改築に併せて移設を行う



桜並木は、残すべき樹木として維持管理を行う

- 緑地
- 教育研究ゾーン
- 共通ゾーン
- 病院ゾーン
- パブリックスペース
- 校舎エリア
- 病院エリア



花もあふれるキャンパス

0 10 20 50 100m

## 対 策

関連するSDGs



- 1 緑地の管理が行き届くよう、適正な規模に整理し、魅力的なパブリックスペースの形成に寄与する。  
・ 築山庭園は大学のシンボルとして周辺施設の改築に併せて移設。
- 2 パブリックスペースは計画的な植樹を実施する。



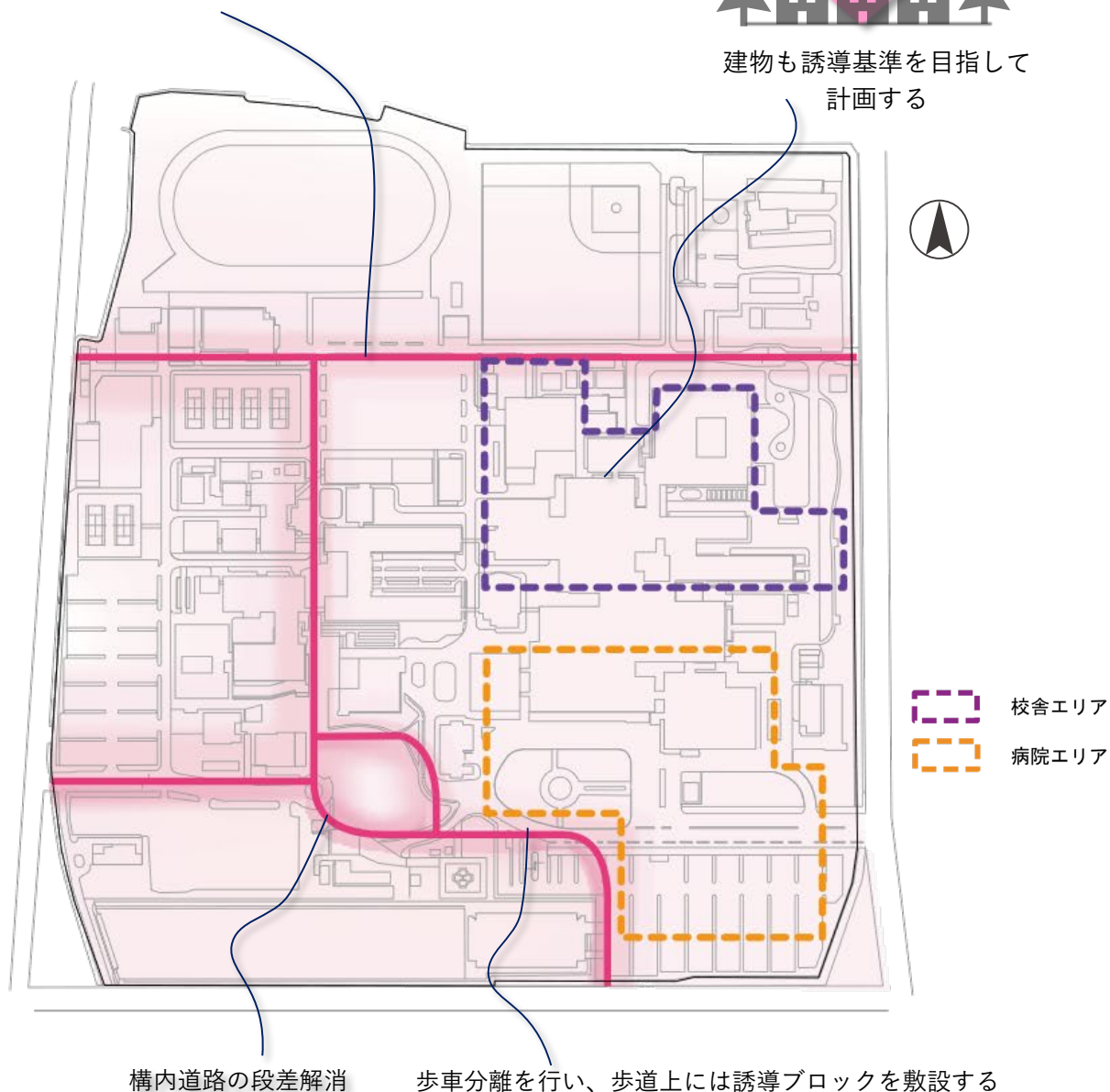


## (6) ユニバーサルデザイン計画 (例)

車両の速度低下を促すための対策を行う



建物も誘導基準を目指して  
計画する



構内道路の段差解消

歩車分離を行い、歩道上には誘導ブロックを敷設する

## 対 策

関連するSDGs



- 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等の関連の整備マニュアルを基に整備を行う
- 2 安全対策を図りつつ、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン（誘導基準）の視点も重視した整備を行う。

## (7) サイン計画 (例)



## 対 策

関連するSDGs



- 1 外部サインはキャンパス全体において統一を図る。内部サインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする。
- 2 サイン計画の詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う。
- 3 組織再編や新たなキャンパス整備などでサインの情報が古くならないよう維持管理を行う。
- 4 来訪者が迷わないよう、適切な場所に案内サインを整備する。

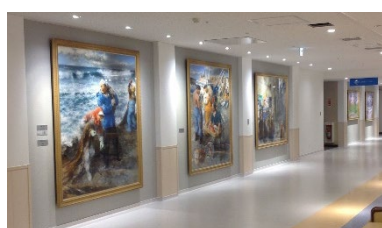
## (8) アート計画 (例)



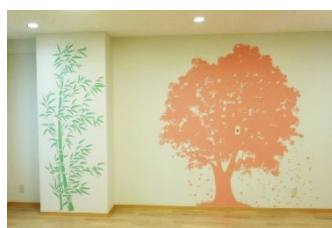
落ち着いた空間を演出する外壁デザインの例  
(佐賀大学)



空間を特色づける光環境の例 (佐賀大学病院)



アート作品の設置を想定した  
内装デザインの例



壁面を活用したレリーフ  
の例



建物と家具による内部空間の  
演出の例



自然石により統一された  
車止めのデザインの例



舗装材と植栽の使い分け  
によるデザインの例



シンボルアートの例



案内サイン・ベンチを活用したアートの例



マンホールを活用した  
アートの例



## 対 策

関連するSDGs



芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体がアートの空間となり、魅力あるイノベーション・コモンズとしてデザインされた空間となる施設整備を推進する。

作品はパブリックスペース等の共用部への配置を基本とし、企画段階から製作者と設置場所に応じたコンセプト、周囲の調和等について検討を行う。

## (9) 基幹設備計画

基幹設備計画では、教育・研究・診療の円滑な遂行を支えるための基盤として、キャンパス全体の安全性、将来の変化に対応するための拡張性や柔軟性を有しつつ、地球環境に配慮したエネルギー供給や効果的・効率的な維持管理を行い、強靱かつサステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



### 対 策

関連するSDGs



#### 1 安全・安心を支える基幹設備計画

更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要個所を集中的に予防保全する。また、佐賀市排水対策基本計画をはじめとした域内の防災対策等を注視しつつ、災害に強いキャンパス整備を推進する。

#### 2 質の高い教育・研究・診療活動を支える基幹設備計画

教育研究の変化への対応や非常時にも適切な診療機能が確保できるよう、強靱かつ継続性のある基幹設備計画を行う。

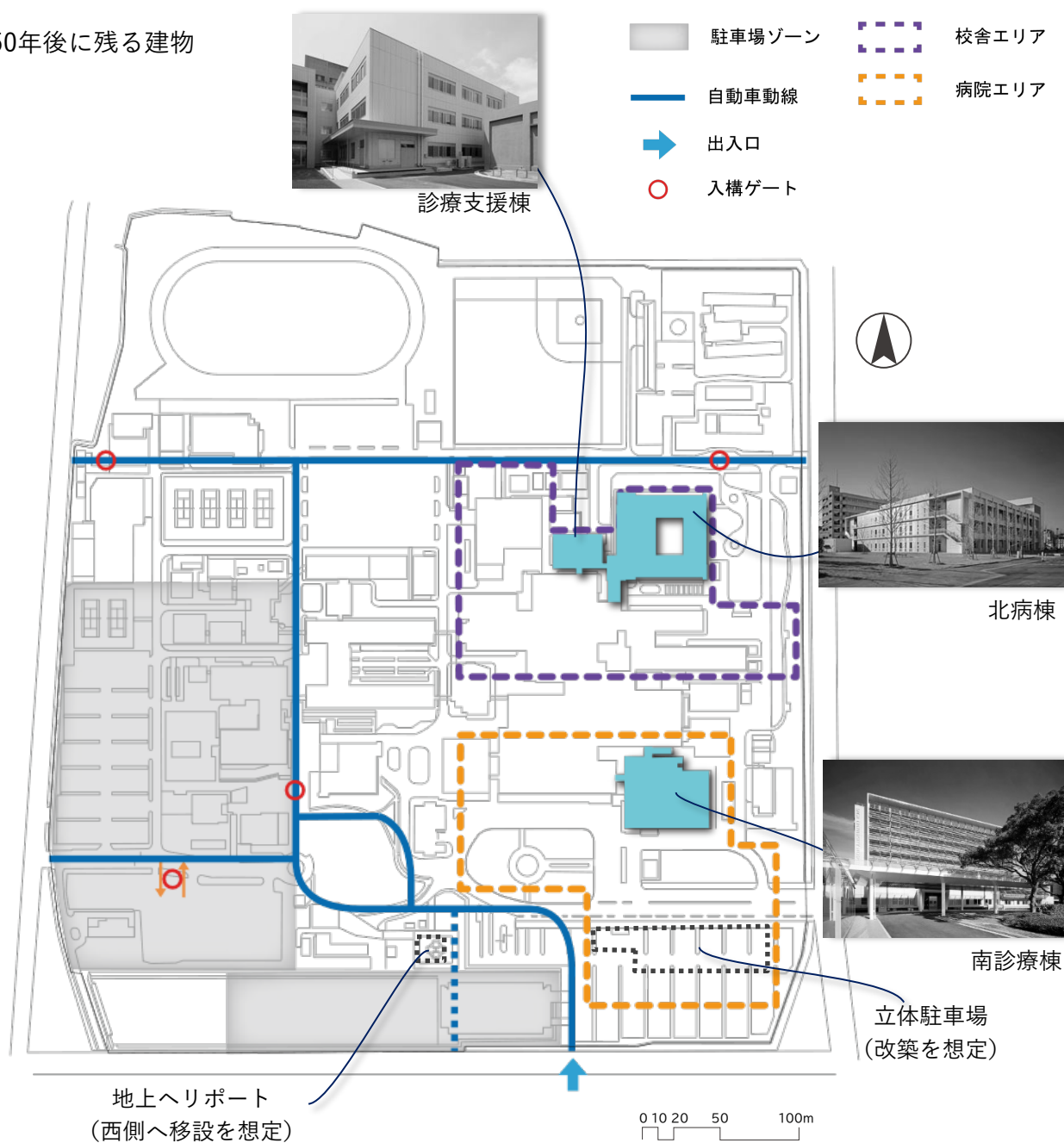
#### 3 カーボンニュートラルキャンパスに貢献する基幹設備計画

CO<sub>2</sub>排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入を進める。



## (10) 施設整備計画

50年後に残る建物



## 対 策

関連するSDGs



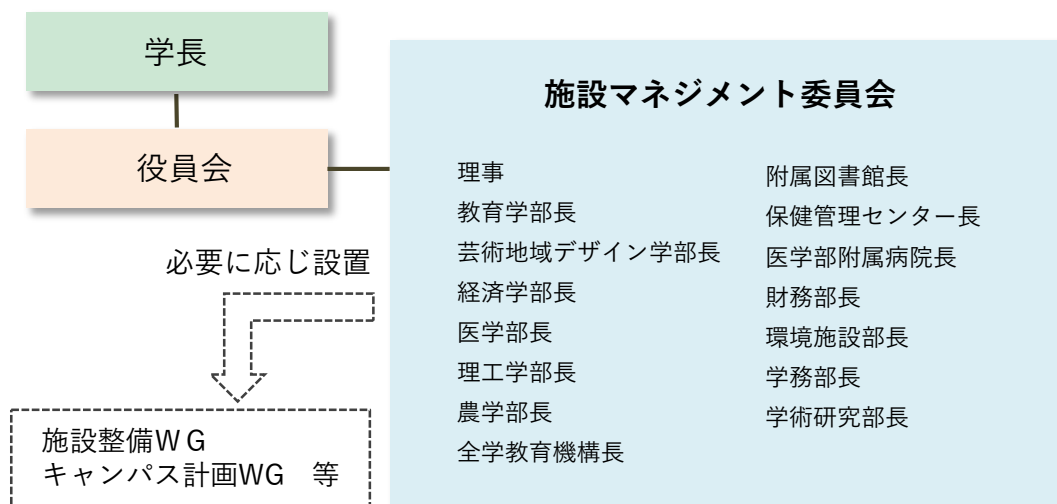
- ・既存建物は性能維持改修をしっかりと行い、キャンパス全体の施設の長寿命化に努める。ただし、次期病院再整備に影響のある地上ヘリポートおよび立体駐車場は改築することを想定する。
- ・改築の際は施設機能の規模の最適化や他施設との集約化に努めるとともに、外観デザインや建物高さの考慮など環境に配慮したサステイナブルな建築を行う。

## 付属資料

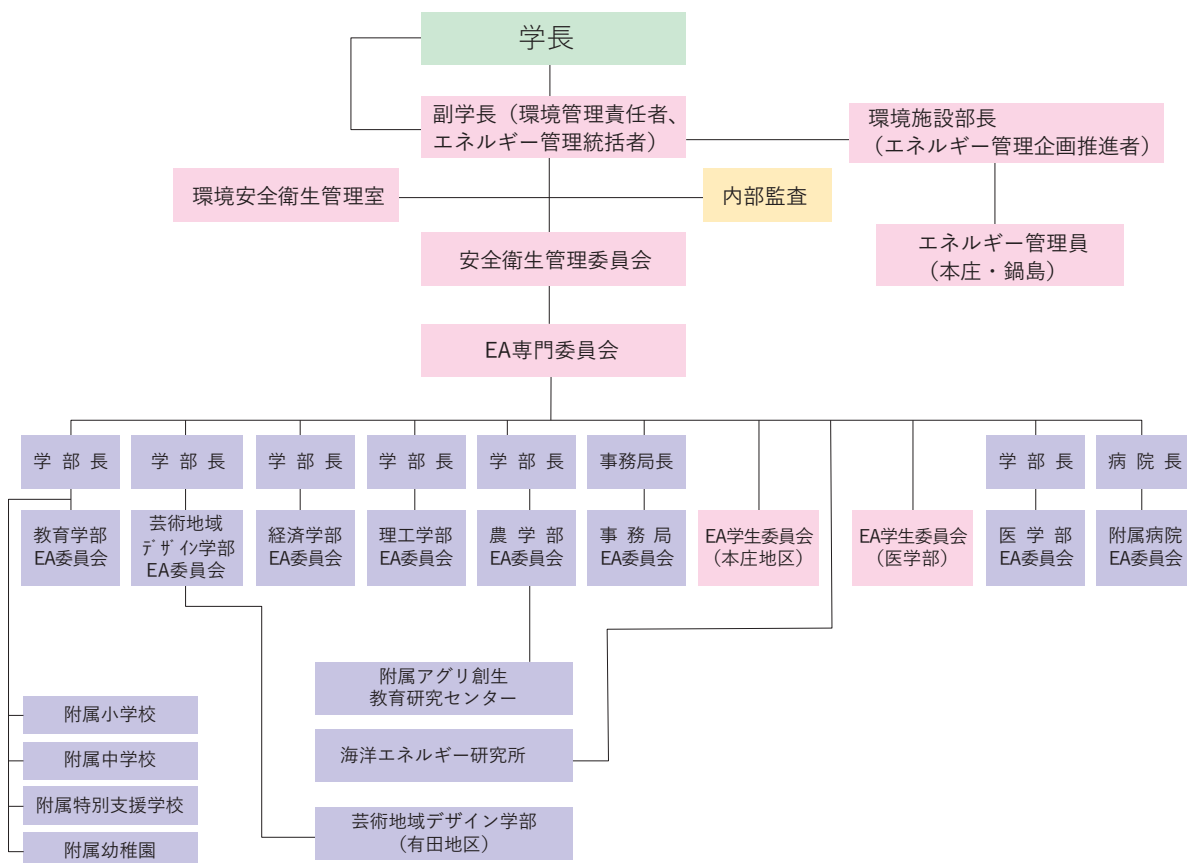


## 附-1. キャンパス整備・運用の取組み体制

### (施設マネジメント体制)



### (エコアクション実施体制)



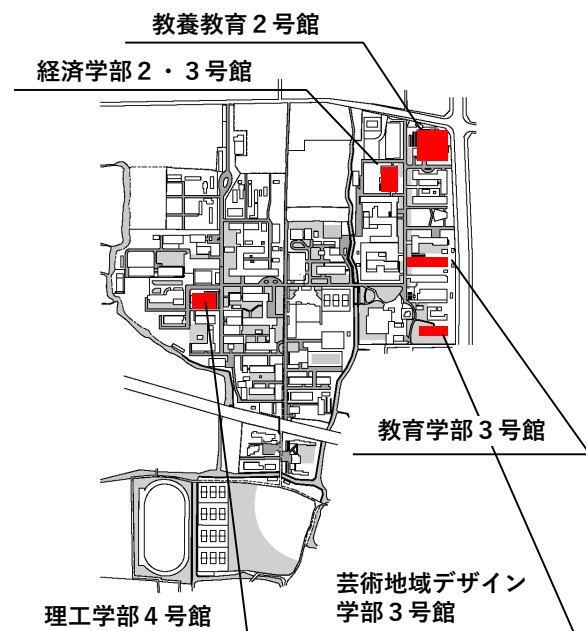
## 附-2. 第3期中期目標期間における施設整備

第3期中期目標期間中に実施した、キャンパスマスタープラン2016で定めた基本方針・整備方針・活用方針と関連した主な施設整備事業は以下のとおりです。

| 基本方針<br>(CMP2016)         | 整備方針・活用方針<br>(CMP2016)                                                                                                   | 第3期中期目標期間中の主な施設整備事業<br>[2016-2021 (H28-R3)]                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 質の高い教育・研究・診療活動を支えるキャンパス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、研究、診療活動の充実</li> <li>・人と人をつなぐ場の提供</li> <li>・学生の豊かなキャンパスライフを支える環境の充実</li> </ul> | <p>(本庄キャンパス) 教養教育2号館改修、教育学部3号館改修、芸術地域デザイン学部3号館改修、経済学部2・3号館改修、理工学部4号館改修、農学部大講義室改修、植物工場整備、総合研究1号館改修、かささぎホール改修、大学会館改修、外部パブリックスペース整備(図書館前・教養教育大講義室前)</p> <p>(鍋島キャンパス) 附属病院再整備事業、トリアージ棟新築、基礎研究棟改修、附属図書館(医学分館)改修</p> <p>(その他) 附属特別支援学校校舎・体育館改修、有田キャンパス整備</p> |
| 2 地域・社会と共生したキャンパス         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活かし、地域産業の振興に貢献</li> </ul>                                                   | <p>(本庄キャンパス) 産学交流プラザの改修整備、さが藻類研究開発センターの新築</p> <p>(その他) 学長裁量スペース等を活用した企業誘致、海洋エネルギー研究所嬉野サテライトの整備</p>                                                                                                                                                     |
| 3 グローバル化に対応したキャンパス        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化対応するキャンパス</li> </ul>                                                       | <p>(本庄キャンパス) 職員宿舎(西宿舎)を国際交流会館に転用</p>                                                                                                                                                                                                                   |
| 4 環境に配慮したキャンパス            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な大学活動ができるキャンパス</li> </ul>                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修や設備の更新に合わせて、省エネ効果の高い空調設備の導入や照明設備のLED化を実施</li> </ul>                                                                                                                                                       |
| 5 大学の個性を活かしたキャンパス         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、研究、診療活動の安全・安心な環境の確保</li> </ul>                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設整備事業による改修・ライフライン設備の更新</li> <li>・本庄キャンパス幹線道路整備</li> <li>・危険なブロック塀や樹木(ワシントンヤシ)の撤去等</li> </ul>                                                                                                                  |
|                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営的視点にたった戦略的管理運営</li> </ul>                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長裁量スペースの拡大</li> <li>・全学的スペースチャージの導入</li> <li>・食堂運営事業者からの賃料収入、入構料金の見直し</li> <li>・老朽施設の取り壊し、集約化</li> </ul>                                                                                                      |



## 本庄キャンパス（教育・研究施設）



教養教育2号館(改修)



H29年度整備

経済学部2・3号館(改修)



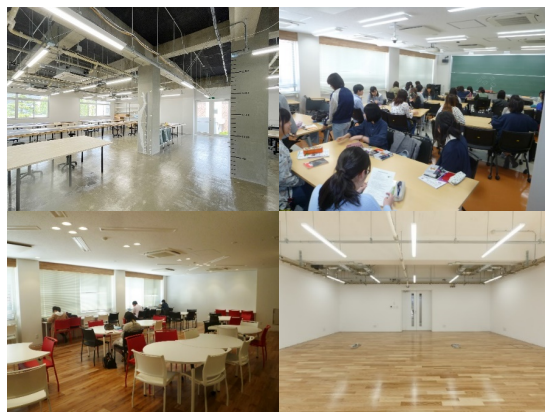
R元年度整備

理工学部4号館(改修)



R2年度整備

アクティブラーニングスペース



教育学部3号館(改修)



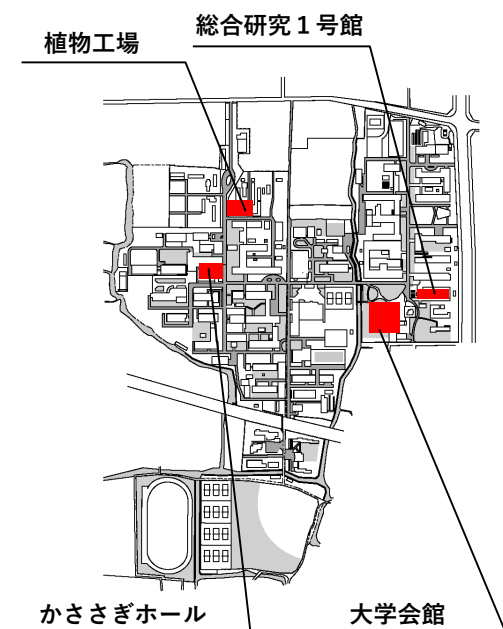
R元年度整備

芸術地域デザイン学部3号館(改修)



R元年度整備

## 本庄キャンパス（実習施設・福利施設）



総合研究1号館(改修)



H30年度整備

大学会館(内部改修)



H30年度整備

植物工場(新築)



R元年度整備

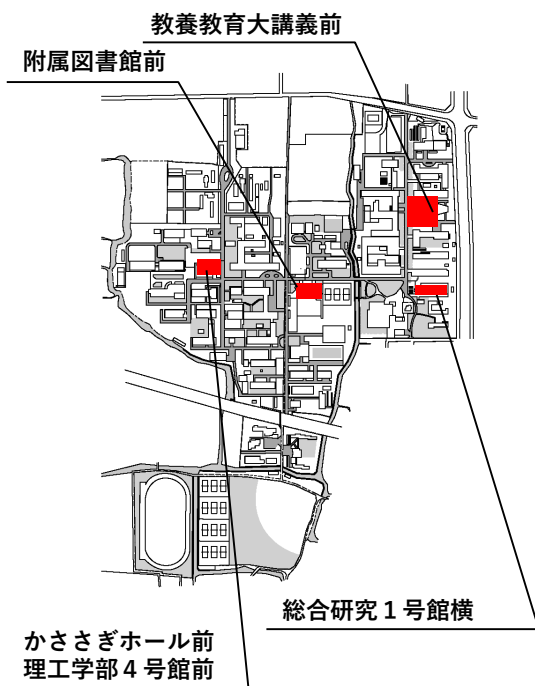
かささぎホール(改修)



H29年度整備



## 本庄キャンパス（外部パブリックスペース）



教養教育大講義室前



H30年度整備

附属図書館前



H28年度整備

かささぎホール前



H29年度整備

理工学部4号館前



R2年度整備

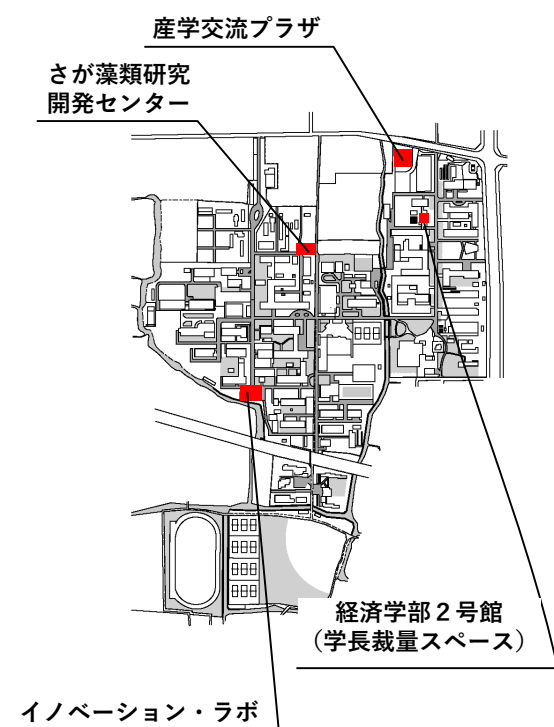
総合研究1号館前



H30年度整備



## 本庄キャンパス（産学官連携施設）



### 産学交流プラザ(改修)



R3年度整備

### 経済学部2号館(学長裁量スペース)



R2年度貸付  
キャンパス内の企業誘致

### 佐賀藻類研究開発センター(新営)



H29年度整備

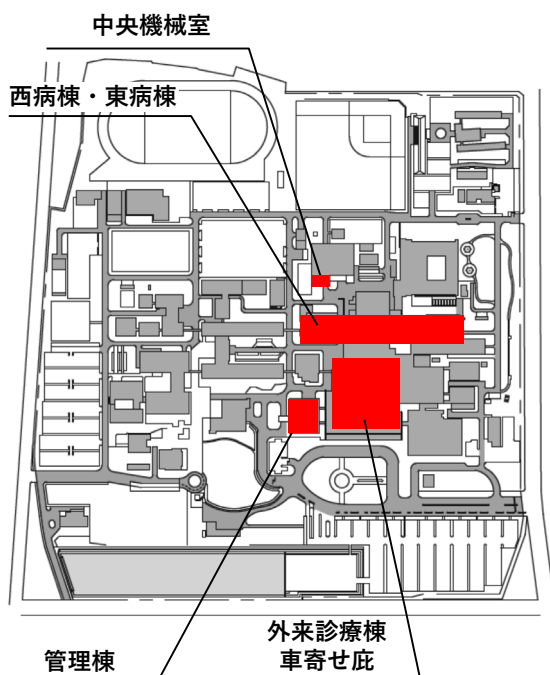
### イノベーション・ラボ(改修)



H29年度整備



## 鍋島キャンパス（附属病院再整備事業）



附属病院再整備  
平成24年度～令和5年度(12年)

### 中央機械室(増築)



R3年度整備

### 管理棟(改修)



R3年度整備

### 西病棟・東病棟(改修)



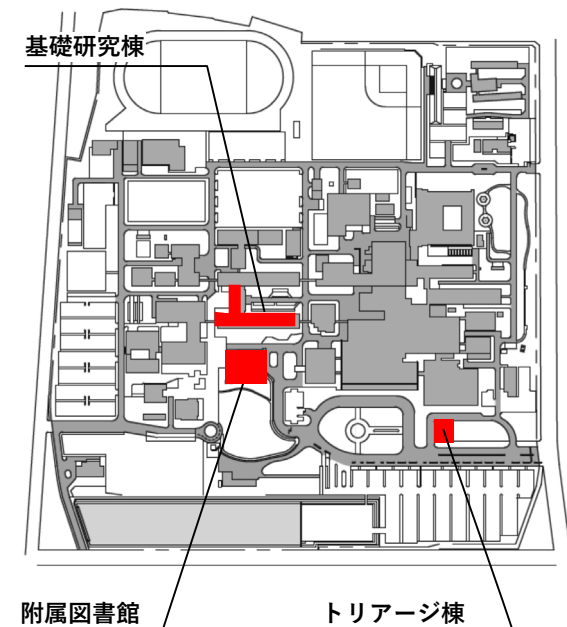
H28・29年度整備

### 外来診療棟(増築)・車寄せ庇



R3年度整備

## 鍋島キャンパス（教育・研究施設その他）



H28年度整備



R3年度整備



R3年度整備



## 付-3. 第4期中期目標期間の実施方針および行動計画

キャンパスマスタープランの実現に向け、第1章で定めた基本方針や大学の中期目標・中期計画、大学のアカデミックプランや経営戦略、「佐賀大学イノベーション・commons」の活動イメージ等を踏まえ、第4期中期目標・中期計画期間では以下の整備を目指します。

### (1) 実施方針

| 整備区分 |            | 実施方針                                                                                                                                          |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| I    | 教育機能の発展    | 高度化・多様化する教育内容・方法等に機動的に対応できるフレキシビリティの高い学習空間の確保を行う。<br>自学自習の場や多様なコミュニケーションを図ることのできる場の確保等、総括的・総合的な学びの場を整備する。                                     |
| II   | 研究機能の発展    | 研究機能強化のための施設機能の充実、若手研究者の研究環境改善、研究者交流スペースの確保、外部資金による新たな研究に弾力的に対応できる学長裁量スペースの確保や研究設備の共用化等に対応した施設整備を行う。                                          |
| III  | 産学官連携の強化   | 周辺の自治体、他大学や企業等と一層の連携を深め、共同研究等に対応するため、弾力的に利用できる学長裁量スペースの整備も含めた多様な形態による施設の確保に取り組む。                                                              |
| IV   | 地域貢献の推進    | 地域社会の活性化や防災に対する地域への貢献に取り組む。<br>図書館や講義棟等生涯学習に活用できる場の充実化、防災に備えたインフラ整備を行い機能強化を図る。<br>地域医療の中核的な機能を強化し、高度で先端的な医療機能を有し、災害時における救命救急医療の拠点としての機能を確保する。 |
| V    | 国際化の推進     | 外国人留学生・研究者を惹きつける魅力ある大学づくりと受入れ体制の整備・充実化、また、ニューノーマル時代における多様な交流も対応した機能を充実させる。                                                                    |
| VI   | 環境問題への貢献   | 施設の長寿命化による廃棄物の低減に努めるとともに、老朽施設の機能改善や基幹設備の更新等を行う際は、断熱化や高効率設備を導入するなど環境負荷低減に配慮したカーボンニュートラルなキャンパスの実現を図る。                                           |
| VII  | キャンパス環境の充実 | 学生の交流等を活性化し、教育研究への支援を充実していくために、学生生活等を支える福利厚生施設の機能を充実させる。                                                                                      |



## (2) 実施計画

### (本庄キャンパス)

| 分類 | 建物名        | 構造  | 規模<br>(㎡) | 整備区分 |    |     |    |   |    |     | 年次計画 |    |    |    |    |    | 整備手法          | 整備概要                                                              | 活用方針                                                |
|----|------------|-----|-----------|------|----|-----|----|---|----|-----|------|----|----|----|----|----|---------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
|    |            |     |           | I    | II | III | IV | V | VI | VII | R4   | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |               |                                                                   |                                                     |
| 改修 | 経済学部4号館    | R2  | 705       | ●    |    |     | ●  |   | ●  | ●   | ↔    |    |    |    |    |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用<br>EVの整備                                    | 講義室を活用した地域の生涯学習の場としての大学解放                           |
| 改修 | 農学部2号館     | R2  | 649       | ●    | ●  | ●   | ●  |   | ●  | ●   | ↔    |    |    |    |    |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用<br>EVの整備                                    | 地域課題の解決に資する研究の推進と学長裁量スペースを活用した外部資金の獲得・企業との連携強化      |
| 改修 | 農学部3号館     | S1  | 401       | ●    | ●  |     | ●  | ● | ●  | ●   | ↔    |    |    |    |    |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用<br>スロープの整備                                  | 多様な学生が互いを刺激し学びあう場<br>ニューノーマル時代の多様な交流                |
| 改修 | 理工学部理系大学院棟 | R3  | 759       | ●    | ●  |     | ●  | ● | ●  | ●   | ↔    |    |    |    |    |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用<br>スロープの整備                                  | 共通機器室を活用した設備の共同利用を推進。ICT環境の充実化によるニューノーマル時代の多様な交流の推進 |
| 改修 | 体育館        | S1  | 1,496     | ●    |    |     | ●  |   | ●  | ●   |      | ↔  |    |    |    |    | 施設整備費         | 体育施設改修                                                            | 地域における社会生活の支援と人々の暮らしを支援                             |
| 改修 | 附属図書館      | R4  | 5,332     | ●    |    |     | ●  | ● | ●  | ●   |      |    |    |    | ↔  |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用<br>EVの整備                                    | 総括的・総合的な学びと探求の場<br>ニューノーマル時代の多様な交流                  |
| 改修 | 理工学部7号館    | R4  | 1,928     | ●    | ●  |     | ●  |   | ●  | ●   |      |    |    |    | ↔  |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修                                                          | 専門的知識を持ったデジタル人材の育成                                  |
| 改修 | 理工学部1号館    | SR8 | 5,837     |      |    |     |    |   | ●  |     | ↔    | ↔  |    |    |    |    | 自己資金          | 空調設備改修<br>性能維持改修（防水）                                              | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 改修 | 大学会館       | R2  | 2,376     |      |    |     | ●  |   |    |     | ↔    |    |    |    |    |    | 施設整備費<br>自己資金 | 性能維持改修（防水・外壁）                                                     | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 改修 | 農学部1号館     | R3  | 6,454     |      |    |     | ●  |   | ●  |     | ↔    | ↔  |    |    |    |    | 施設整備費<br>自己資金 | 性能維持改修（防水・外壁）<br>照明設備改修                                           | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 改修 | 特高受変電棟     | R2  | 392       |      |    |     | ●  |   |    |     |      | ↔  |    |    |    |    | 自己資金          | 性能維持改修（防水・外壁）                                                     | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 改修 | 菱の実会館      | R2  | 748       |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ↔  |    |    |    | 自己資金          | 性能維持改修（防水・外壁）<br>照明設備改修                                           | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 改修 | 本部棟        | R3  | 2,467     |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      | ↔  |    |    | ↔  |    | 自己資金          | 性能維持改修（防水・外壁）<br>照明設備改修                                           | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                                |
| 更新 | バリアフリー対策   | -   | -         |      |    |     | ●  |   | ●  |     | ↔    | ↔  | ↔  | ↔  | ↔  | ↔  | 自己資金          | 入口前スロープの整備（流域水工学実験棟、芸術地域デザイン学部2号館、楠葉寮、国際交流会館、第2サークル会館、多目的トレーニング棟） | 多様な学生の受け入れ環境の充実                                     |



| 分類 | 建物名        | 構造 | 規模<br>(㎡) | 整備区分 |    |     |    |   |    |     | 年次計画 |    |    |    |    |    | 整備手法  | 整備概要                                                           | 活用方針            |
|----|------------|----|-----------|------|----|-----|----|---|----|-----|------|----|----|----|----|----|-------|----------------------------------------------------------------|-----------------|
|    |            |    |           | I    | II | III | IV | V | VI | VII | R4   | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |       |                                                                |                 |
| 更新 | トイレ改修      | -  | -         |      |    |     | ●  |   | ●  | ●   | ←    |    |    |    |    |    | 自己資金  | 和便器の洋便器化<br>(実習工場、理工学部1・6・7・8・9号館、農学部1・4号館、総合情報基盤センター、経済学部1号館) | 多様な学生の受け入れ環境の充実 |
| 更新 | ライフライン設備   | -  | -         |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 施設整備費 | 屋外通信線、高圧受変電設備、屋外給水管、屋外ガス管等                                     | 防災機能強化          |
| 取壊 | 海洋エネルギー研究所 | S2 | 170       |      |    |     | ●  |   |    |     | ←    |    |    |    |    |    | 自己資金  | 保有面積抑制                                                         | -               |

### (鍋島キャンパス)

| 分類 | 建物名       | 構造 | 規模<br>(㎡)    | 整備区分 |    |     |    |   |    |     | 年次計画 |    |    |    |    |    | 整備手法   | 整備概要                       | 活用方針                                           |
|----|-----------|----|--------------|------|----|-----|----|---|----|-----|------|----|----|----|----|----|--------|----------------------------|------------------------------------------------|
|    |           |    |              | I    | II | III | IV | V | VI | VII | R4   | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |        |                            |                                                |
| 改修 | 院生研究棟     | R4 | 5,038        | ●    |    |     | ●  |   | ●  | ●   | ←    |    |    |    |    |    | 施設整備費  | 教育研究施設改修                   | 地域課題の解決に資する研究の推進と学長裁量スペースを活用した外部資金の獲得・企業との連携強化 |
| 改修 | 臨床講堂      | R2 | 1,300        | ●    |    |     | ●  |   |    |     | ←    |    |    |    |    |    | 施設整備費  | 教育研究施設改修<br>バリアフリー対策用EVの整備 | 講義室を活用した地域の生涯学習の場としての大学解放                      |
| 改修 | 医学部会館     | R2 | 731          |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 自己資金   | 性能維持改修(防水・外壁)<br>空調・照明設備改修 | 多様な学生が互いを刺激し学びあう場<br>自然災害に対応した防災・減災への取り組み      |
| 改修 | 附属病院      | R7 | 38,480       | ●    | ●  |     | ●  |   | ●  |     | ←    |    |    |    |    |    | 自己資金   | 附属病院再開整備                   | 地域における社会生活の支援と人々の暮らしを支援                        |
| 改修 | 中央機械室     | R1 | 1,682        |      |    |     | ●  |   | ●  |     | ←    |    |    |    |    |    | 自己資金   | 附属病院再開整備                   | 地域における社会生活の支援と人々の暮らしを支援                        |
| 新築 | 立体駐車場     | S2 | 7890<br>(予定) |      |    |     | ●  |   | ●  |     | ←    |    |    |    |    |    | 外部資金   | 立体駐車場および附帯施設の整備            | 地域における社会生活の支援と人々の暮らしを支援                        |
| 増築 | 原子力災害拠点病院 | R2 | 230          |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 他省庁補助金 | 原子力災害拠点病院の整備               | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み                           |
| 取壊 | 倉庫(2棟)    | S1 | 52           |      |    |     |    |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 自己資金   | 保有面積抑制                     | -                                              |

### (その他のキャンパス)

| 分類   | 建物名                 | 構造 | 規模<br>(㎡) | 整備区分 |    |     |    |   |    |     | 年次計画 |    |    |    |    |    | 整備手法          | 整備概要                       | 活用方針                 |
|------|---------------------|----|-----------|------|----|-----|----|---|----|-----|------|----|----|----|----|----|---------------|----------------------------|----------------------|
|      |                     |    |           | I    | II | III | IV | V | VI | VII | R4   | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 |               |                            |                      |
| 改修   | (久保泉町1)管理棟          | R2 | 480       | ●    |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 施設整備費         | 教育研究施設改修                   | 教育研究施設改修             |
| 改修   | (唐津)附属アグリ創生教育研究センター | R3 | 818       |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 自己資金          | 性能維持改修(外壁)<br>照明設備改修       | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み |
| 改修   | (山代町)海洋エネルギー研究所     | S3 | 4,503     |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 施設整備費<br>自己資金 | 性能維持改修(防水・外壁)<br>空調・照明設備改修 | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み |
| 改修   | (城内2)附属小学校本館        | R4 | 4,040     |      |    |     | ●  |   | ●  |     |      |    | ←  |    |    |    | 施設整備費<br>自己資金 | 性能維持改修(防水・外壁)<br>空調・照明設備改修 | 自然災害に対応した防災・減災への取り組み |
| 土地売却 | (諸富町)ポート艇庫跡地        | -  | 441       |      |    |     |    |   |    |     | ←    |    |    |    |    |    | -             | 土地売却処分(期間内)                | -                    |

## 付-4. 維持管理計画

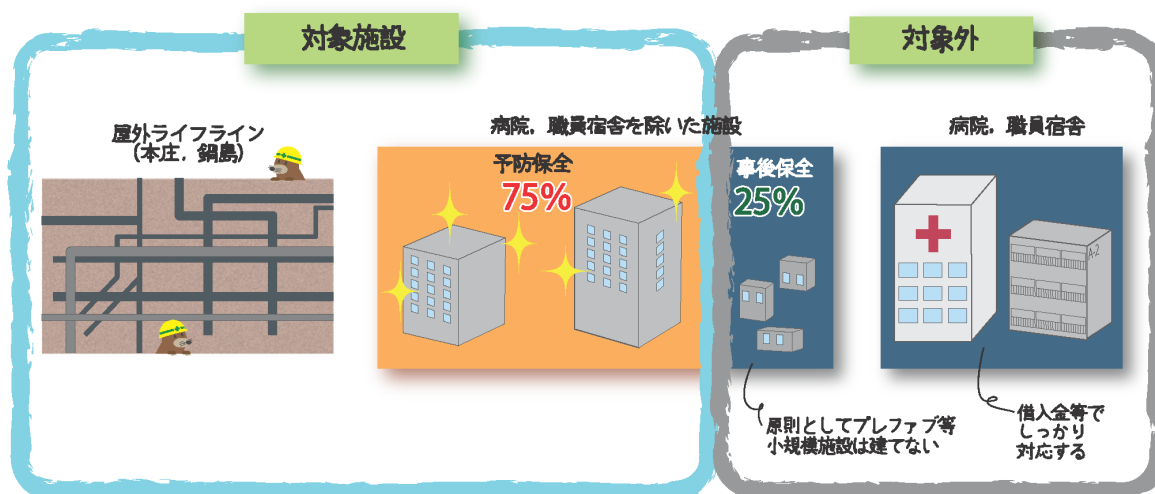
### (1). インフラ長寿命化行動計画 (CMP2016)

本計画は、平成27年3月31日付け26文科施第569号で文部科学省から通知のあった「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）の策定について（通知）」に基づき作成する。

#### 1. 対象施設

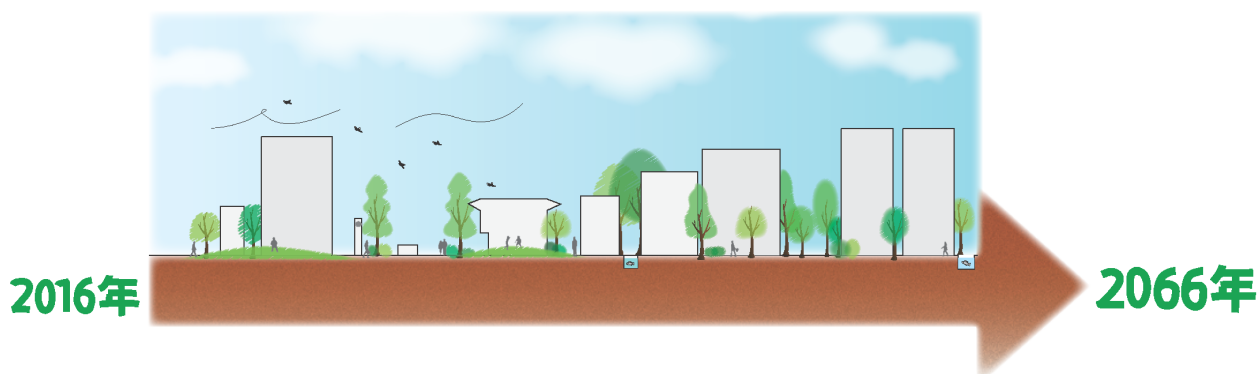
施設規模として1,500㎡以上の40棟を対象とする。対象面積の合計は保有面積の約75%である約155,000㎡となる。（借入金で整備する病院、職員宿舎を除く）対象外となる約25%の小規模施設は原則として事後保全での対応とする。

また、屋外ライフラインの幹線部分（本庄、鍋島）を対象とする。



#### 2. 計画期間

2066年までの今後50年間とする。



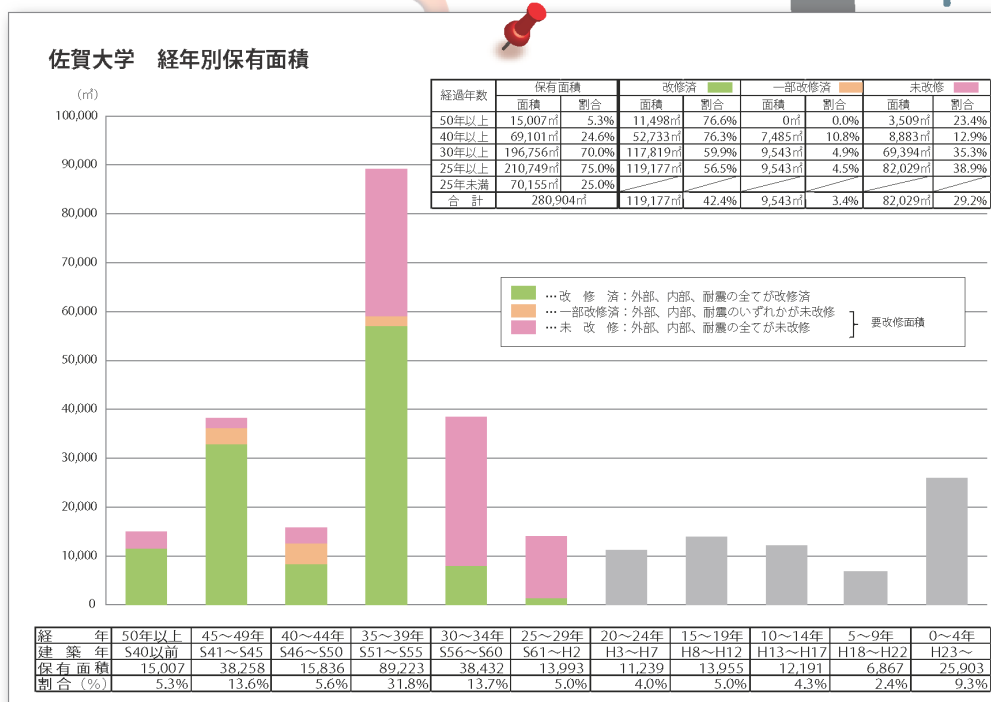
### 3. 対象施設の現状と課題

2015年5月1日現在、佐賀大学の保有面積は280,904㎡<sup>(注1)</sup>で、棟数は238棟に達している。文部科学省では大規模改修を行う建物の目安を「建築後25年以上の施設」としているが、本学においてはそれらの「老朽施設」を210,749㎡有している。

このうち、91,572㎡については大規模な改修が実施されておらず、機能上の観点からも早急な老朽化対策が必要となっている。

しかしながら近年の国の厳しい財政事情から施設整備は遅々として進まず、一方では、老朽化対策を行っても次々に新たな老朽施設が発生することから、今後も老朽化対策を継続していくことが大きな課題となっている。

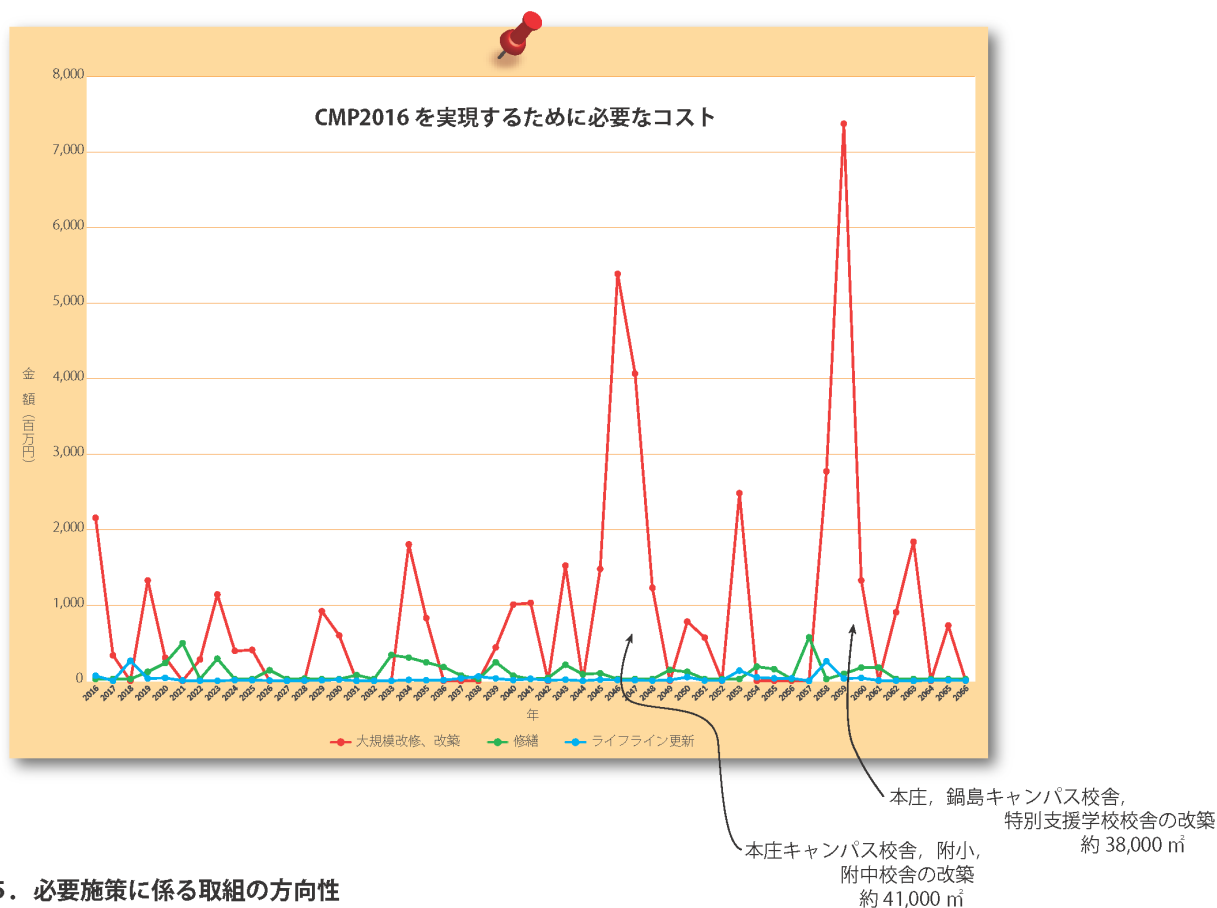
注1：(有田)1号館の5,062㎡を除く



平成27年5月1日

#### 4. 中長期的な維持管理・更新等のコストの見直し

今後50年間の見通しとして、大規模改修・改築費に年間約9億円、修繕費に年間約1.1億円、ライフライン（幹線部分の配管、ケーブルなど）更新に年間約0.3億円かかる見込みである。今後もこれまで同様、国に対して施設整備費補助金などの要求を行い必要な経費を確保する。



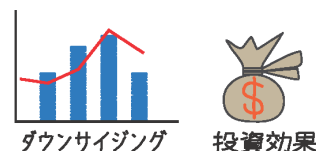
#### 5. 必要施策に係る取組の方向性

##### 5-1. 体制の構成

- ・トップマネジメントとしての施設マネジメントを行う。
- ・インフラ管理を担う環境施設部職員の技術力の維持, 向上を図る。
- ・外注が必要な業務は外部委託するなど, 効率的な体制を構築する。

##### 5-2. 点検・診断, 修繕・更新など

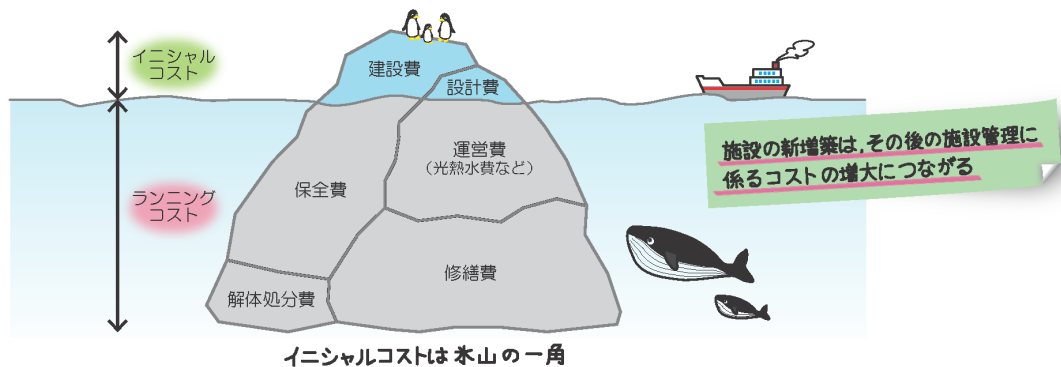
- ・施設老朽状況調査の結果を基に適切な修繕周期を設定する。
- ・ダウンサイジングも視野に入れながら適正な施設規模を設定することが重要であり, 施設整備を実施する際には投資効果を十分に考慮する。
- ・個別施設計画の策定方針について, 修繕費については現状の修繕予算の範囲内で実行可能な修繕計画を策定する。大規模改修・改築費については, 施設整備費補助金に頼らざるを得ないことから, 基本的には概算要求事業選定のための基礎資料とする。





### 5-3. 予算管理

- ・今後、修繕にかけられる予算は増加が見込めないため、平成27年度予算をベースとし、毎年1%ずつ削減する前提で修繕予算の配分を考える。
- ・今後50年間に於いて、特定の時期に必要な事業費が集中しないように平準化に努める。
- ・施設にかかる長期的な費用（ライフサイクルコスト）を見通し、低減に努める。



### 5-4. 情報基盤の整備と活用

- ・工事の完成図については、電子データを共有サーバ内に保存し、維持管理に活用する。
- ・設備台帳を継続的に更新し、維持管理に活用する。

### 5-5. 新技術の開発・導入

投資効果を考慮しつつ、新技術は積極的に導入して維持管理の効率化を図る。

## 6. フォローアップ計画

佐賀大学版IRと連携したPDCAサイクルを活用し、アウトカム（教育，研究，社会貢献にもたらす効果）を最大化する。

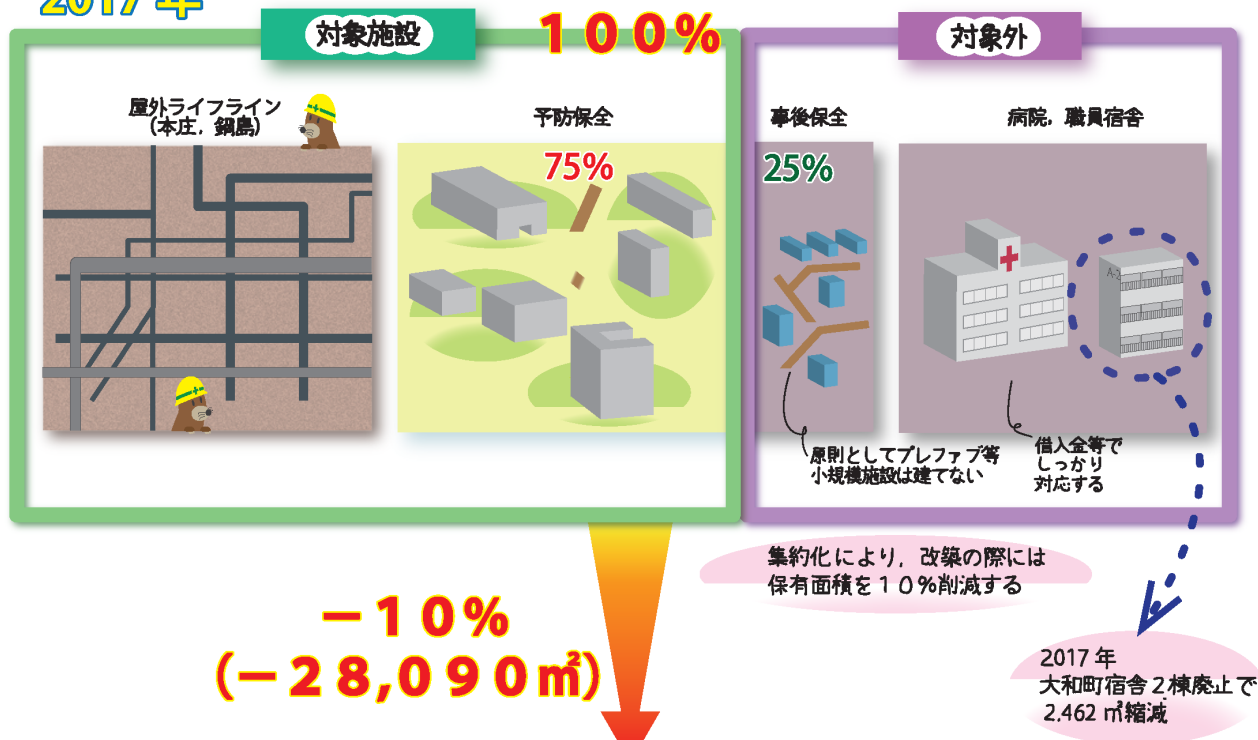


経営者層の視点

## (2) . 施設の集約化

インフラ長寿命化行動計画をふまえ、不足する維持管理費や将来の人口減少を考慮すると、施設の集約化を前提とした長期計画が必要であり、インフラ長寿命化個別施設計画の策定に向けた基本的な考え方について整理する。

2017 年



-10%  
(-28,090 m<sup>2</sup>)

2064 年



### (3) . インフラ長寿命化計画（個別施設計画2020）（概要）

#### I. インフラ長寿命化個別施設計画の背景・目的

##### ○背景

- ・法人化以降、運営費交付金・施設整備費補助金等が減少し、施設の老朽化が進行している状況
- ・保有施設を安全かつ効果的・効率的に維持するためには、長期的視点に立った対策の策定が急務

##### ○目的

- ・施設の状況や改善にかかる必要額を把握した上で課題を整理し、「施設の総量の最適化」や「施設の長寿命化」を計画的に推進
- ・効率的・効果的なメンテナンスサイクルの構築、長寿命化によるトータルコストの縮減
- ・学内関係者等に対する施設の維持管理への理解促進



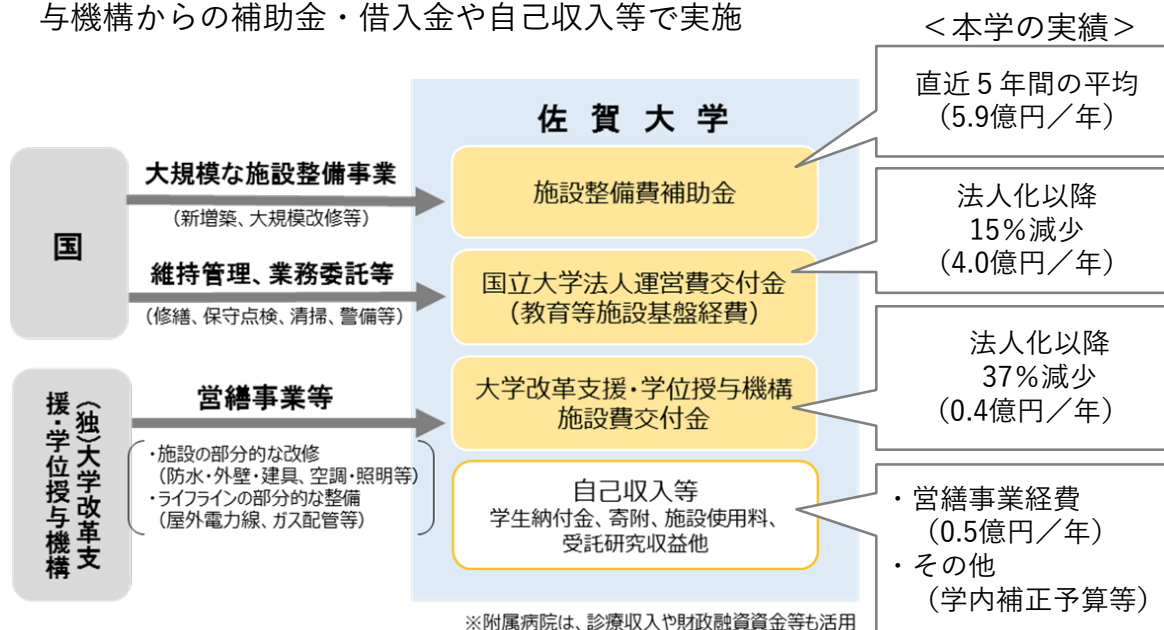
佐賀大学インフラ  
長寿命化計画  
(個別施設計画2020)

◎計画期間：2020年 ～ 2040年

◎対象施設：附属病院・職員宿舎を除く施設、ライフライン設備

#### II. 国立大学法人等の施設整備の仕組み

- ・建物の新增築や大規模改修等の施設整備は、国が措置する施設整備費補助金で実施。維持管理・営繕事業等は、運営費交付金、大学改革支援・学位授与機構からの補助金・借入金や自己収入等で実施



### III. 大学施設の実態

#### ○施設の総量・維持管理状況等の実態

- ・保有面積：法人化以降 13%増加 (H16: 19.1万㎡ ⇒ H30: 21.7万㎡)
- ・維持管理費(運営費交付金)：法人化以降 15%減少
- ・建設工事の物価高騰推移：法人化以降 17%増加

#### ○施設の老朽状況等の実態

- ・建物の耐震化率：95.6%
- ・建設経年25年以上施設：H16: 57.4% ⇒ H31: 78.5%
- ・建設経年25年以上の改修済：H31: 11.0% ⇒ H31: 47.3%

### IV. 施設整備の方針

#### ○課題等

- ・厳しい財政状況の中、建物を維持しながら長寿命化を行うには、新たな財源獲得に努める他、施設の廃止・集約化に向けた検討が必要。
- ・特に、改築整備の場合は、将来の学生数等も注視した規模設定が必要。

<参考>佐賀県：15～19歳人口  
2005年 ⇒ 2045年(約40%減少)



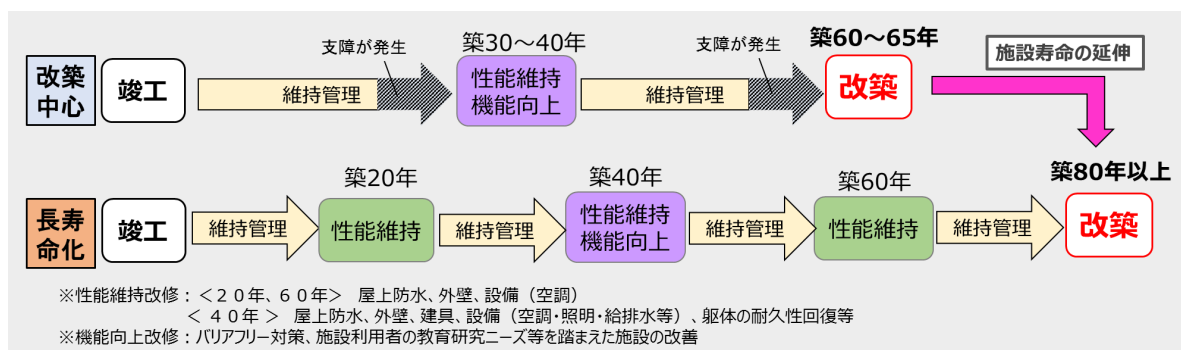
#### ○施設の総量・規模等の方針

- ・2064年までに保有面積の10%を縮減

保有面積の10%  
を段階的に縮減

#### ○改修等の基本的な方針

- ・施設の建て替えは大きな予算が発生するため、施設を長く使用することが重要であり、性能維持のための工事(予防保全)を行うことが必要。
- ・本計画では、改築中心から長寿命化型への施設整備サイクルへ転換し、建物寿命を20年程度延伸するものとする。(鉄筋コンクリート造80年以上)



※（引用参考）「国立大学法人等施設の長寿命化に向けた基本的な考え方の整理」（文部科学省）



## V. 施設整備の方針を踏まえた実施計画

### ○改修等の優先順位付けと実施計画

- ・1,500㎡以上の重点施設を「ランクⅠ」、1,500㎡未満の施設の内、食堂・体育館・武道場・講義棟や鉄筋コンクリート造2階建て以上の施設を「ランクⅡ」、それ以外の施設を「ランクⅢ」として位置付け必要額を試算。

### 【施設の長寿命化実行プラン（2020年～2040年）】

#### ○対象施設・対応方針

- ランクⅠ** 1500㎡以上の施設41棟（保有面積の約75%）  
⇒長寿命化対象施設として、**安定的な予防保全を計画的に実施**
- ランクⅡ** 1500㎡以下の施設の内、食堂・体育館・武道場・講義棟など  
⇒長寿命化推進施設として、**予防保全の予算確保に努め長寿命化を推進**
- ランクⅢ** その他の施設  
⇒安全性の確保を行った上で、集約化や廃止に向けて検討（事後保全）

#### ○予防保全優先順位・重点部位

- ランクⅠ** ①「防水・外壁・空調設備」（必要額：7,500万/年）  
②「照明設備」（必要額：2,000万/年）
- ランクⅡ** ③「防水・外壁・空調設備・照明設備」（必要額：1,700万/年）  
※その他は原則事故保全で対応

○必要額 ①：7,500万円/年、①+②：9,500万円/年 ①+②+③：1.1億円/年

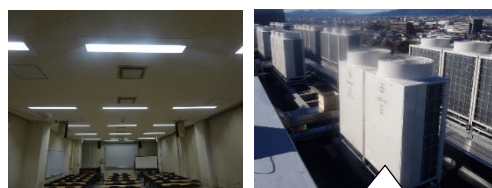
※実行プランは、施設の運営方針・老朽状況等により変動。

### ○必要額確保や総量の最適化に向けた施設マネジメントの方針

- ・長寿命化実行プランを安定的に実施するためには、国に頼らない財源確保や多様な財源を活用した「マネジメントの取り組み」が重要

#### <マネジメント取り組み事例>

- ・省エネルギー改修、学長裁量スペースの活用
- ・構内入構金の活用、施設利用状況調査
- ・保有資産の有効活用 等



省エネルギー改修（LED照明・高効率空調等）

## VI. 長寿命化計画の継続的運用方針

### ○点検・診断と情報基盤の整備と活用

- ・修繕履歴・老朽状況の管理、健全度評価を実施し老朽改善の資料として活用

### ○推進体制の整備

- ・施設マネジメント委員会および各部局と連携し実施

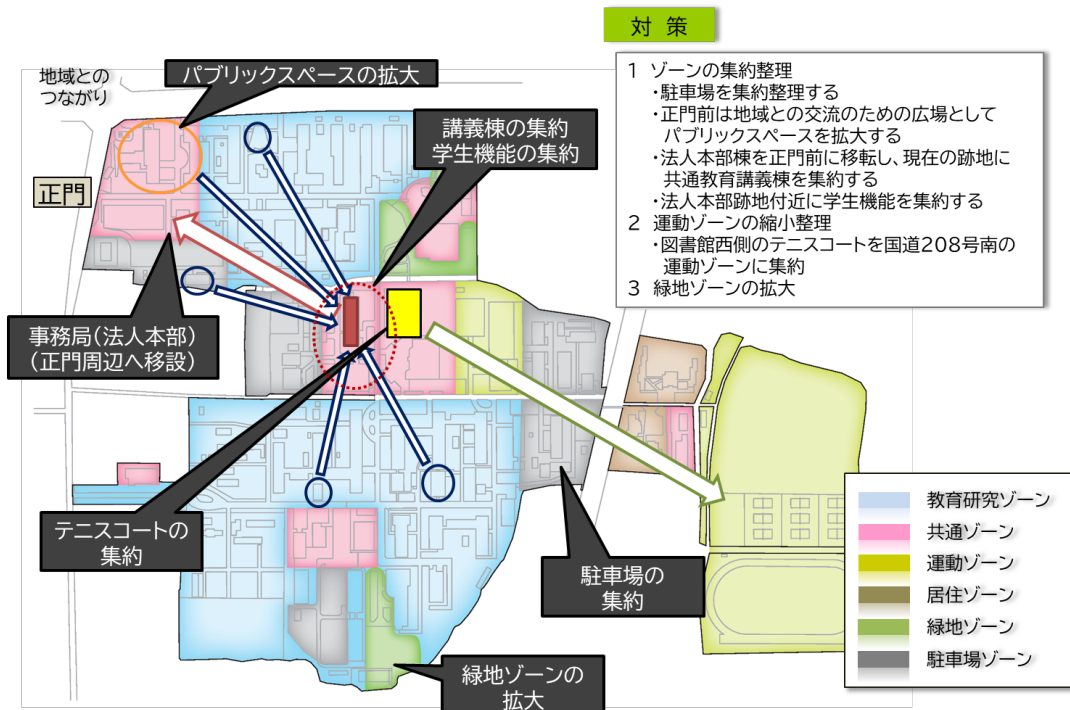
### ○フォローアップ

- ・本計画の実施状況等を確認しながら、適時計画の見直し等を行う。

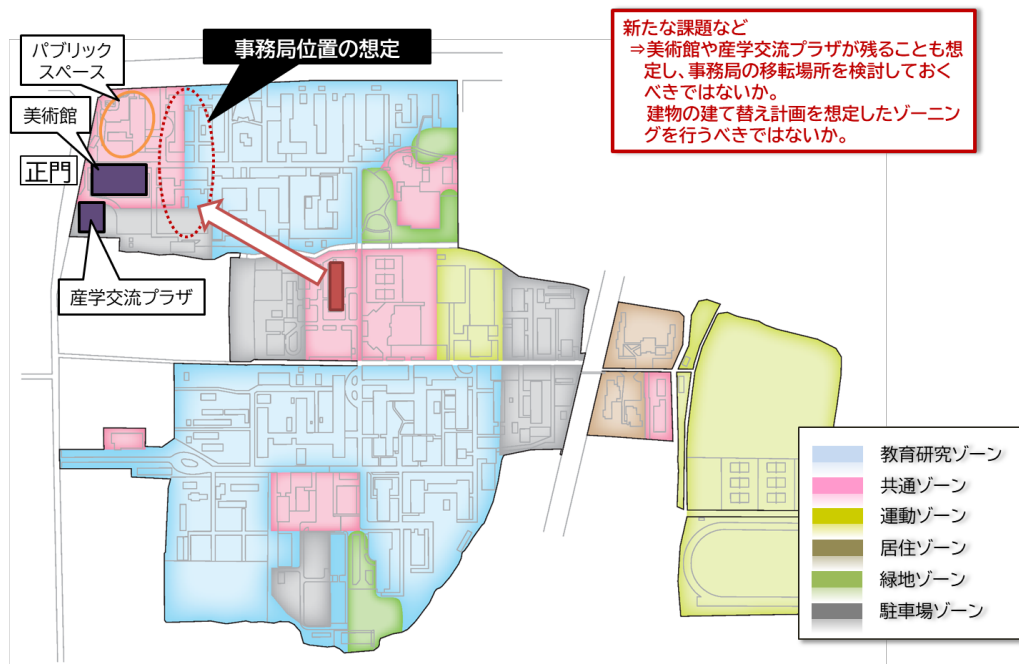
## 付-5. 部門別計画の改訂に向けた課題

(本庄キャンパス)

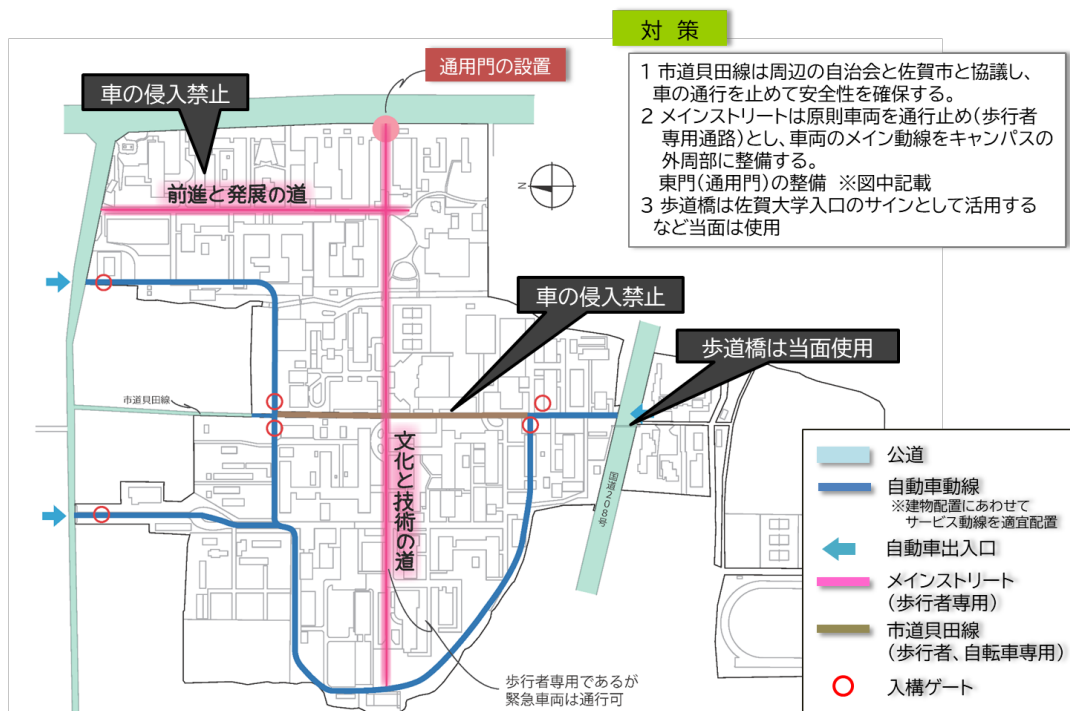
### ①ゾーニング(CMP2016の計画)



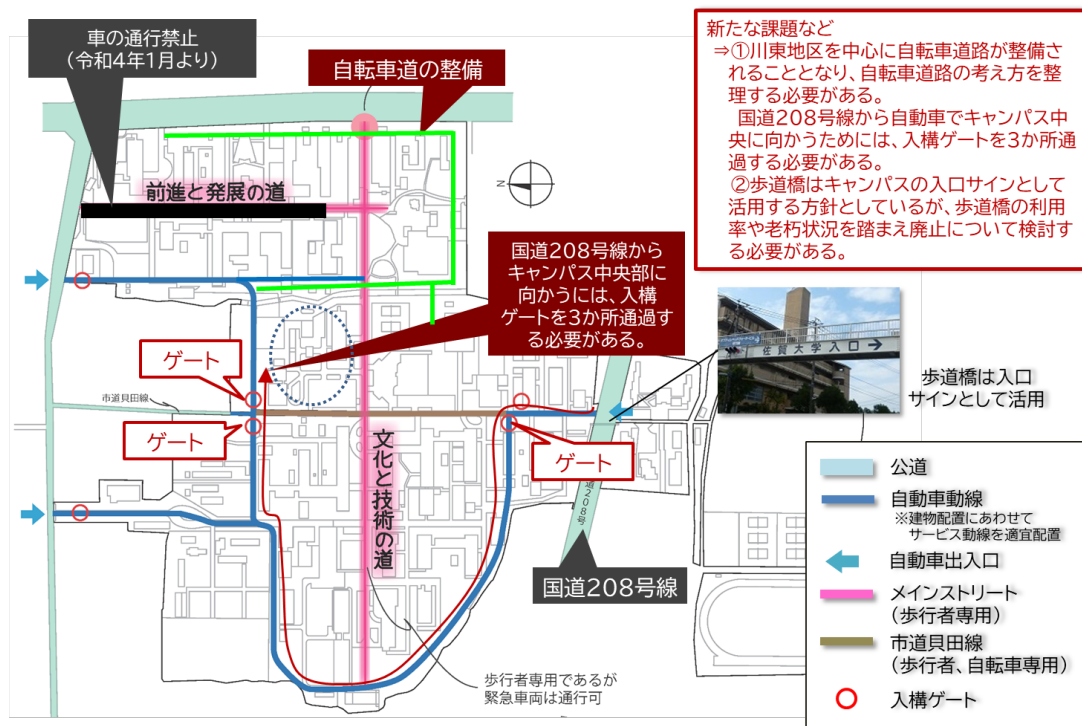
### ①ゾーニング(新たな課題など)



## ②動線(CMP2016の計画)



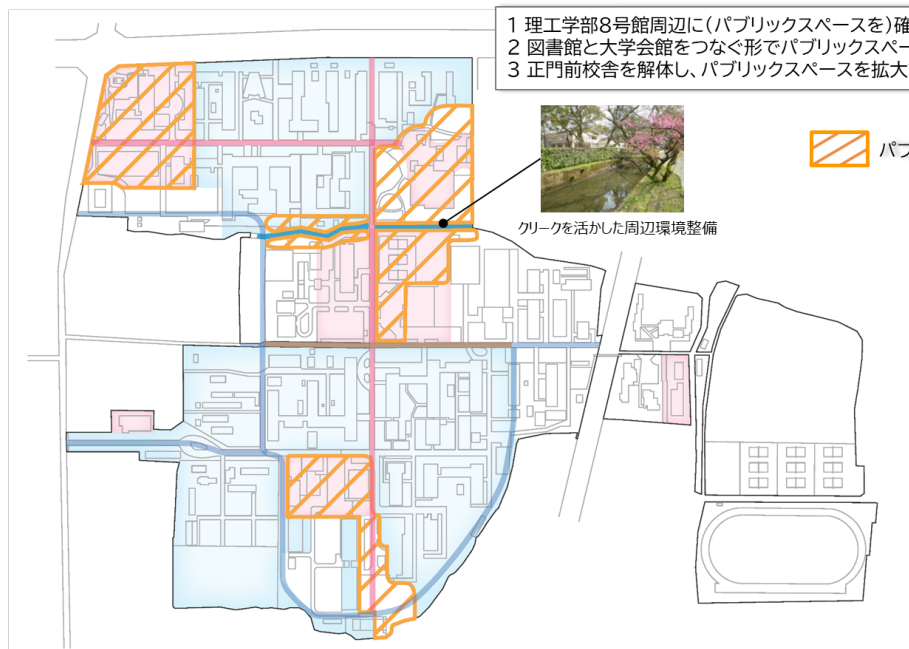
## ②動線(新たな課題など)



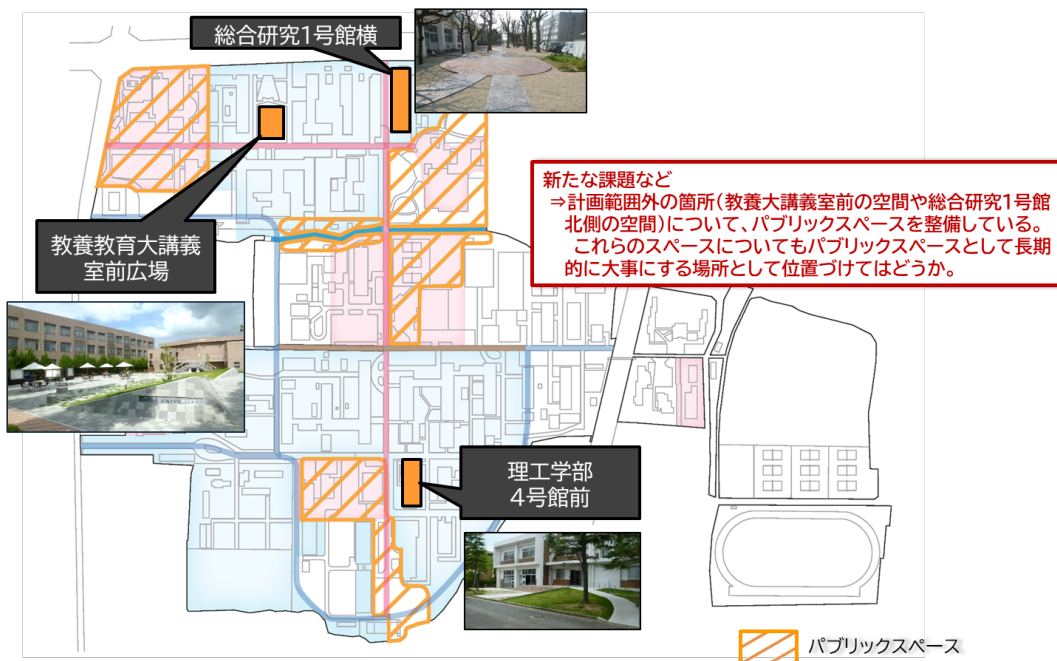
### ③パブリックスペース(CMP2016の計画)

#### 対 策

- 1 理工学部8号館周辺に(パブリックスペースを)確保する。
- 2 図書館と大学会館をつなぐ形でパブリックスペースを拡大する。
- 3 正門前校舎を解体し、パブリックスペースを拡大する。



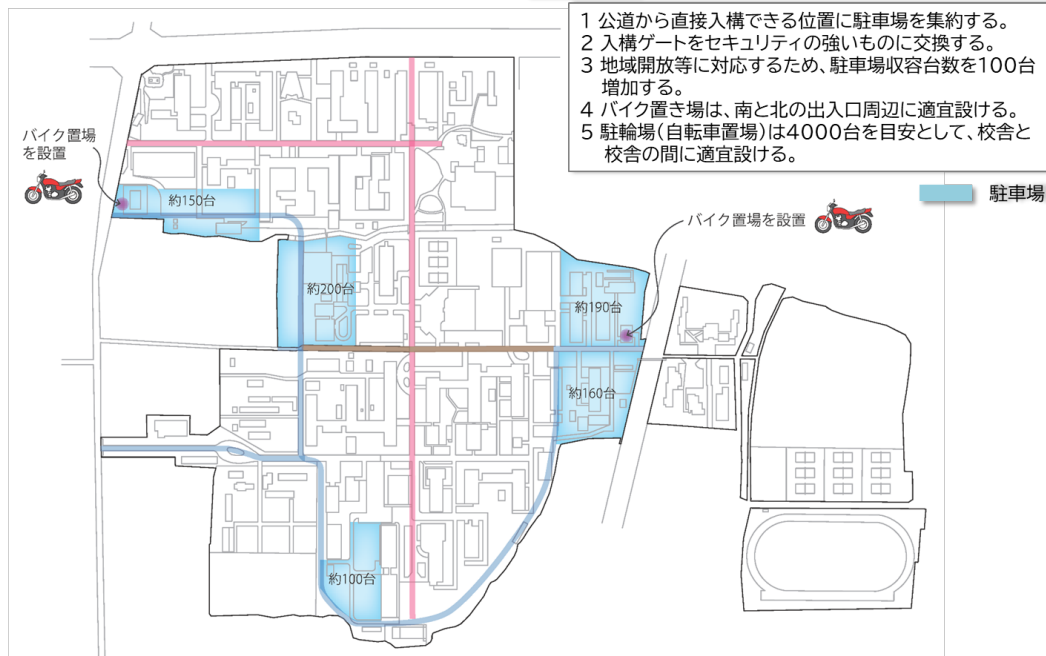
### ③パブリックスペース(新たな課題など)



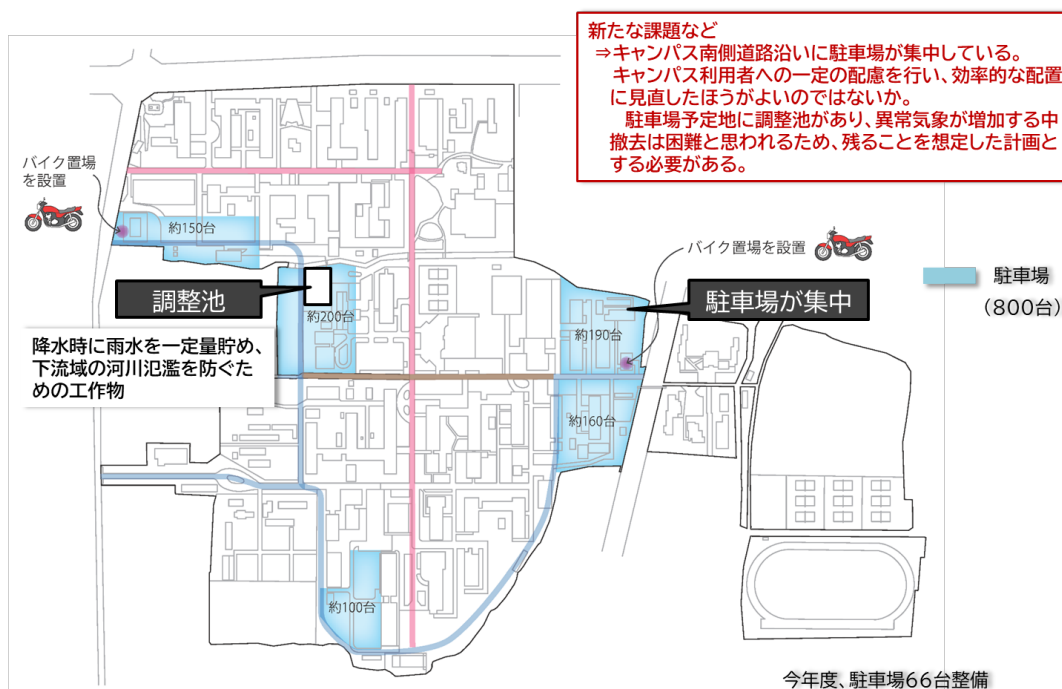


## ④駐車場(CMP2016の計画)

### 対 策



## ④駐車場(新たな課題など)

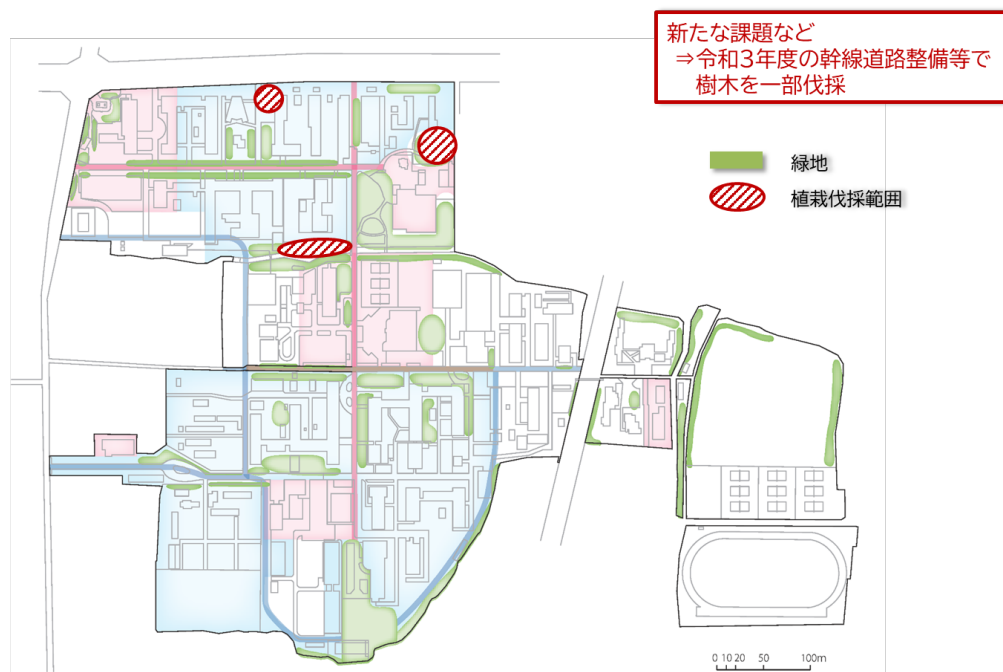


## ⑤緑地(CMP2016の計画)

### 対 策

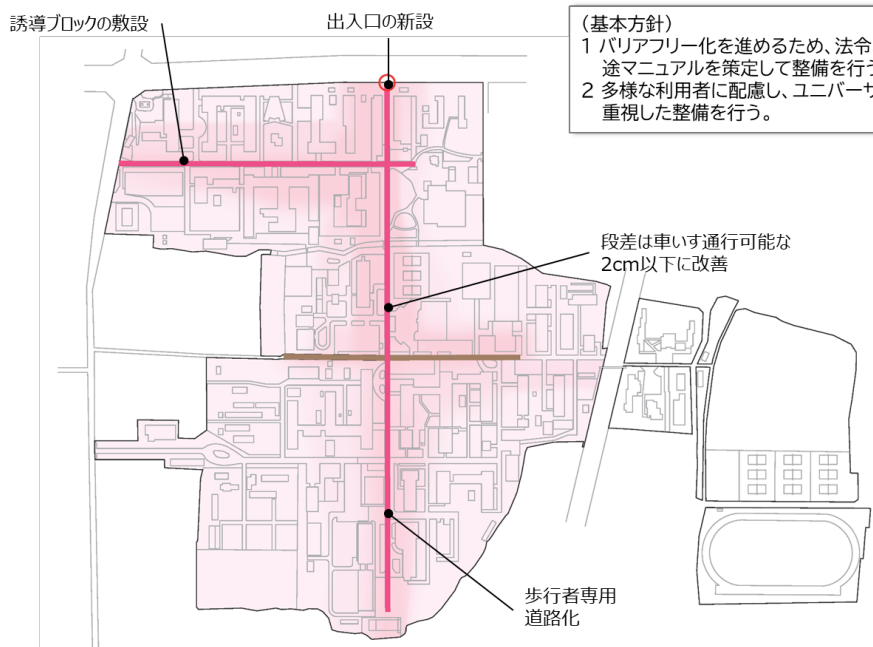


## ⑤緑地(新たな課題など)



## ⑥ユニバーサルデザイン(CMP2016の計画)

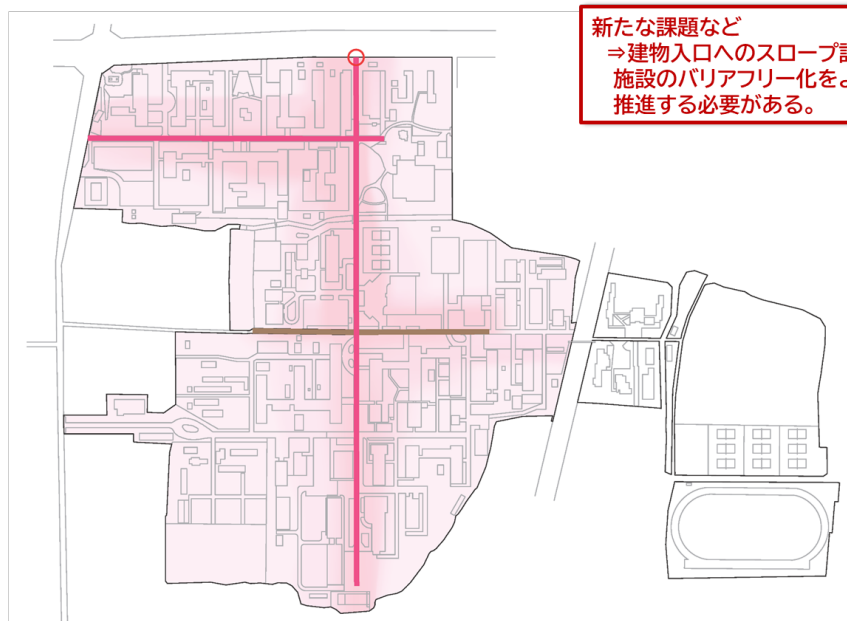
### 対 策



#### (基本方針)

- 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等を踏まえ、別途マニュアルを策定して整備を行う
- 2 多様な利用者に配慮し、ユニバーサルデザインの視点も重視した整備を行う。

## ⑥ユニバーサルデザイン(新たな課題など)



#### 新たな課題など

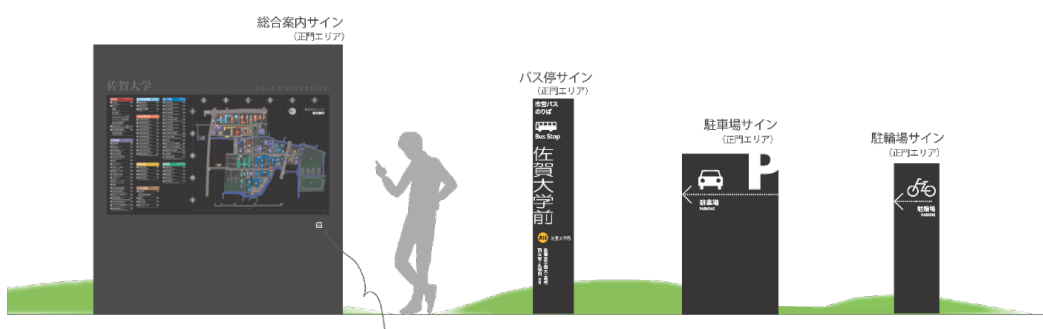
⇒建物入口へのスロープ設置等  
施設のバリアフリー化をより一層  
推進する必要がある。

## ⑦サイン(CMP2016の計画)

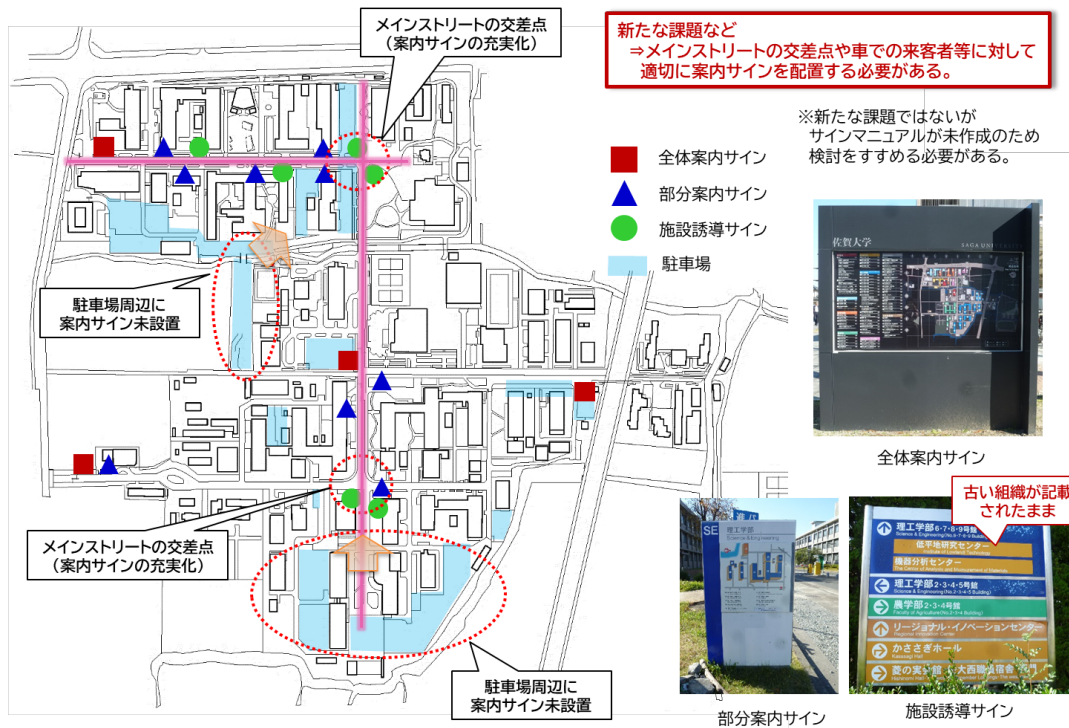
### 対 策



- 1 外部のサインはキャンパス全体において統一を図る。  
内部のサインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする。
- 2 サインの詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う。



## ⑦サイン(新たな課題など)





## ⑧アート(CMP2016の計画・新たな課題など)

### 対 策



## ⑨基幹設備(CMP2016の計画・新たな課題など)

### 基本方針



- 1 安全・安心を支える基幹設備計画  
・更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要個所を集中的に予防保全する
- 2 質の高い教育・研究活動を支える基幹設備計画  
・建物の将来計画や教育研究内容の変化に追従可能となるような、柔軟なシステムを採用する。
- 3 サステナブルキャンパスの形成に資する基幹設備計画  
・CO2排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入について検討を行う。

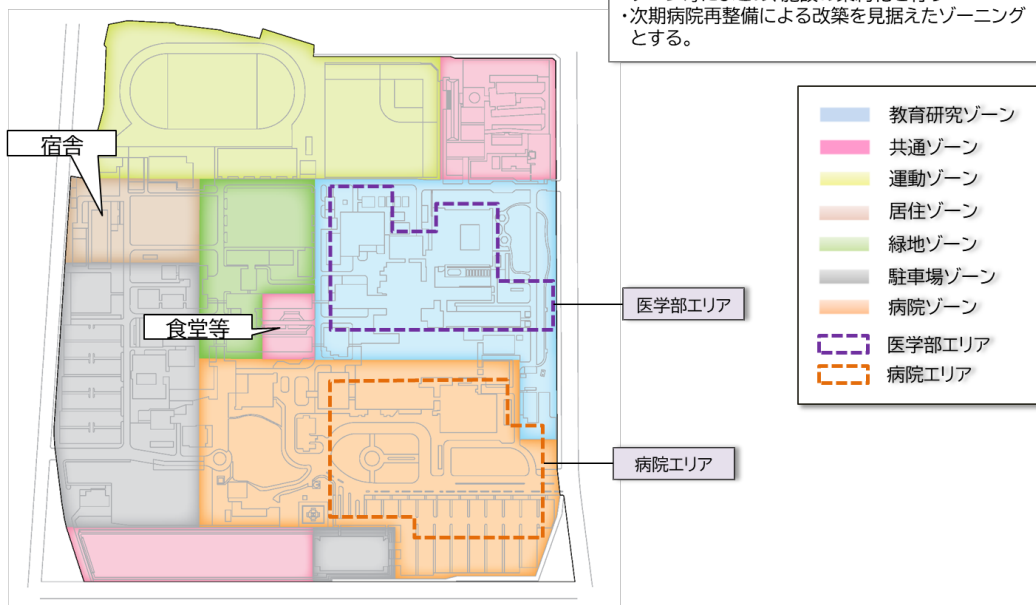
**新たな課題など**  
⇒カーボンニュートラルキャンパスに向けた取り組みの記載

(鍋島キャンパス)

# ①ゾーニング(CMP2016の計画)

## 対 策

- ・ゾーン毎にまとめ、施設の集約化を行う
- ・次期病院再整備による改築を見据えたゾーニングとする。



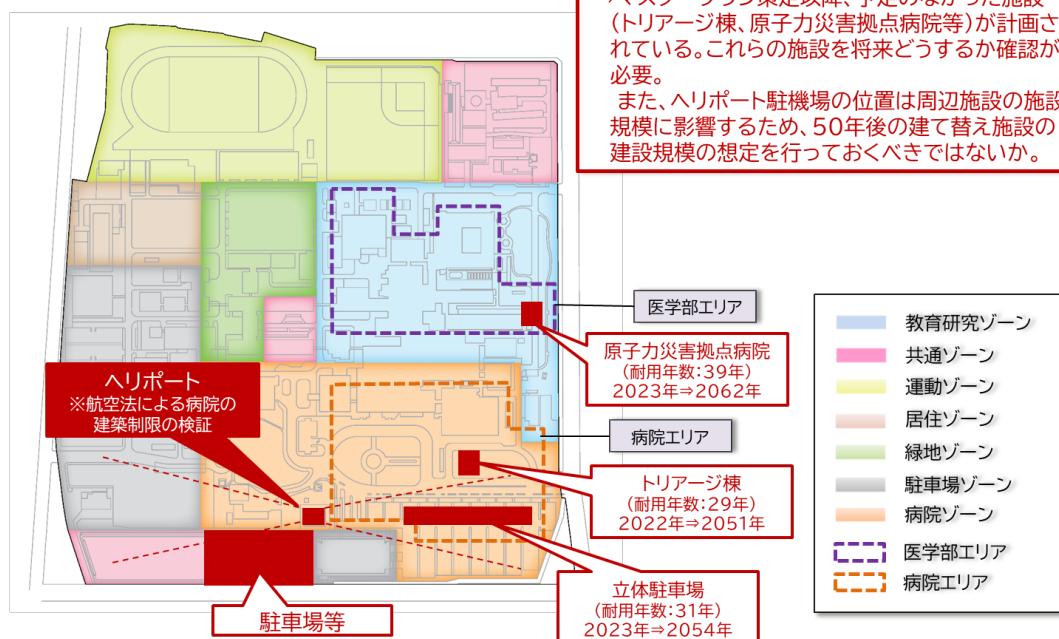
# ①ゾーニング(新たな課題など)

CMP2022(予)

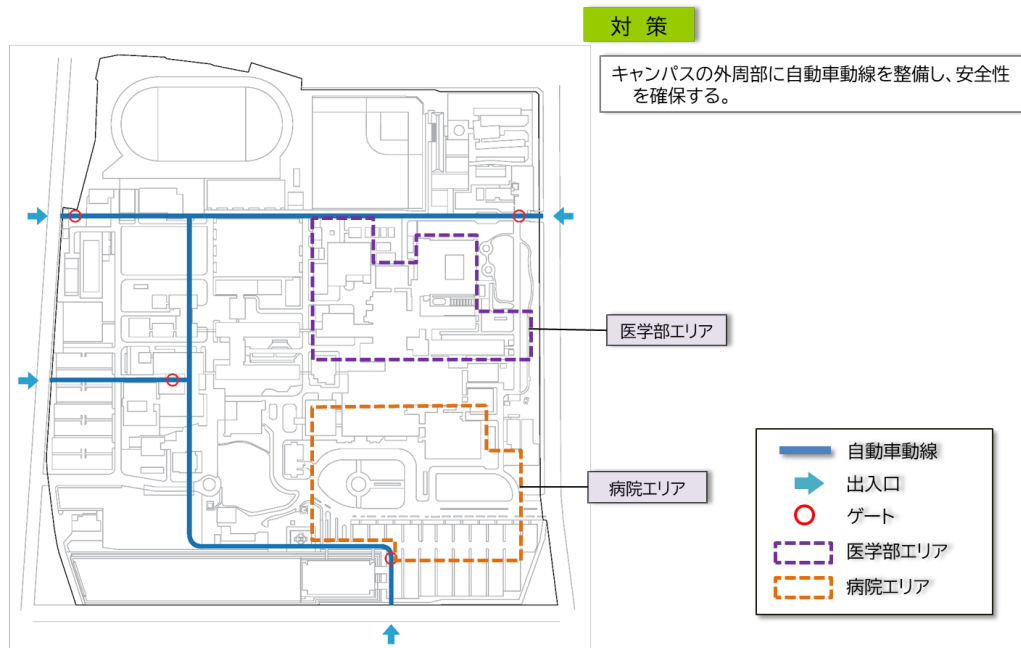
## 新たな課題など

⇒マスタープラン策定以降、予定のなかった施設(トリアージ棟、原子力災害拠点病院等)が計画されている。これらの施設を将来どうするか確認が必要。

また、ヘリポート駐機場の位置は周辺施設の施設規模に影響するため、50年後の建て替え施設の建設規模の想定を行っておくべきではないか。

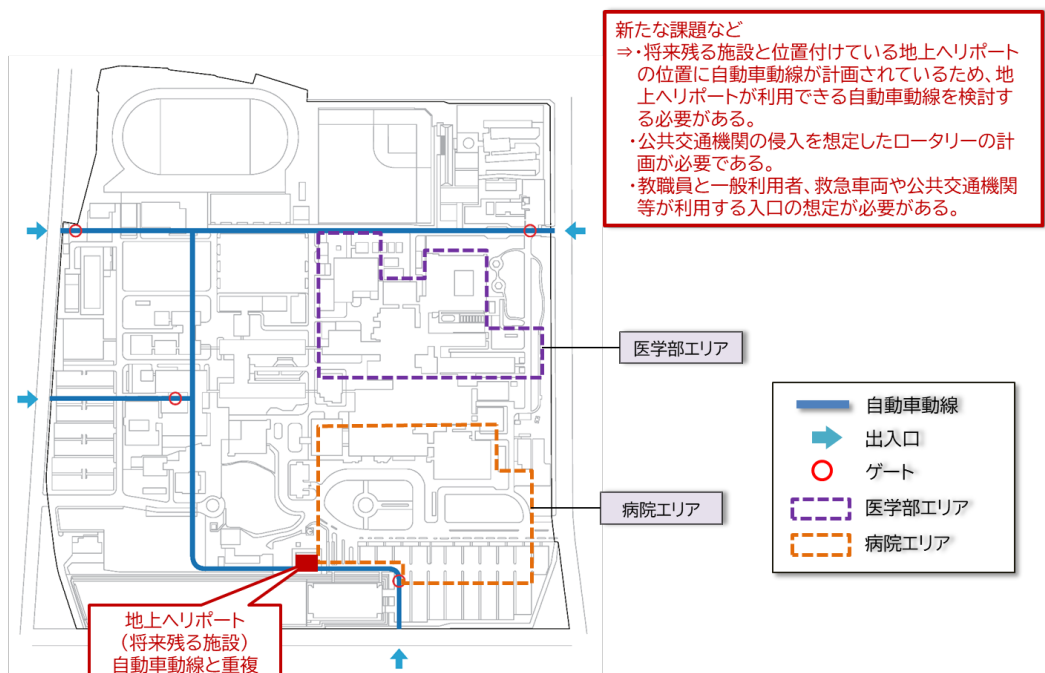


## ②動線(CMP2016の計画)



## ②動線(新たな課題など)

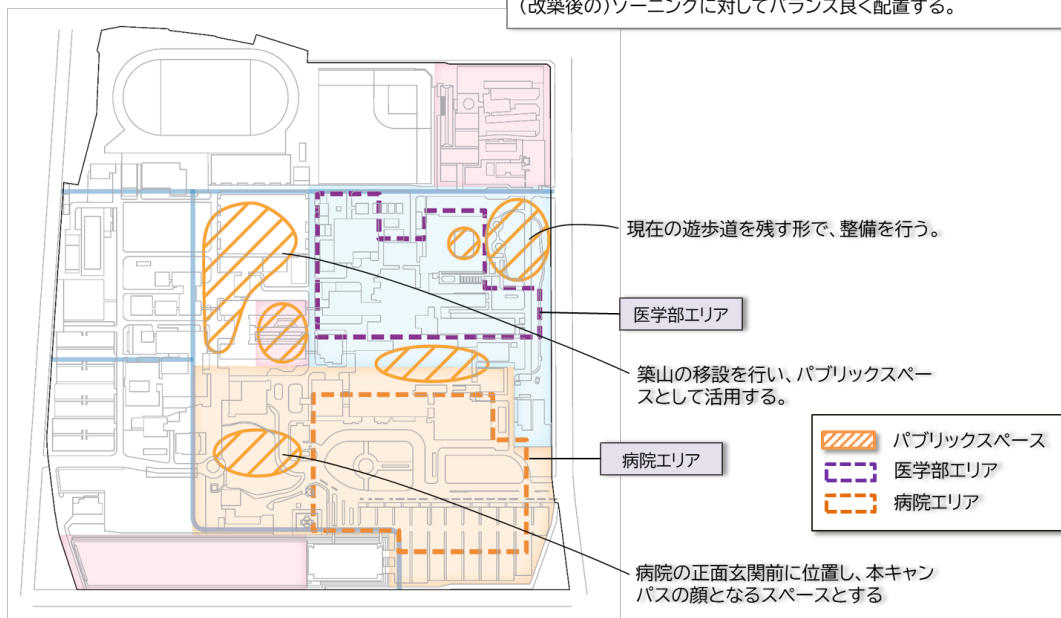
CMP2022(予)



### ③パブリックスペース(CMP2016の計画)

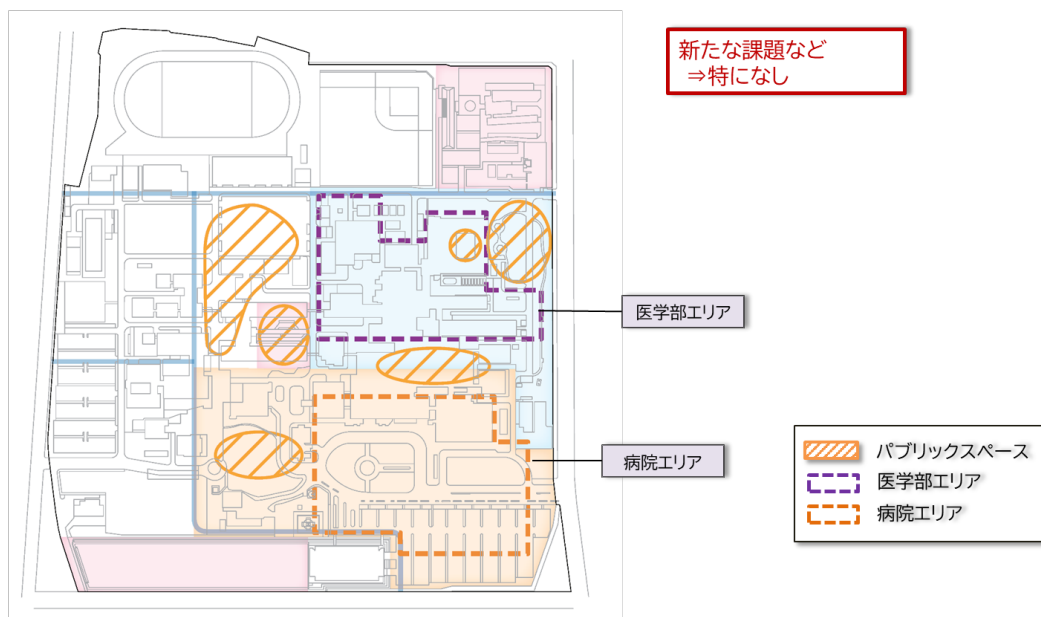
#### 対 策

(改築後の)ゾーニングに対してバランス良く配置する。



### ③パブリックスペース(新たな課題など)

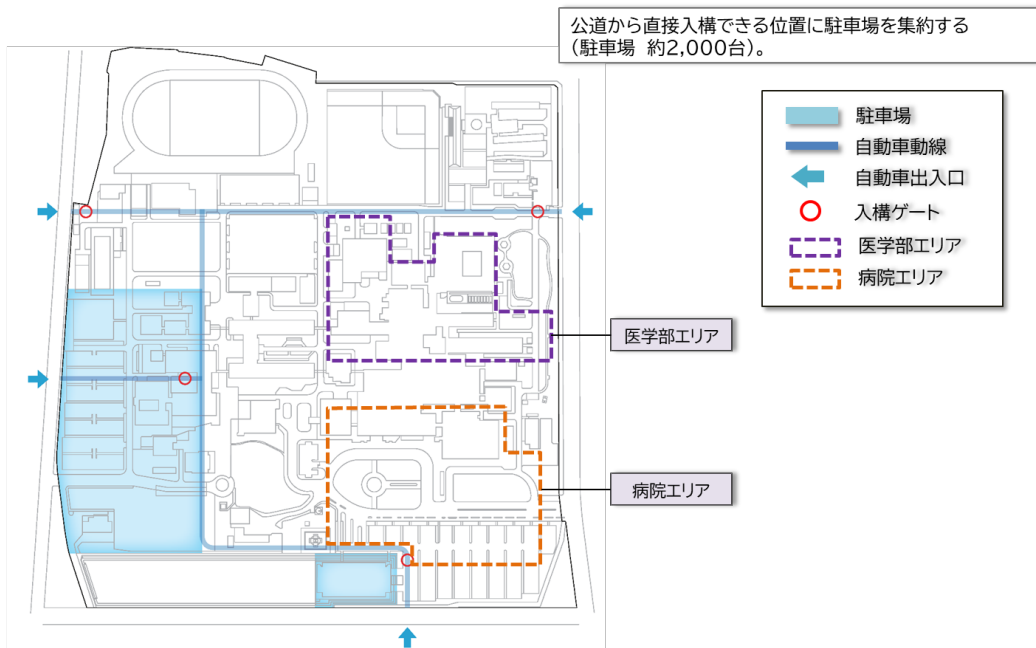
CMP2022(予)





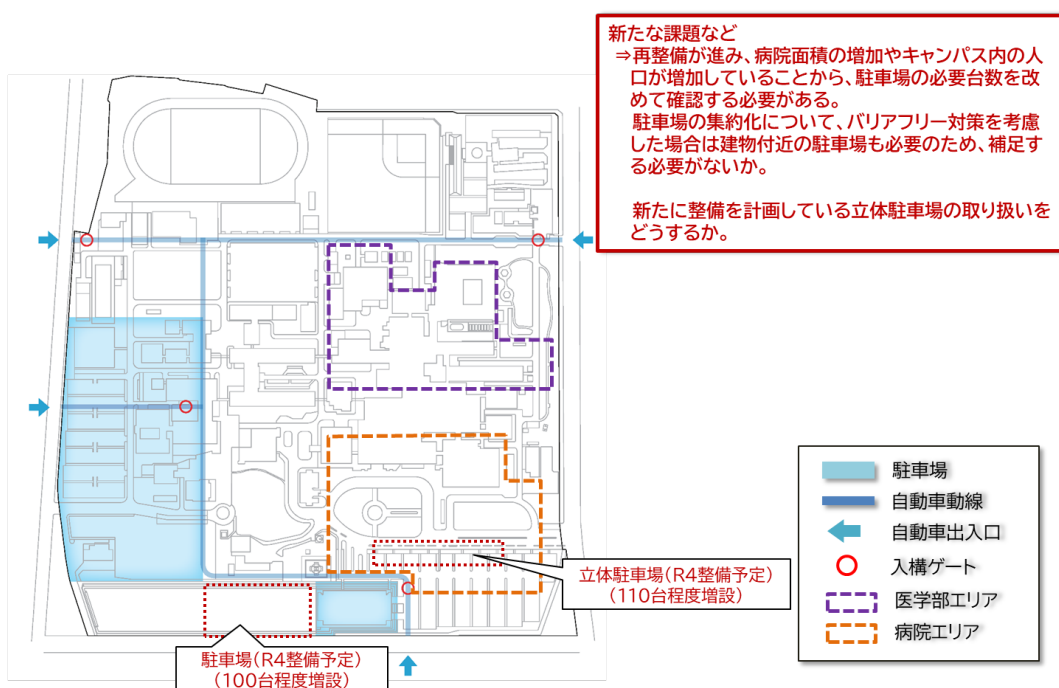
## ④駐車場(CMP2016の計画)

### 対 策



## ④駐車場(新たな課題など)

CMP2022(予)



## ⑤緑地(CMP2016の計画)

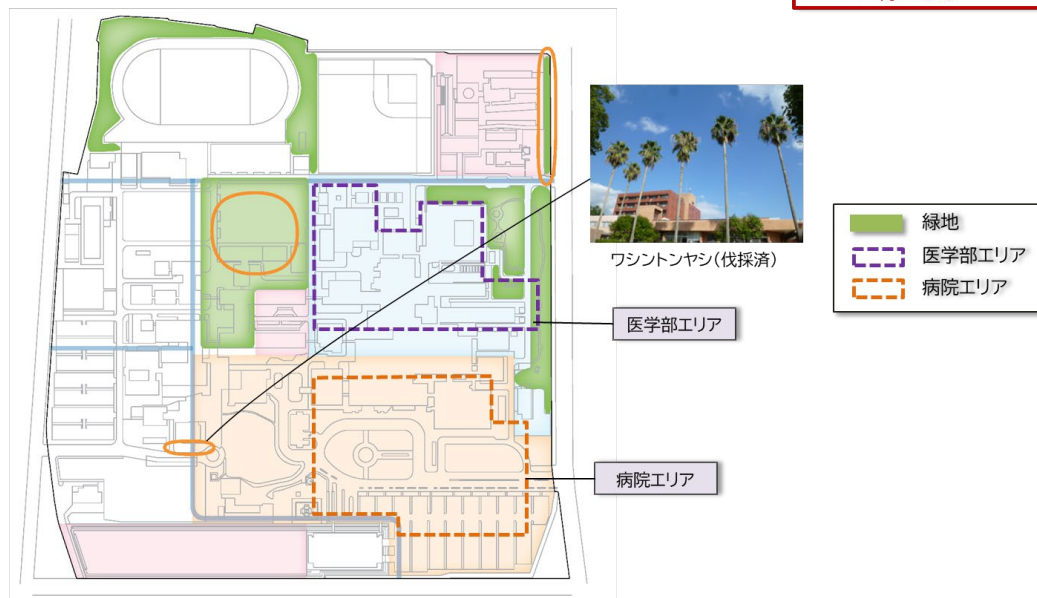
### 対 策

建物の改築に併せて周辺の樹木を適正な規模に整理する。



## ⑤緑地(新たな課題など)

新たな課題など  
⇒ 特になし



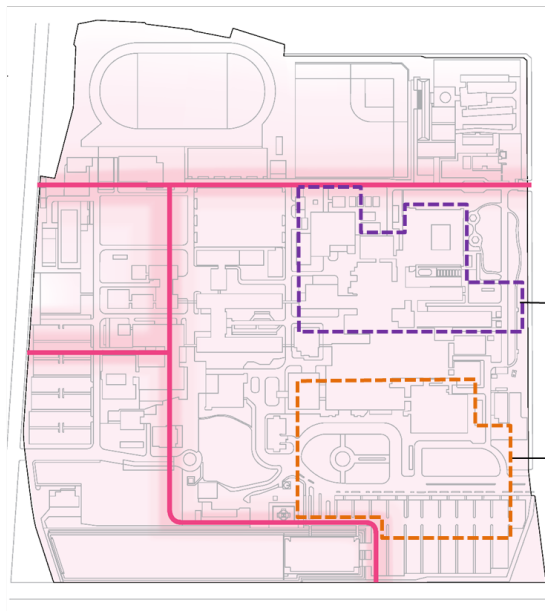
## ⑥ユニバーサルデザイン(CMP2016の計画)

### 対 策

メインストリート上には、誘導ブロックを敷設  
 ・歩道には、誘導ブロックを敷設し各建物へ分岐  
 ・構内の段差は2cm以下に改善  
 ・スロープの幅は余裕を持って確保する

#### (基本方針)

- 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等を踏まえ、別途マニュアルを策定して整備を行う
- 2 多様な利用者に配慮し、ユニバーサルデザインの視点も重視した整備を行う。



医学部エリア

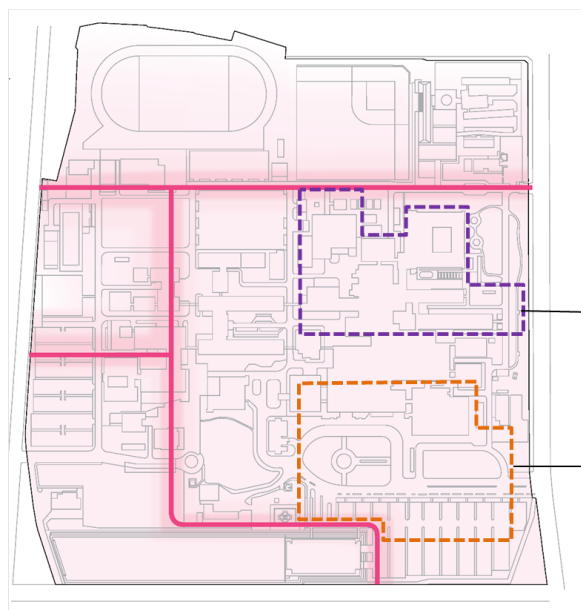
病院エリア

- 車道+歩道(歩車分離)
- 医学部エリア
- 病院エリア

## ⑥ユニバーサルデザイン(新たな課題など)

CMP2022(予)

新たな課題など  
 ⇒建物入口へのスロープ設置等  
 施設のバリアフリー化をより一層  
 推進する必要がある。



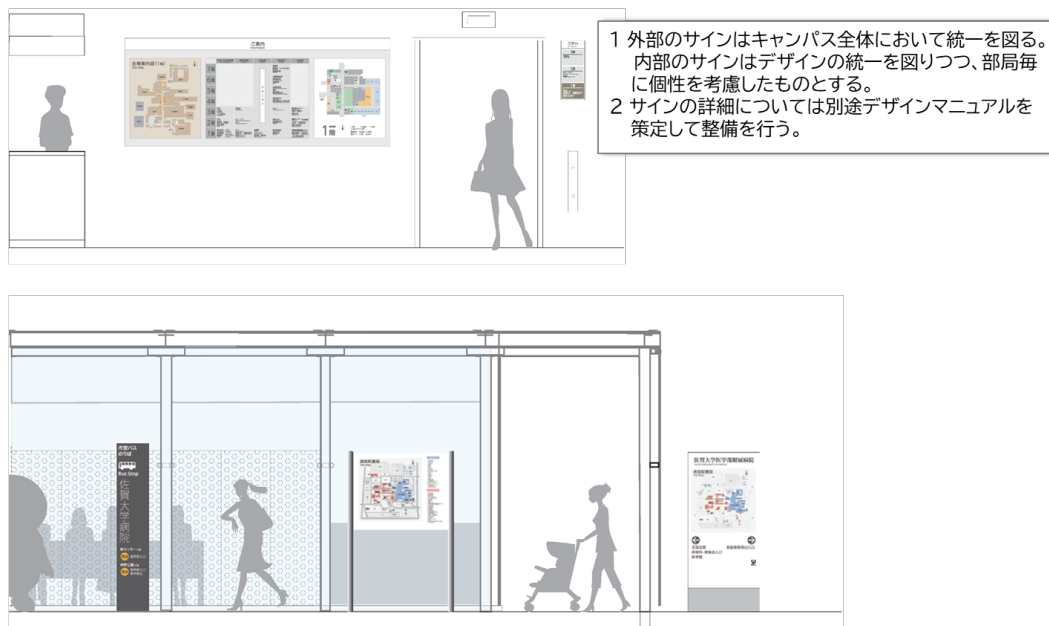
医学部エリア

病院エリア

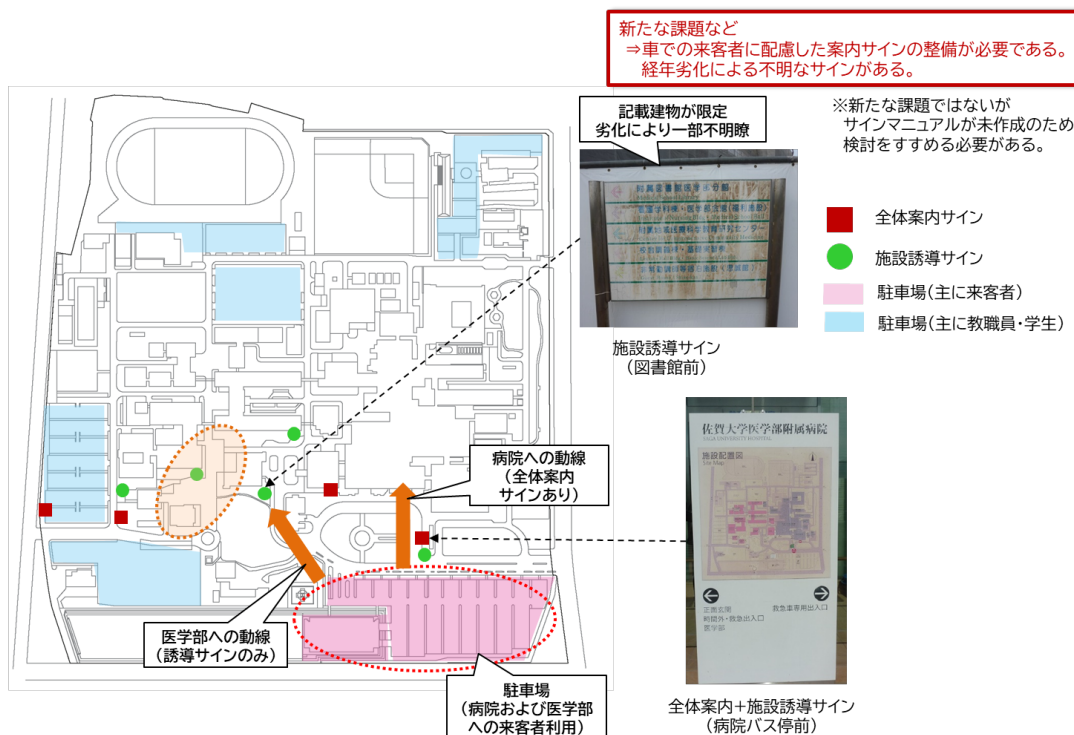
- 車道+歩道(歩車分離)
- 医学部エリア
- 病院エリア

## ⑦サイン(CMP2016の計画)

### 対 策



## ⑦サイン(新たな課題など)





## ⑧アート( CMP2016の計画・新たな課題など)

### 対 策

芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体をアートの展示場にする。  
 ・大学の歴史的資料の展示を考慮  
 ・アート作品は所定の手続きを行って設置  
 ・アート作品はパブリックスペースへの設置を基本

### 新たな課題など

⇒施設整備と関連したアート計画が不足



## ⑨基幹設備(CMP2016の計画・新たな課題など)

### 基本方針

- 1 安全・安心を支える基幹設備計画  
 ・更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要箇所を集中的に予防保全する
- 2 質の高い教育・研究・診療活動を支える基幹設備計画  
 ・災害時にも適切な診療活動が確保できるよう、強靱かつ継続性のある基幹設備計画を行う。
- 3 サステナブルキャンパスの形成に資する基幹設備計画  
 ・CO2排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入について検討を行う。

### 新たな課題など

⇒カーボンニュートラルキャンパスに向けた取り組みの記載



## 付-6. 部門別計画の対策時期（計画）

### （本庄キャンパス）

短期的な対策として実施  
 中長期的な対策として実施  
 段階的・継続的な対策として実施

| 部門別<br>計画      | 主な対策内容                                                              | 短期         | 中長期        |            |            |            |                                                                                           | 備 考 |
|----------------|---------------------------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
|                |                                                                     | 2020<br>年代 | 2030<br>年代 | 2040<br>年代 | 2050<br>年代 | 2060<br>年代 | 整備手法及び関連施設等                                                                               |     |
| ゾーニング          | ・駐車場の集約整理                                                           |            |            |            |            |            | 関連施設の改築に合わせて実施<br>経済学部1号館・教育学部2号館<br>理工学部2・3号館 等                                          |     |
| ゾーニング          | ・正門前の共通ゾーンの拡大                                                       |            |            |            |            |            | 関連施設の改築に合わせて計画<br>教養教育2号館 本部棟 等                                                           |     |
| ゾーニング          | ・法人本部棟を正門付近へ移転し、跡地に共通教育講義棟を整備<br>・共通講義棟付近に学生支援機能を集約                 |            |            |            |            |            | 関連施設の改築に合わせて計画<br>教養教育2号館・本部棟 等                                                           |     |
| ゾーニング          | ・テニスコートの集約<br>（国道208号線運動ゾーン）                                        |            |            |            |            |            | 本部棟前テニスコート（2009年度改修<br>整備。2040年頃まで使用予定）                                                   |     |
| ゾーニング          | ・緑地ゾーンの拡大                                                           |            |            |            |            |            | 建物やパブリックスペースの整備等に併せて<br>適宜実施                                                              |     |
| 動線             | ・市道貝田線は周辺の自治会と佐賀市と協議し安全性を確保。                                        |            |            |            |            |            | 外周道路整備完了後に計画                                                                              |     |
| 動線             | ・メインストリートは原則車両を通行止め<br>（歩行者専用通路）                                    |            |            |            |            |            | らくうしや並木道の車両通行止めは短期的<br>対策として実施済。その他は外周道路<br>整備に併せて段階的に計画                                  |     |
| 動線             | ・車両のメイン動線をキャンパスの外周部に整備                                              |            |            |            |            |            | 関連施設の改築に合わせて実施<br>経済学部1号館・教育学部2号館<br>理工学部2号館 等                                            |     |
| 動線             | ・東門（通用門）の整備                                                         |            |            |            |            |            | 境界堀の改修 等                                                                                  |     |
| 動線             | ・歩道橋は当面は使用                                                          |            |            |            |            |            | －                                                                                         |     |
| パブリックス<br>ベース  | ・理工学部8号館周辺に確保する                                                     |            |            |            |            |            | 周辺の駐車場廃止に伴うため現状困<br>難。短期的対策として、かさざぎホール南<br>側のスペースを活用した計画を検討                               |     |
| パブリックス<br>ベース  | ・メインストリート沿いにパブリックスペースを連続して配<br>する。                                  |            |            |            |            |            | 周辺建物の改築工事等に併せて実施                                                                          |     |
| 駐車場<br>（駐輪場）   | 駐車場は自動車動線沿いに配置する。                                                   |            |            |            |            |            | 関連施設の改築に合わせて実施<br>経済学部1号館・理工学部2号館 等                                                       |     |
| 駐車場<br>（駐輪場）   | バリアフリー対応の駐車場は建物の近くにも計画する                                            |            |            |            |            |            | 関連施設の改修・改築に合わせて実施                                                                         |     |
| 駐車場<br>（駐輪場）   | 地域開放などに対応するための駐車場収容台数を確<br>保する                                      |            |            |            |            |            | キャンパスの状況を踏まえて随時対策を<br>実施                                                                  |     |
| 駐車場<br>（駐輪場）   | バイク置場は南と北の出入口周囲に設ける                                                 |            |            |            |            |            | 既存のバイク置場を活用しつつ、外周道<br>路整備等に併せて計画                                                          |     |
| 駐車場<br>（駐輪場）   | 駐輪場（自転車置場）は、校舎と校舎の間に設け<br>る。また、駐輪場には屋根の設置を進め、駐輪場の利<br>用を誘導する        |            |            |            |            |            | キャンパスの状況を踏まえて随時対策を<br>実施                                                                  |     |
| 緑地             | 緑地の管理が行き届くよう、適正な規模に整理し、魅<br>力的なパブリックスペースの形成に寄与する                    |            |            |            |            |            | －                                                                                         |     |
| 緑地             | パブリックスペースは計画的な植樹を実施                                                 |            |            |            |            |            | －                                                                                         |     |
| ユニバーサル<br>デザイン | バリアフリー化を進めるため、法令、条例等を踏まえ、<br>関連の整備マニュアルを基に整備を行う                     |            |            |            |            |            | 法令、条例等に基づき改修工事等に併<br>せて適宜実施                                                               |     |
| ユニバーサル<br>デザイン | 多様な利用者に配慮し、ユニバーサルデザインの視点<br>も重視した整備を行う                              |            |            |            |            |            | 建物等の整備に併せて適宜実施                                                                            |     |
| サイン            | 外部のサインはキャンパス全体において統一を図る<br>内部のサインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に<br>個性を考慮したものとする |            |            |            |            |            | 短期的対策として、必要な場所へのサイ<br>ンの整備とデザインの統一化等を進める。<br>その後は、維持管理の適切な実施とキャン<br>パス内の施設整備等に併せて適宜実<br>施 |     |
| サイン            | サインの詳細については別途デザインマニュアルを策定<br>して整備を行う                                |            |            |            |            |            |                                                                                           |     |
| サイン            | 適切な場所へのサインの配置および維持管理の実施                                             |            |            |            |            |            |                                                                                           |     |
| サイン            | 来客者が迷わないよう、適切な場所に案内サインを整<br>備                                       |            |            |            |            |            |                                                                                           |     |

| 部門別<br>計画 | 主な対策内容                                                                                                                    | 短期         | 中長期        |            |            |            |                                 | 備 考 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|---------------------------------|-----|
|           |                                                                                                                           | 2020<br>年代 | 2030<br>年代 | 2040<br>年代 | 2050<br>年代 | 2060<br>年代 | 整備手法及び関連施設等                     |     |
| アート       | 芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体をアートとなり、魅力あるイノベーション・commonsとしてデザインされた空間となる施設整備を推進                                                    |            |            |            |            |            | パブリックスペースの整備等に併せて適宜実施           |     |
| 基幹設備      | ・更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要箇所を集中的に予防保全する<br>・建物の将来計画や教育研究内容の変化に追従可能となるような、柔軟なシステムを採用<br>・高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入について検討を行う |            |            |            |            |            | インフラ長寿命化個別施設計画や建物の施設整備等に併せて適宜実施 |     |

※将来の施設の運用方針や財政状況等により変動する。

## (鍋島キャンパス)

- 短期的な対策として実施
- 中長期的な対策として実施
- 段階的・継続的な対策として実施

| 部門別<br>計画      | 主な対策内容                                                                                                                                          | 短期         | 中長期        |            |            |            |                                                                           | 備 考 |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|---------------------------------------------------------------------------|-----|
|                |                                                                                                                                                 | 2020<br>年代 | 2030<br>年代 | 2040<br>年代 | 2050<br>年代 | 2060<br>年代 |                                                                           |     |
| ゾーニング          | ・南東側の駐車場用地に病院施設を整備する。                                                                                                                           |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| ゾーニング          | ・病院エリア北側の跡地に、校舎機能の施設を整備する。                                                                                                                      |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| 動線             | ・キャンパスの外周部に自動車動線を整備し、安全性を確保する                                                                                                                   |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| 動線             | ・自動車動線はゆとりのある道路幅を確保し、歩車分離を行う                                                                                                                    |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| パブリック<br>スペース  | ・ゾーニングに対してバランス良く配置し、キャンパスのイノベーション・commons化に寄与する交流空間を形成                                                                                          |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| 駐車場<br>(駐輪場)   | 自動車動線沿いに配置する。バリアフリー対応の駐車場は建物の近くにも計画する。病院再整備に対応した駐車場収容台数を確保する。                                                                                   |            |            |            |            |            | 次期病院再整備時の計画は長期的計画とし、短期的対策として、現状の需要に応じ必要な駐車場を確保                            |     |
| 駐車場<br>(駐輪場)   | 病院は駐車場周辺に設け、校舎は校舎と校舎の間に適宜設ける。駐輪場には屋根の設置を進め、指定場所への駐輪を誘導する。                                                                                       |            |            |            |            |            | 利用状況等に応じ、適宜必要な対策を実施                                                       |     |
| 緑地             | 築山庭園は大学のシンボルとして周辺施設の改築に合わせて移設                                                                                                                   |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| 緑地             | パブリックスペースは計画的な植樹を実施                                                                                                                             |            |            |            |            |            | 次期病院再整備に合わせて計画                                                            |     |
| ユニバーサル<br>デザイン | バリアフリー化を進めるため、法令、条例等を踏まえ、関連の整備マニュアルを基に整備を行う                                                                                                     |            |            |            |            |            | 法令、条例等に基づき改修工事等で併せて実施                                                     |     |
| ユニバーサル<br>デザイン | 多様な利用者に配慮し、ユニバーサルデザインの視点も重視した整備を行う                                                                                                              |            |            |            |            |            | 建物等の整備に併せて適宜実施                                                            |     |
| サイン            | 外部のサインはキャンパス全体において統一を図る。内部のサインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする                                                                                    |            |            |            |            |            | 短期的対策として、必要な場所へのサインの整備とデザインの統一化等を進める。その後は、維持管理の適切な実施とキャンパス内の施設整備等に併せて適宜実施 |     |
| サイン            | サインの詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う                                                                                                                |            |            |            |            |            |                                                                           |     |
| アート            | 芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体をアートの展示場にする                                                                                                                |            |            |            |            |            | パブリックスペースの整備等に併せて適宜実施                                                     |     |
| 基幹設備           | ・更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要箇所を集中的に予防保全する<br>・災害時にも適切な診療環境が確保できるよう、強靱かつ継続性のある基幹設備計画を行う<br>・CO2排出量や光熱水費の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入について検討を行う |            |            |            |            |            | インフラ長寿命化個別施設計画や建物の施設整備等に併せて実施                                             |     |

※将来の施設の運用方針や財政状況等により変動する。

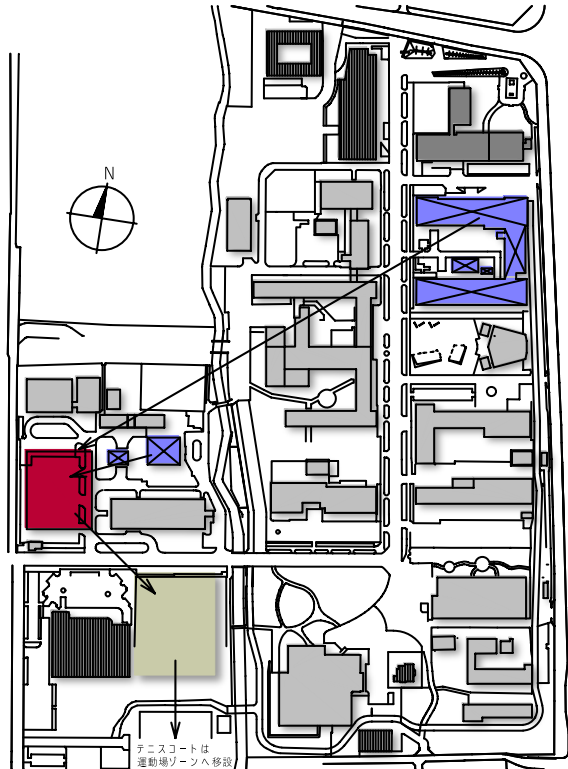
## 付-7. 建物の建て替え計画の検討

### (本庄キャンパス)

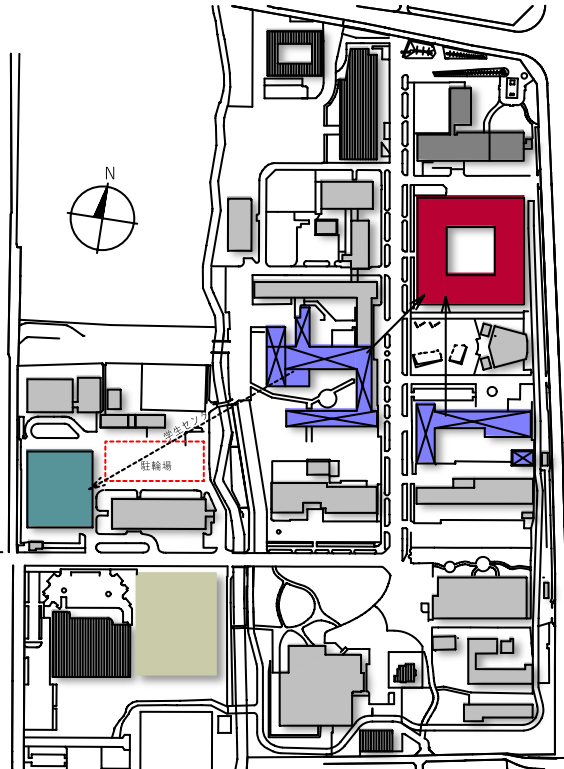
(教育・経済・芸術 全額教育機構・事務局エリア①)

既設建物  
 新築建物  
 整備済建物  
 既設建物 (将来残る建物)  
 取壊し建物  
 新設駐車場

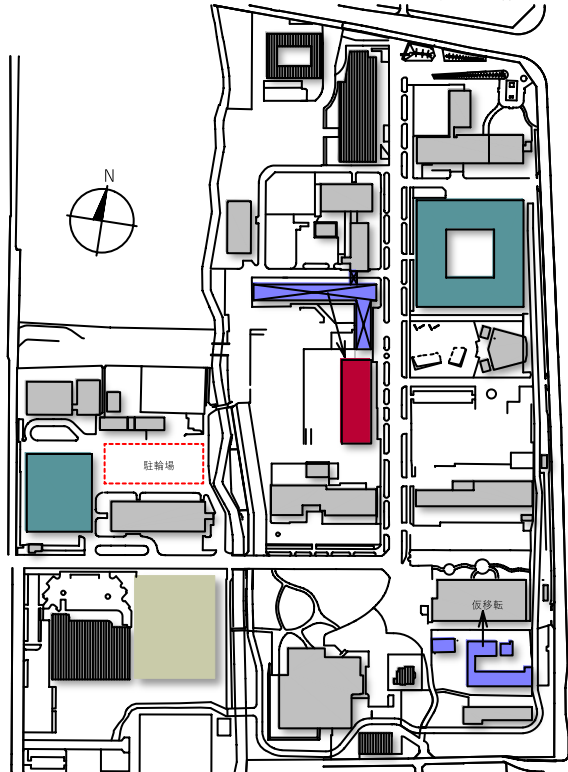
**ステージⅠ** (改築) 教養教育1号館 教育学部5号館  
テニスコートの移転 駐車場の整備



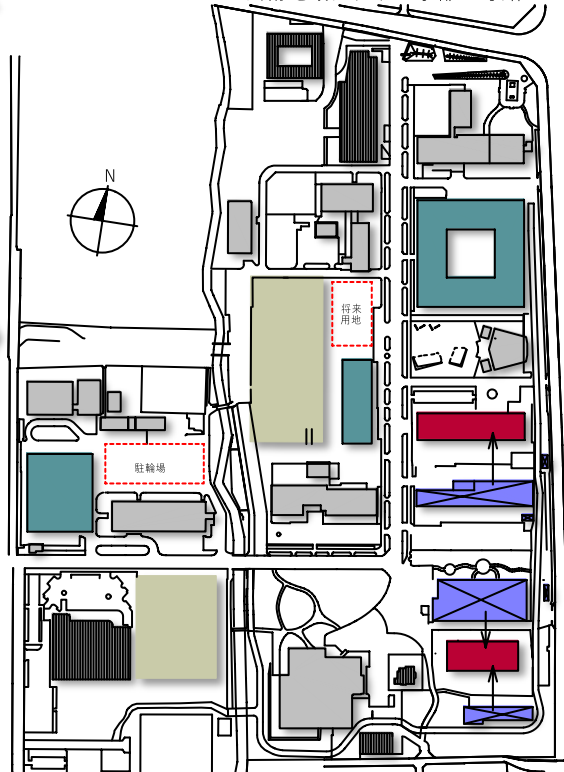
**ステージⅡ** (改築) 教育学部1号館、経済・教育棟  
(学生センター、教育学部2号館)



**ステージⅢ** (改築) 経済・教育棟 (経済学部1号館)  
芸術地域デザイン学部2号館



**ステージⅣ** (改築) 教育学部3号館  
芸術地域デザイン学部3号館



※本資料は一定の条件で建物の立替計画をシミュレーションしたものです。今後の組織の変化や施設の整備方針等、様々な要因により変動する。



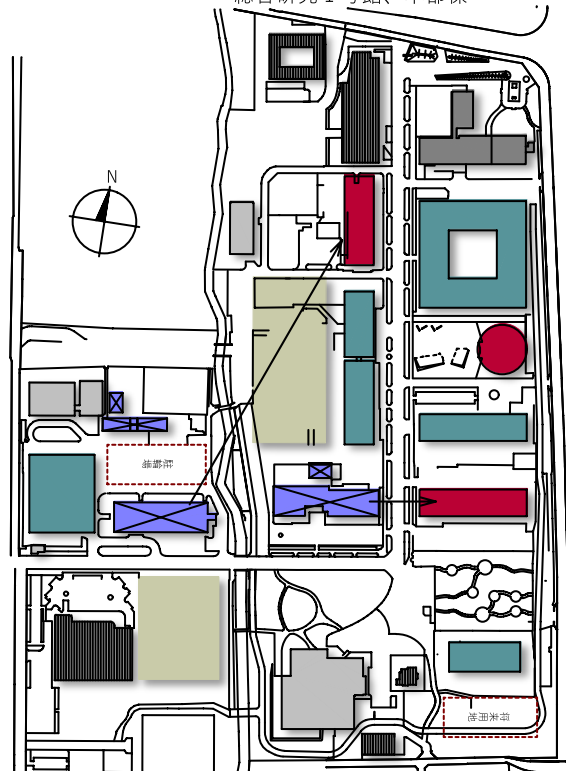
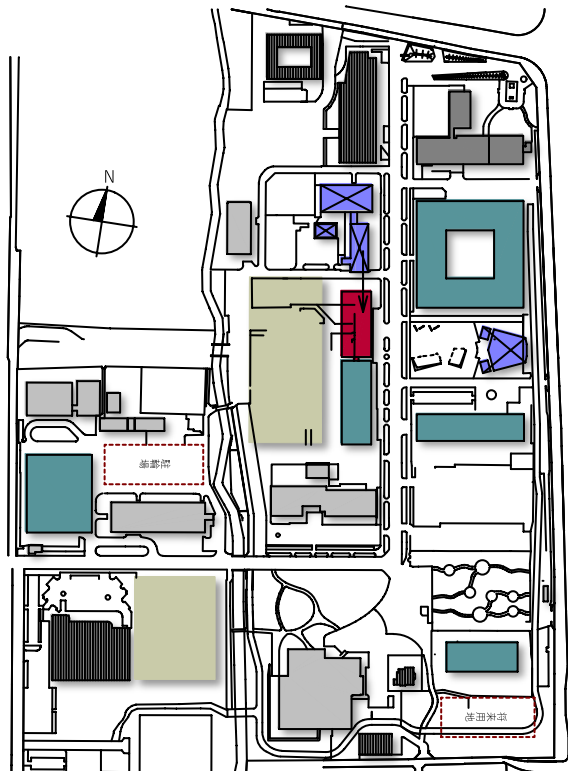
(本庄キャンパス)

(教育・経済・芸術・全学教育・事務局エリア②)

|                  |       |       |
|------------------|-------|-------|
| 既設建物             | 新築建物  | 整備済建物 |
| 既設建物<br>(将来残る建物) | 取壊し建物 | 新設駐車場 |

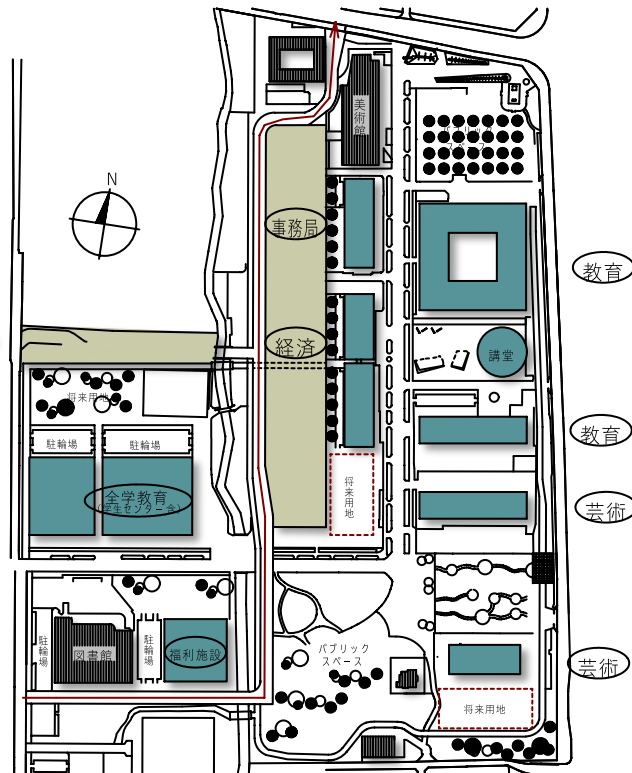
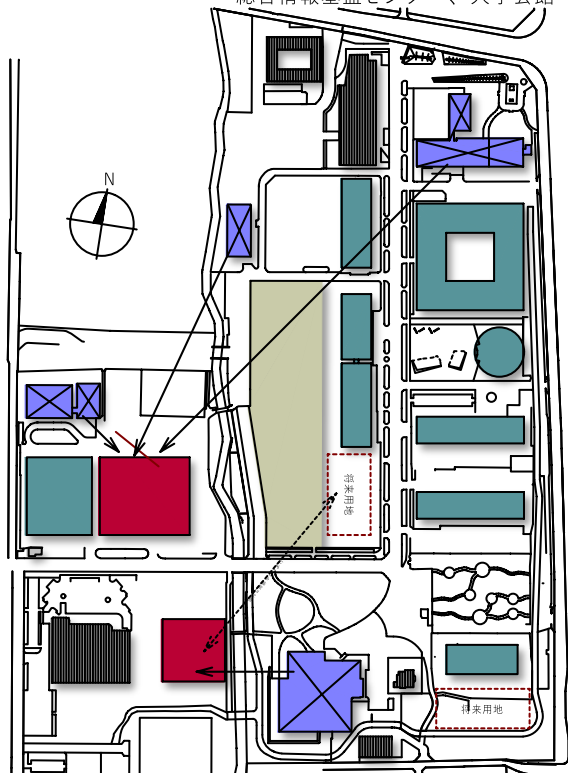
ステージⅤ (改築) 経済学部2・3号館、教養教育大講義室

ステージⅥ (改築) 芸術地域デザイン学部1号館  
総合研究1号館、本部棟



ステージⅦ (改築) 教養教育2号館、経済学部4号館  
総合情報基盤センター、大学会館

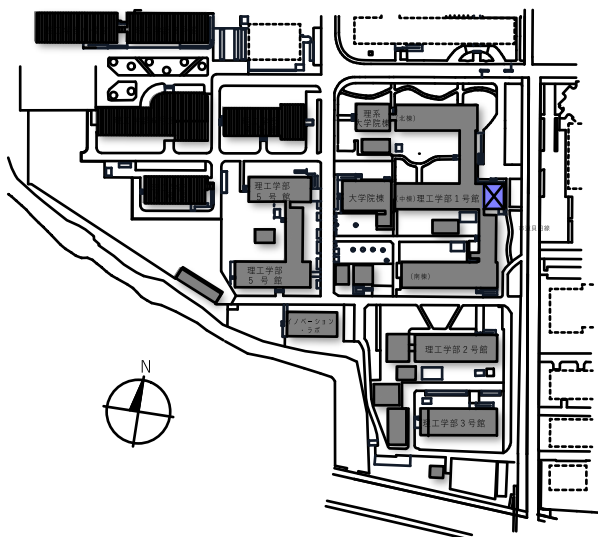
キャンパスマスタープラン



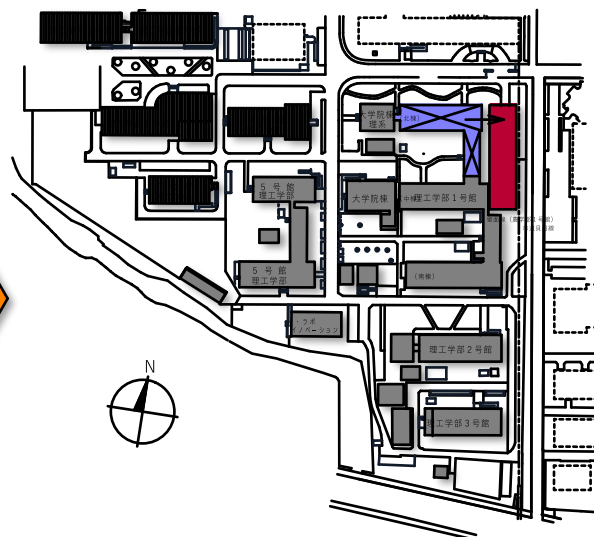
※本資料は一定の条件で建物の立替計画をシミュレーションしたものの。今後の組織の変化や施設の整備方針等、様々な要因により変動する。

(本庄キャンパス)  
(理工エリア①)

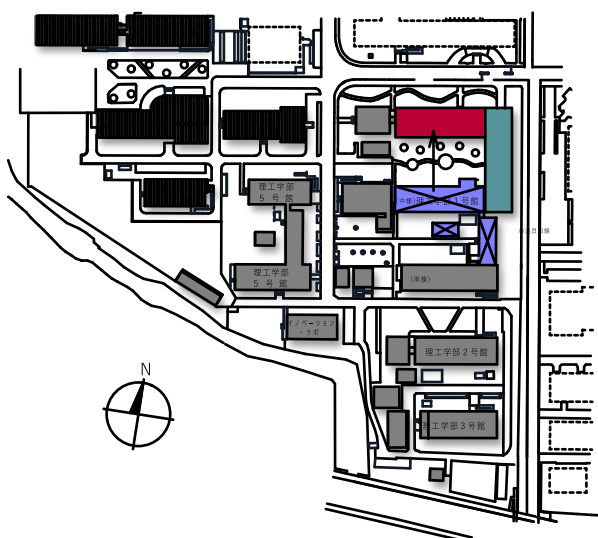
【ステージⅠ】 (取壊し) 地域連携デザイン工房



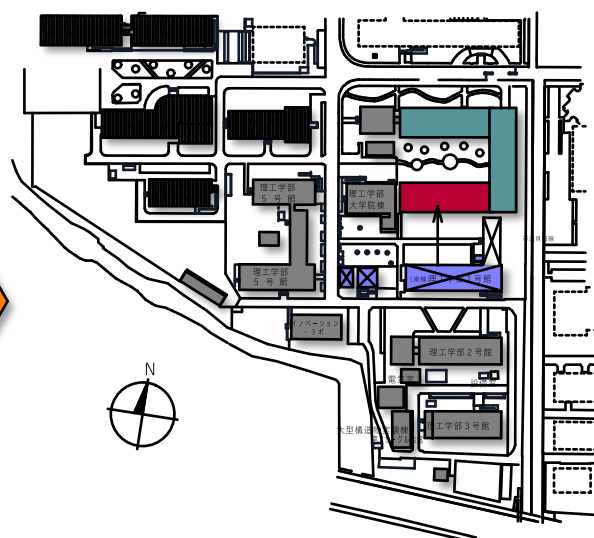
【ステージⅡ】 (改築) 理工学部1号館 (北棟)



【ステージⅢ】 (改築) 理工学部1号館 (中棟)



【ステージⅣ】 (改築) 理工学部1号館 (南棟)

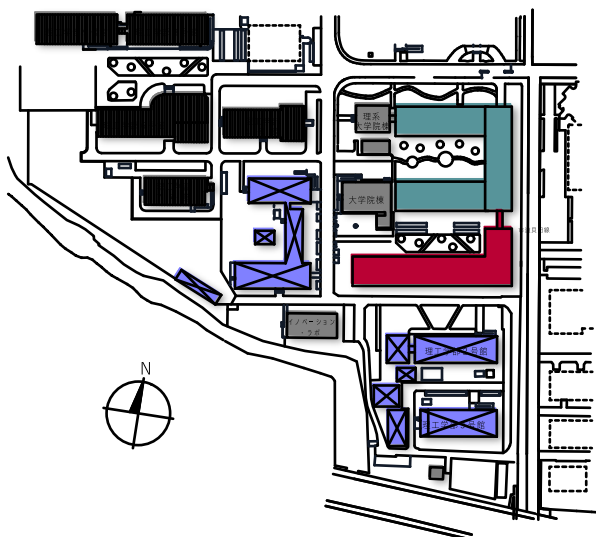


|               |       |       |
|---------------|-------|-------|
| 既設建物          | 新築建物  | 整備済建物 |
| 既設建物 (将来残る建物) | 取壊し建物 | 新設駐車場 |

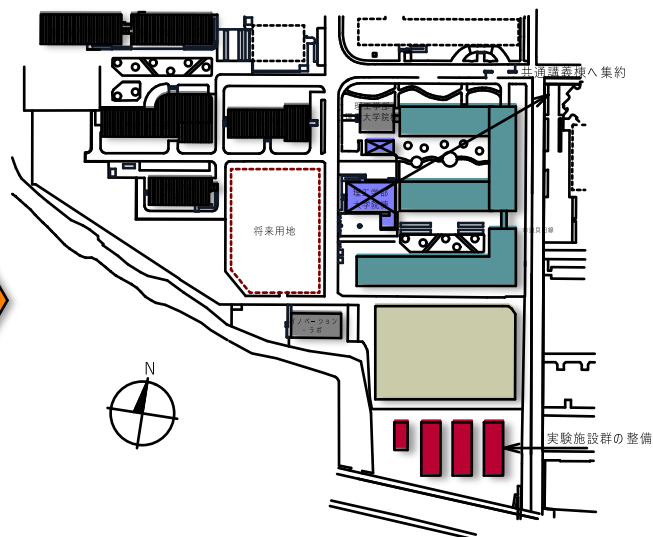
※本資料は一定の条件で建物の立替計画をシミュレーションしたものの。  
今後の組織の変化や施設の整備方針等、様々な要因により変動する。

(本庄キャンパス)  
(理工エリア②)

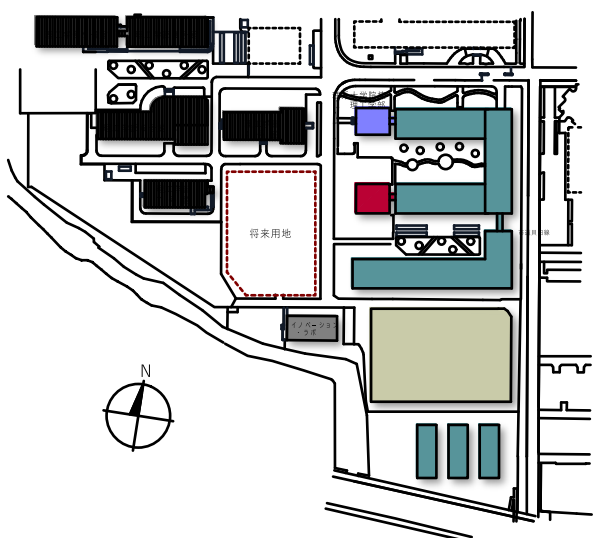
ステージⅤ (改築) 理工学部2・3・5号館



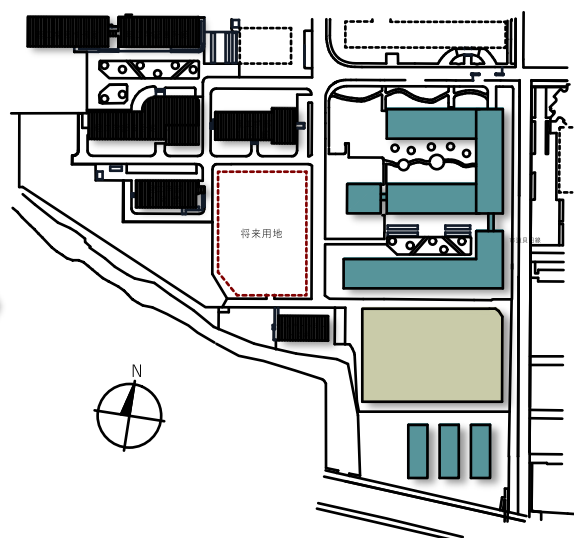
ステージⅥ (改築) 実験施設群、液体窒素製造施設  
理工学部大学院棟



ステージⅦ (改築) 理工学部理系大学院棟



キャンパスマスタープラン

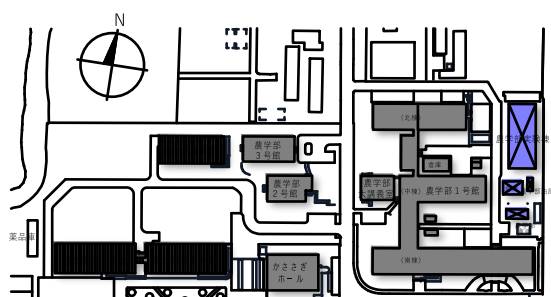


|                  |       |       |
|------------------|-------|-------|
| 既設建物             | 新築建物  | 整備済建物 |
| 既設建物<br>(将来残る建物) | 取壊し建物 | 新設駐車場 |

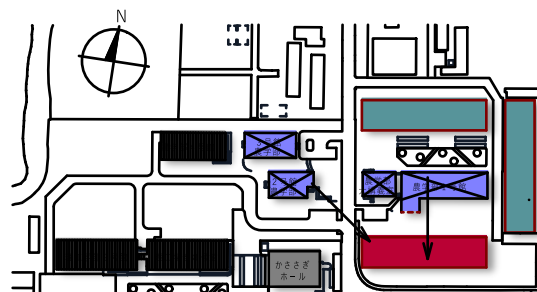
※本資料は一定の条件で建物の立替計画をシミュレーションしたものの。  
今後の組織の変化や施設の整備方針等、様々な要因により変動する。

(本庄キャンパス)  
(農エリア)

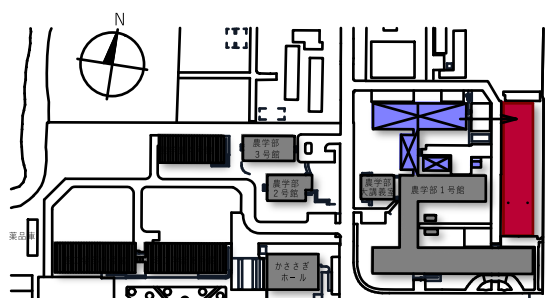
ステージⅠ 農学部実験棟エリアの取壊し



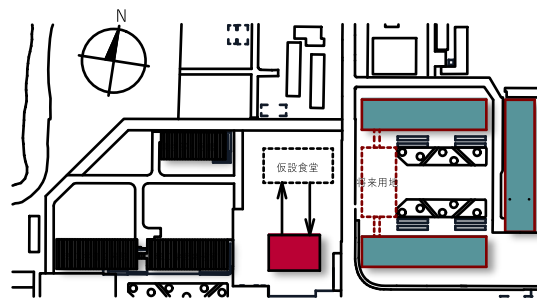
ステージⅣ (改築) 農学部1号館 (中棟)



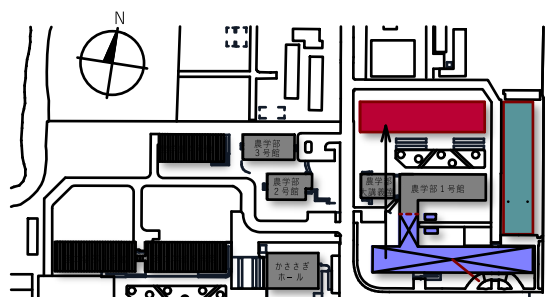
ステージⅡ (改築) 農学部1号館 (北棟)



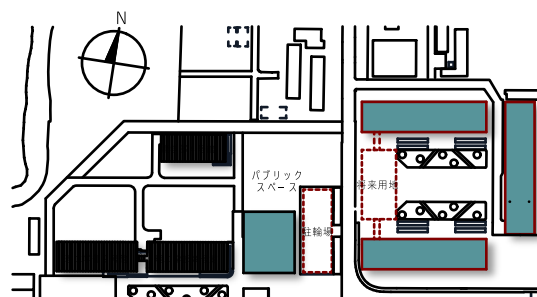
ステージⅤ (改築) かささぎホール



ステージⅢ (改築) 農学部1号館 (南棟)



キャンパスマスタープラン

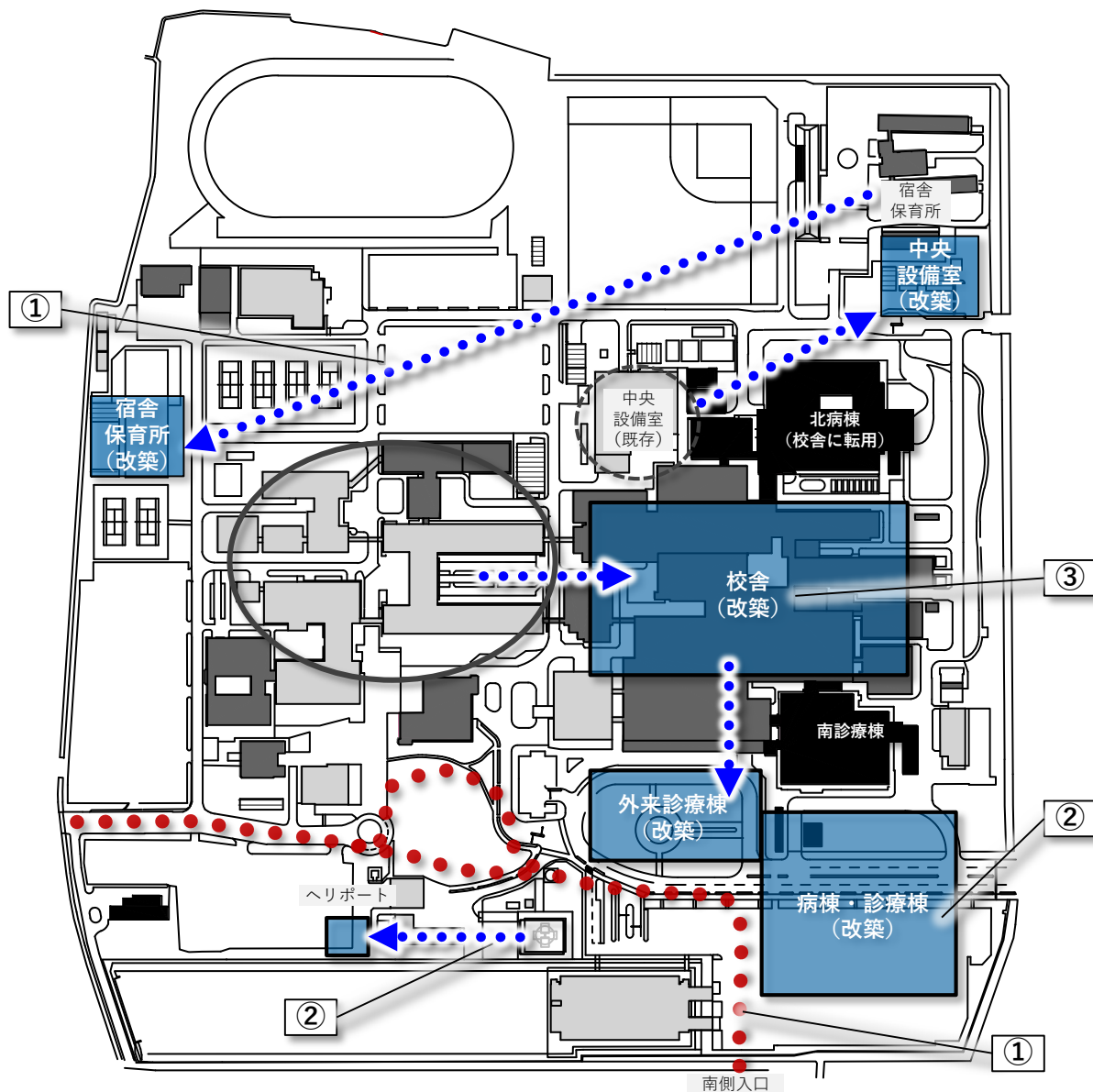


|                  |       |       |
|------------------|-------|-------|
| 既設建物             | 新築建物  | 整備済建物 |
| 既設建物<br>(将来残る建物) | 取壊し建物 | 新設駐車場 |

※本資料は一定の条件で建物の立替計画をシミュレーションしたものの。  
今後の組織の変化や施設の整備方針等、様々な要因により変動する。



(鍋島キャンパス)



(建物の建て替え順序における考察)

建物経年上は医学部施設の方が先に建替え時期となるものの、CMPは、種地である駐車場に病院を改築することとしていることから、「病院⇒校舎」の順に整備する必要がある。

【想定スケジュール】

- 2030年代の改築対象建物
- 2040年代の改築対象建物
- 2050年代の改築対象建物
- 2066年までの改築対象建物
- 2066年以降残る建物

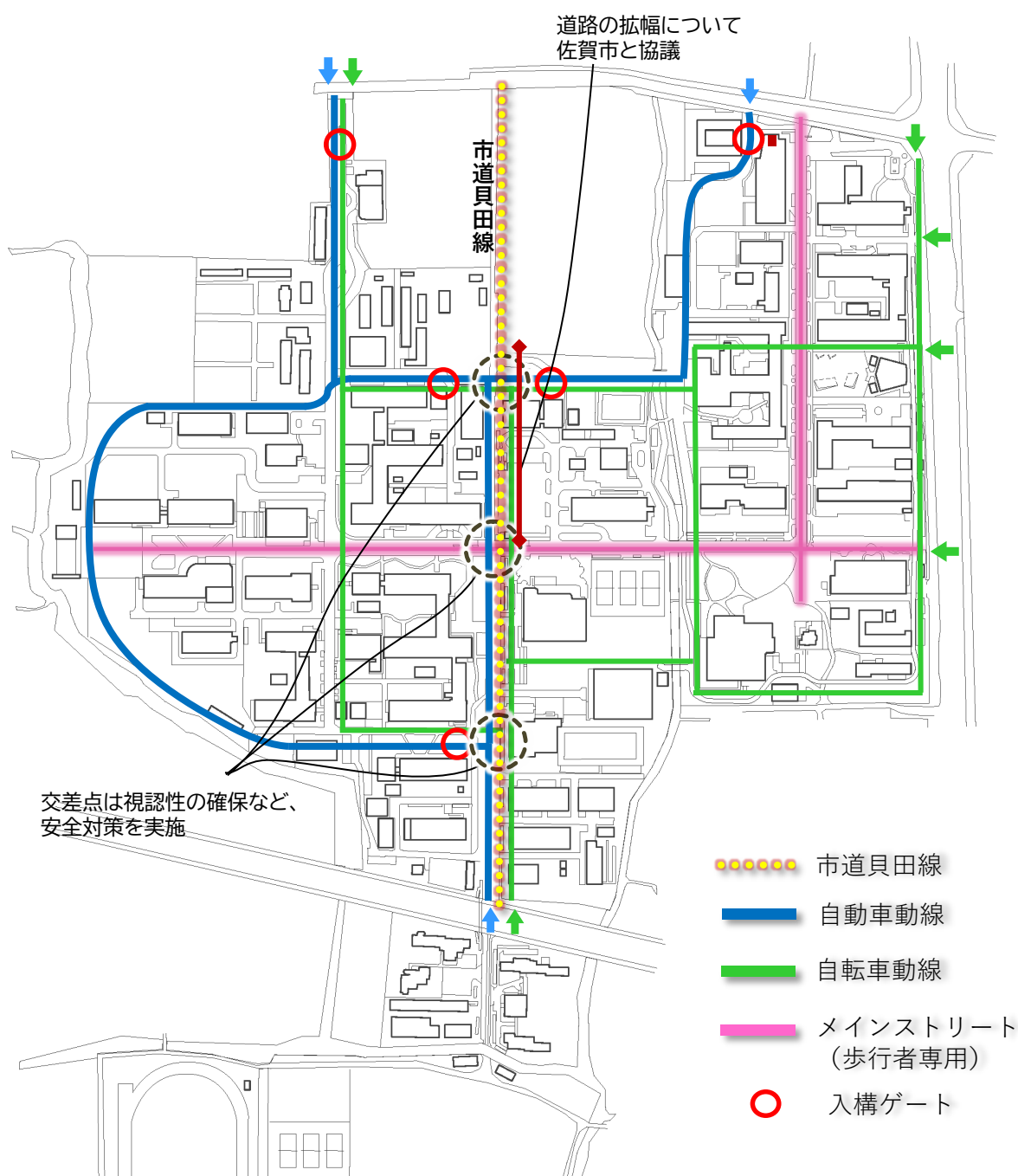
参考資料：インフラ長寿命化個別施設計画2020  
(改修履歴や経年等に基づき改築予定年度を想定)  
※施設の運用方針や老朽状況により変動する

- ① (2040年代後半) 西側入口ー南側入口間の通路整備  
医学部宿舎・保育所の改築  
⇒跡地に中央設備室を整備
- ② (2050年代前半) ヘリポートの移設  
駐車場用地に病棟・診療棟の整備
- ③ (2050年代後半) 旧病院施設の取り壊し・土壌汚染調査  
(2060年代) 北病棟改修・医学部校舎整備  
旧医学部施設の取り壊し・土壌汚染調査

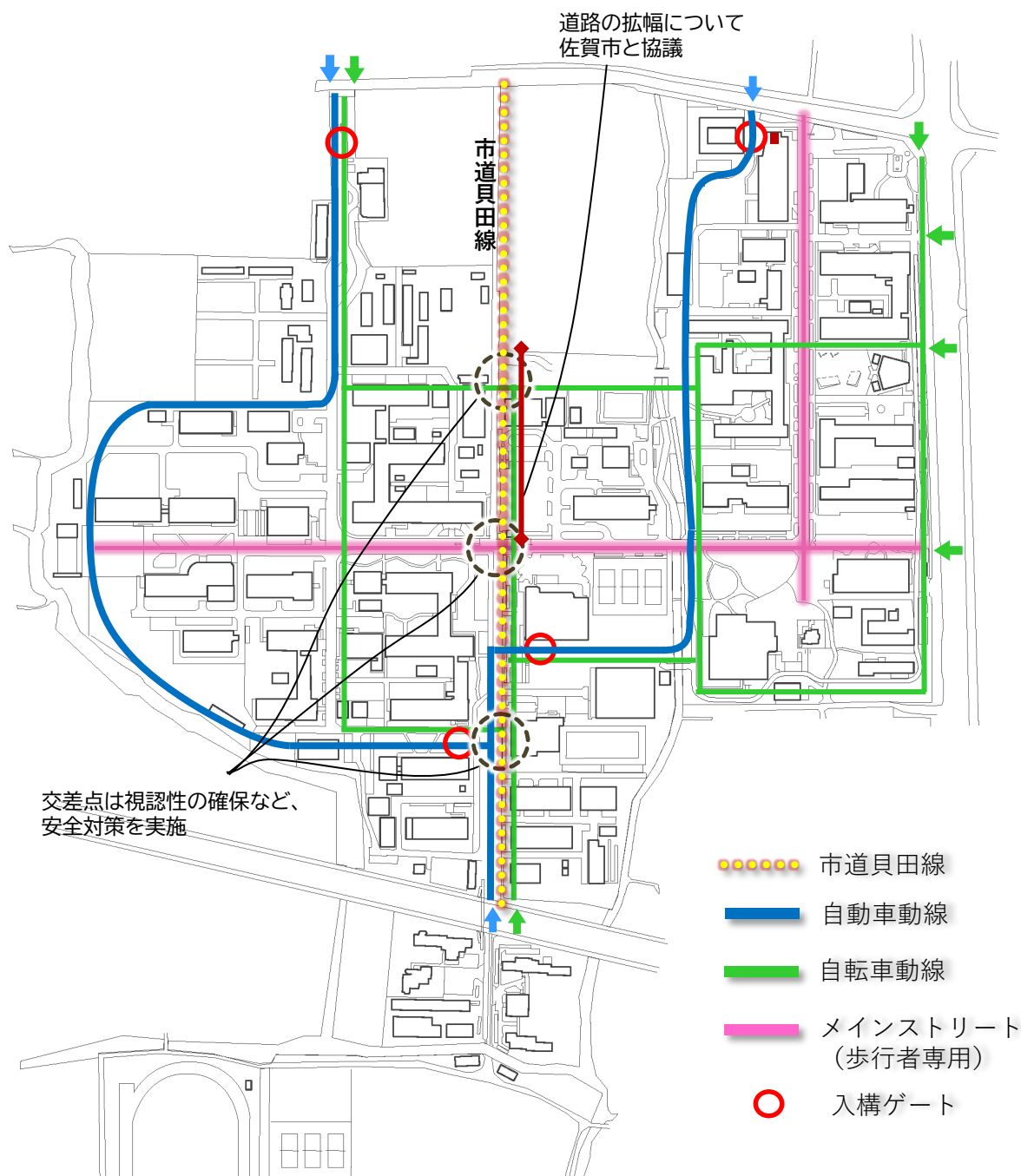
## 付- 8. 市道貝田線の計画

本庄キャンパスの敷地中央部にある市道貝田線は、メインストリートの交差点の安全対策の観点から「周辺の自治会や佐賀市役所と協議を行い、車の通行を止めて安全性を確保する」としています。しかしながら、市との協議において様々な問題点が発生しており、市道貝田線の車の通行を禁止できない場合の代替案を以下に示し、将来の状況変化に応じ柔軟に対応するものとします。

(参考案①) 市道貝田線の自動車通行を前提とし、道路や交差点の安全性を確保



(参考案②) 市道貝田線の自動車通行を前提としつつ、メインストリートとの  
交差点の交通量低減に配慮した動線計画



## 付-9. SDGsを踏まえたキャンパス計画

持続可能な開発目標（SDGs）では2030年を目標年限とした17のゴールと169のターゲットが定められています。SDGsを踏まえたキャンパス計画について以下に示します。

### 【17のゴールのうちキャンパス整備との関連性が高い目標】



- 目標4** すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を推進する。
- 目標5** ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
- 目標7** すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標9** 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
- 目標11** 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する。
- 目標12** 持続可能な生産消費形態を確保する。
- 目標13** 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
- 目標15** 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。



【関連ターゲットに対応したキャンパス計画】

目標4 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を推進する。



(関連ターゲット)

- 4.a 安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供する。  
子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、  
すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供  
できるようにする。



<キャンパス整備における対応>

キャンパスのバリアフリー化、イノベーション・commons化の推進

目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。



(関連ターゲット)

- 5.b 女性の能力を強化する。女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする  
実現技術の活用を強化する。



<キャンパス整備における対応>

キャンパスのICT環境の強化、ジェンダーレス化の推進

目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。



(関連ターゲット)

- 7.3 エネルギー効率の改善率を増やす  
2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。



<キャンパス整備における対応>

省エネ機器の採用

目標9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。



(関連ターゲット)

- 9.4 資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業  
プロセスの導入拡大により持続可能性を向上させる。



<キャンパス整備における対応>

建築分野での新技術の導入、再生可能エネルギーの導入

**目標11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する  
持続可能な生産消費形態を確保する。**



（関連ターゲット）

11.6 大気や廃棄物を管理し、都市の環境への悪影響を減らす。

11.7 緑地や公共スペースへのアクセスを提供する。



<キャンパス整備における対応>

**カーボンニュートラルキャンパスの推進、開かれたキャンパスの実現**

**目標12 持続可能な生産消費形態を確保する。**



（関連ターゲット）

12.5 廃棄物の発生を減らす。



<キャンパス整備における対応>

**施設の長寿命化による建設廃棄物の低減**

**目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。**



（関連ターゲット）

13.1 気候関連災害や自然災害に対する強靱性と適応能力を強化する。



<キャンパス整備における対応>

**施設の老朽改善整備合わせた防災・減災対策**

**目標15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる**



（関連ターゲット）

15.1 陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保



<キャンパス整備における対応>

**キャンパス内の緑地保全・確保**

## 付-10. その他

### (1) 佐賀大学カラーコード

佐賀大学では、大学や各部局のイメージ定着化のためにカラーコードを設定しています。

|            |         |                                                                                      | (C,M,Y,K)    |
|------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| スクールカラー    | (青紫)    |    | 90,50,0,0    |
| スクールカラー    | (青緑)    |    | 80,0,40,0    |
| 教育学部       | (橙)     |    | 0,70,80,0    |
| 芸術地域デザイン学部 | (桃)     |   | 20,70,0,0    |
| 経済学部       | (山吹)    |  | 10,30,100,0  |
| 医学部        | (えんじ)   |  | 19,78,58,4   |
| 理工学部       | (紺)     |  | 100,45,0,0   |
| 農学部        | (緑)     |  | 80,10,60,0   |
| 全学教育機構     | (空)     |  | 60,10,0,0    |
| 共用利用施設     | (灰)     |  | 40,30,20,0   |
| その他施設      | (カーキ)   |  | 50,55,70,0   |
| 事務局        | (クリムゾン) |  | 30,100,100,0 |

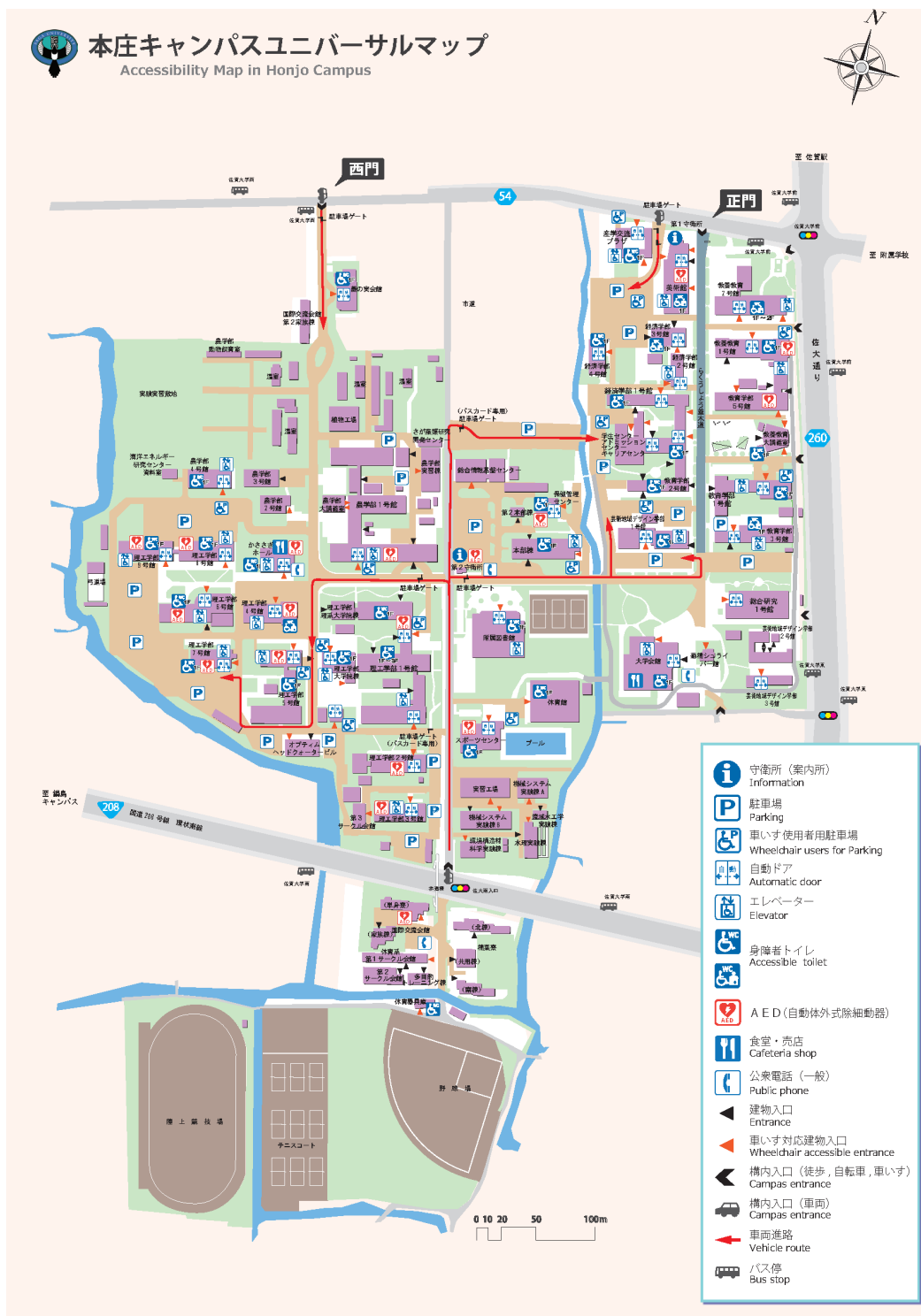
## (2) ユニバーサルマップ

佐賀大学では、ユニバーサルデザインの考え方をもとに、だれもが安心して過ごせるキャンパスづくりを実現するため、建物入口・車いす対応建物入口・エレベーター等のバリアフリー情報に加え、「バリアフリースイレ」や「AED(自動体外式除細動器)」を掲載しています。

今後も各設備を充実化し、よりよいキャンパスの整備に努めてまいります。

(本庄キャンパス)

[http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00\\_pdf/1.universalmap-honjo.pdf](http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00_pdf/1.universalmap-honjo.pdf)





(鍋島キャンパス)

[http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00\\_pdf/universalmap-nabeshima.pdf](http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/00_pdf/universalmap-nabeshima.pdf)



### (3) 部門別計画一覧（現状・課題・対策）

（本庄キャンパス）

| 項目             | 現状                                        | 課題                                                                                                                                                                    | 対策                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) ゾーニング      | 配置図に現状のゾーニングを記載                           | 1 小規模なゾーンが入り乱れている。<br>2 キャンパス中央の一等地に運動ゾーンがある。<br>3 緑地ゾーンが少ない。                                                                                                         | 1 ゾーンの集約整理<br>・正門前は地域との交流のため共通ゾーンを拡大する。<br>・法人本部棟を正門周辺に移転し、跡地に共通教育講義棟を集約する。<br>・法人本部跡地付近に学生生活を支援する施設や機能（学生支援室、保健管理施設等）を集約する。<br>2 運動ゾーンの縮小整理<br>・図書館西側のテニスコートを国道208号南の運動ゾーンに集約する。<br>3 緑地ゾーンの拡大                                                                                          |
| (2) 動線         | 配置図に現状の歩行者動線・車両動線を記載<br>混雑状況の写真を例示        | 1 市道貝田線とメインストリートの動線が交わっているため、事故発生の危険性が高い。<br>2 メインストリートにおいて、歩行者、自転車、車の動線が混在しているため、事故発生の危険性が高い。<br>3 国道208号線に架かる歩道橋は、横断歩道が整備されたため利用者が減少している。ただし、大学入口への誘導サインとして活用されている。 | 1 市道貝田線は自治体等と協議し安全性を確保する。また、市道廃止等に関する佐賀市との協議を継続して行う。<br>2 メインストリートは原則車両を通行止め（歩行者専用通路）とし、車両のメイン動線をキャンパスの外周部に整備する。（救急車両やサービス車両等は建物の近くにアクセス可能な計画とする。）<br>3 歩道橋は佐賀大学入口のサインとして活用するなど当面は使用し、代替のサイン整備が可能となった場合は廃止する。                                                                            |
| (3) パブリックスペース  | 配置図に基にパブリックスペースを記載<br>整備状況を記載             | 1 キャンパス東側には、まとまって確保されているがキャンパス西側に不足している。<br>2 イノベーション・commonsを促進させるため、適切な位置に交流を生み出す外部空間を整備する必要がある。                                                                    | 1 理工学部8号館周辺に（パブリックスペース）を確保する。<br>2 メインストリート沿いにパブリックスペースを連続して配置し、キャンパスのイノベーション・commons化に寄与する交流空間を形成する。                                                                                                                                                                                    |
| (4) 駐車場        | 配置図に駐車場の位置を記載<br>混雑状況の写真を例示               | 1 駐輪場がキャンパスに広く点在し、また自転車だけでなく自動車もキャンパスの奥へ入構するため、歩行者と接触事故の危険性がある。<br>2 駐車場収容台数に余裕がない。<br>3 自転車の利用者が多く、人の動きが集中する時間帯には所定外の場所に自転車を停めるなど駐輪のマナーに問題がある。                       | 1 駐車場は自動車動線沿いに配置する。ただし、バリアフリー対応の駐車場は改修工事等に合わせた建物の近くにも計画し安全な移動経路を確保する。<br>2 地域開放等に対応するための駐車場収容台数を確保する。<br>3 駐輪場（自転車置場）は、校舎と校舎の間に適宜設ける。また、駐輪場には屋根の設置を進める等、駐輪場の利用をを誘導する。バイク置き場は、出入口周辺に適宜設ける。                                                                                                |
| (5) 緑地         | 配置図に緑地の位置を記載<br>らくうしょう並木や桜並木等の写真や危険箇所等を例示 | 1 視界を妨げている植栽など、事故の危険性が高い植栽がある。<br>2 安全面に配慮した上で計画的な植樹を行い、良質なキャンパス環境を形成する必要がある。                                                                                         | 1 緑地の管理が行き届くよう、適正な規模に整理し、魅力的な空間の形成に寄与する。<br>・ラクウショウ並木は大学のシンボルとして保存。<br>・アベリアは移植。<br>2 パブリックスペースは計画的な植樹を行う。                                                                                                                                                                               |
| (6) ユニバーサルデザイン | 配置図に段差解消が不十分な箇所等を例示                       | 1 スロープが設置されていない等、段差解消が不十分な場所がある。<br>2 通行に影響のある道路を計画的に改善する必要がある。                                                                                                       | 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等の関連の整備マニュアルを基に整備を行う。<br>2 安全対策を図りつつ、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン（誘導基準）の視点も重視した整備を行う。                                                                                                                                                                                      |
| (7) サイン        | 配置図にサインの状況を例示                             | 1 正門エリア以外のデザインが統一されていない。<br>2 外国語表記がないものがある。<br>3 組織改編や建物名称の変更等に対し適切に名称の更新ができていない。<br>4 駐車場からの誘導サインが不足。                                                               | 1 外部サインはキャンパス全体において統一を図る。内部サインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする。<br>2 サイン計画の詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う。<br>3 組織再編や新たなキャンパス整備などでサインの情報が古くならないよう維持管理を行う。<br>4 来客者が迷わないよう、適切な場所に案内サインを整備する。                                                                                                  |
| (8) アート        | 配置図にキャンパスアートの状況を記載                        | 1 各所にアート作品が展示されているが、芸術に強みを持つ大学として、今後も注力していく。                                                                                                                          | 芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体がアートの空間となり、魅力あるイノベーション・commonsとしてデザインされた空間となる施設整備を推進する。作品はパブリックスペース等の共用部への配置を基本とし、企画段階から製作者と設置場所に応じたコンセプト、周囲の調和等について検討を行う。パブリックスペースは、学生の創作展示の場としても活用する。                                                                                                             |
| (9) 基幹設備       | 基幹設備の状況を一概に記載                             | 経年進行により部品供給停止となった設備機器や更新を迎える時期となった各設備について、将来への対応やキャンパスの省エネルギー化の視点も踏まえ計画的に整備する必要がある。                                                                                   | 1 安全・安心を支える基幹設備計画<br>更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要個所を集中的に予防保全する。また、佐賀市排水対策基本計画をはじめとした域内の防災対策等を注視しつつ、災害に強いキャンパス整備を推進する。<br>2 質の高い教育・研究活動を支える基幹設備計画<br>建物の将来計画や教育研究内容の変化に追従可能となるような、強靱かつ柔軟性のあるシステムを採用する。<br>3 カーボンニュートラルキャンパスに貢献する基幹設備計画<br>CO2排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入を進める。 |
| (10) 施設整備      |                                           |                                                                                                                                                                       | ・既存建物は性能維持改修をしっかりと行い、キャンパス全体の施設の長寿命化に努める。<br>・改築の際は施設機能の規模の最適化や他施設との集約化に努めるとともに、外観デザインや建物高さの考慮など環境に配慮したサステイナブルな建築を行う。                                                                                                                                                                    |

(鍋島キャンパス)

| 項目             | 現状                                        | 課題                                                                                                    | 対策                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) ゾーニング      | 配置図に現状のゾーニングを記載                           | 1 次期病院の再整備を見据えたゾーニングにより計画的な整備を実施する必要がある。                                                              | 1 次期病院再整備による改築を見据えたゾーニング計画<br>・現状の南東側の駐車場用地に病院施設を整備する。<br>・現状の病院エリア北側の跡地に、校舎機能の施設を整備する。                                                                                                                                                                                                      |
| (2) 動線         | 配置図に現状の歩行者動線・車両動線を記載<br>混雑状況の写真を例示        | 1 キャンパスを貫く道路は、幅が狭く見通しも悪い<br>ため歩行者にとって危険な面がある。<br>2 医学部から附属病院への移動経路について、病室や研究室前の廊下を通過するなど、改善が必要な経路がある。 | 1 外周部に歩車分離を行った自動車動線を整備し、安全性を確保する。<br>2 建物の改築は、学生・教職員・患者等それぞれの目的・利便性に配慮した動線計画を行う。                                                                                                                                                                                                             |
| (3) パブリックスペース  | 配置図に基にパブリックスペースを記載<br>整備状況を記載             | 1 教育研究ゾーンのパブリックスペースを充実させる必要がある。                                                                       | 1 ゾーニングに対してバランス良く配置し、キャンパスのイノベーション・コモンズ化に寄与する交流空間を形成する。                                                                                                                                                                                                                                      |
| (4) 駐車場        | 配置図に駐車場の位置を記載<br>混雑状況の写真を例示               | 1 附属病院の再整備による病院規模の拡大により、駐車場が慢性的に不足している。                                                               | 1 駐車場は自動車動線沿いに配置する。ただし、バリアフリー対応の駐車場は建物の近くにも計画し安全な移動経路を確保する。<br>2 病院再整備に対応するため、駐車場収容台数を増加する。<br>3 駐輪場（自転車置場）は、病院は駐車場周辺に設け、校舎は校舎と校舎の間に適宜設ける。また、駐輪場には屋根の設置を進め、指定場所への駐輪を誘導する。                                                                                                                    |
| (5) 緑地         | 配置図に緑地の位置を記載<br>らくうしょう並木や桜並木等の写真や危険箇所等を例示 | 1 樹木が視界を妨げ、事故の危険性が高い場所がある。<br>2 キャンパスの顔となる場所に緑地が多く、維持管理をしっかりと行う必要がある。                                 | 1 緑地の管理が行き届くよう、適正な規模に整理し、魅力的なパブリックスペースの形成に寄与する。<br>・築山庭園は大学のシンボルとして周辺施設の改築に併せて移設。<br>2 パブリックスペースは計画的な植樹を実施する。                                                                                                                                                                                |
| (6) ユニバーサルデザイン | 配置図に段差解消が不十分な箇所等を例示                       | 1 スロープが設置されていない等、段差解消が不十分な場所がある。<br>2 通行に影響のある道路を計画的に改善する必要がある。                                       | 1 バリアフリー化を進めるため、法令、条例等の関連の整備マニュアルを基に整備を行う。<br>2 安全対策を図りつつ、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン（誘導基準）の視点も重視した整備を行う。                                                                                                                                                                                          |
| (7) サイン        | 配置図にサインの状況を例示                             | 1 病院エリア以外のデザインが統一されていない。<br>2 外国語表記がないものがある。<br>3 経年劣化等で不明瞭なサインがある。<br>4 駐車場からの誘導サインが不足。              | 1 外部サインはキャンパス全体において統一を図る。内部サインはデザインの統一を図りつつ、部局毎に個性を考慮したものとする。<br>2 サイン計画の詳細については別途デザインマニュアルを策定して整備を行う。<br>3 組織再編や新たなキャンパス整備などでサインの情報が古くならないよう維持管理を行う。<br>4 来客者が迷わないよう、適切な場所に案内サインを整備する。                                                                                                      |
| (8) アート        | 配置図にキャンパスアート artwork の状況を記載               | 1 各所にアート作品が展示されているが芸術に強みを持つ大学として、今後も注力してゆく。                                                           | 芸術に強みを持つ大学として、キャンパス全体がアートの空間となり、魅力あるイノベーション・コモンズとしてデザインされた空間となる施設整備を推進する。作品はパブリックスペース等の共用部への配置を基本とし、企画段階から製作者と設置場所に応じたコンセプト、周囲の調和等について検討を行う。                                                                                                                                                 |
| (9) 基幹設備       | 基幹設備の状況を一覧に記載                             | 経年進行により部品供給停止となった設備機器や更新を迎える時期となった各設備について、将来への対応やキャンパスの省エネルギー化の視点も踏まえ計画的に整備する必要がある。                   | 1 安全・安心を支える基幹設備計画<br>更新計画や点検計画を定期的に見直すとともに、重要箇所を集中的に予防保全する。また、佐賀市排水対策基本計画をはじめとした域内の防災対策を注視しつつ、災害に強いキャンパス整備を推進する。<br>2 質の高い教育・研究活動を支える基幹設備計画<br>教育研究の変化への対応や災害時にも適切な診療機能が確保できるよう、強靱かつ継続性のある基幹設備計画を行う。<br>3 カーボンニュートラルキャンパスに貢献する基幹設備計画<br>CO2 排出量や光熱水量の削減に資するべく、高効率機器への転換や、自然エネルギー利用設備の導入を進める。 |
| (10) 施設整備      |                                           |                                                                                                       | ・既存建物は性能維持改修をしっかりと行い、キャンパス全体の施設の長寿命化に努める。ただし、次期病院再整備に影響のある地上ヘリポートおよび立体駐車場は改築することを想定する。<br>・改築の際は施設機能の規模の最適化や他施設との集約化に努めるとともに、外観デザインや建物高さの考慮など環境に配慮したサステナブルな建築を行う。                                                                                                                            |

# 佐賀大学キャンパスマスタープラン2022 検討経緯

## 課題整理・基本方針等

令和3年3月5日（金） 施設マネジメント委員会  
・キャンパスマスタープラン2016の改訂について

（本庄・鍋島）第1回WG 令和3年9月29日（水）  
・基本方針・整備方針・活用方針案について  
・キャンパスマスタープラン2016の概要および改訂に向けた課題等について

（鍋島）第2回WG 令和3年12月15日（水）  
・正門の計画経緯について  
・地上ヘリポートによる施設規模の影響について  
・部門別計画案について  
・キャンパスマスタープランの対策時期について  
・キャンパス内の浸水想定範囲について

（本庄）第2回WG 令和3年12月24日（金）  
・部門別計画案について  
・キャンパスマスタープランの対策時期について  
・キャンパス内の浸水想定範囲について

（本庄）第3回WG 令和4年3月2日（水）  
・建物の建て替え計画について  
・メインストリートの計画について  
・部門別計画の修正案について

令和4年3月14日（月） 施設マネジメント委員会  
・キャンパスマスタープラン2016の改訂について（WG中間報告）

（鍋島）第3回WG 令和4年5月10日（火）  
・キャンパスの周辺道路および用途地域について  
・部門別計画案の修正について

（本庄）第4回WG 令和4年7月11日（月）  
・市道貝田線について  
・イノベーション・commonsについて

（本庄）第5回WG 令和4年9月21日（水）  
・キャンパスマスタープラン2022（案）について

（鍋島）第4回WG 令和4年9月30日（金）  
・イノベーション・commonsについて  
・キャンパスマスタープラン2022（案）について

令和4年11月15日（火） 施設マネジメント委員会（審議）  
・佐賀大学キャンパスマスタープラン2022（案）について

令和4年12月14日（水） 役員会（協議）  
・佐賀大学キャンパスマスタープラン2022について

パブリックコメント 令和4年12月15日～令和4年12月28日

令和5年1月25日（水） 役員会（審議）  
・佐賀大学キャンパスマスタープラン2022について

## 部門別計画等

## 合意形成等



# 佐賀大学キャンパスマスタープラン2022

## 施設マネジメント委員会

|             |        |
|-------------|--------|
| 理事（委員長）     | 山崎 英司  |
| 理事          | 渡 孝則   |
| 理事          | 山下 宗利  |
| 理事          | 寺本 憲功  |
| 教育学部長       | 小野 文慈  |
| 芸術地域デザイン学部長 | 吉住 磨子  |
| 経済学部長       | 檉澤 秀木  |
| 医学部長        | 末岡 榮三朗 |
| 理工学部長       | 豊田 一彦  |
| 農学部長        | 大島 一里  |
| 全学教育機構長     | 岩本 諭   |
| 附属図書館長      | 中里 理子  |
| 保健管理センター長   | 木道 圭子  |
| 医学部附属病院長    | 野口 満   |
| 財務部長        | 神達 進   |
| 環境施設部長      | 森 徳明   |
| 学務部長        | 秋保 聡   |
| 学術研究部長      | 唐沢 裕之  |

（R4年4月）

## キャンパスマスタープラン検討WG

### （本庄キャンパス）

|              |        |
|--------------|--------|
| 理工学系 教授（WG長） | 三島 伸雄  |
| 教育学系 教授      | 板橋 江利也 |
| 芸術学系 准教授     | 花田 伸一  |
| 経済学系 准教授     | 児玉 弘   |
| 理工学系 准教授     | 平瀬 有人  |
| 農学系 准教授      | 光武 進   |
| 全学教育機構 教授    | 福留 健司  |
| 学務部長         |        |
| （～R 4.3）     | 大西 真次  |
| （R 4.4～）     | 秋保 聡   |
| 環境施設部長       | 森 徳明   |
| 佐賀県 県土整備部 室長 | 松尾 浩幸  |

### （鍋島キャンパス）

|              |        |
|--------------|--------|
| 理工学系 教授（WG長） | 三島 伸雄  |
| 医学系 教授       | 安田 浩樹  |
| 医療系 教授       | 倉富 勇一郎 |
| 医学部事務部長      |        |
| （～R 4.3）     | 内藤 浩幸  |
| （R 4.4～）     | 北島 博文  |
| 環境施設部長       | 森 徳明   |
| 佐賀県 県土整備部 室長 | 松尾 浩幸  |

令和5年1月25日 策定

編集・発行 佐賀大学環境施設部

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

<http://www.shisetsu.admin.saga-u.ac.jp/>





SAGA UNIVERSITY  
国立大学法人

佐賀大学